DiMAGE X20

J 使用説明書

DiMAGE X20 使用説明書

目次

撮影メニュー 42

フラッシュモードや画像サイズなど、メニューで様々な設定を変更することができます。必要に応じてお読みください。

動画撮影モード 82

動画の撮影方法ついて詳しく説明しています。動画撮影の前に一通りお読みください。

次ページへ続く

再生メニュー 87

再生時のいろいろな機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

セットアップメニュー 129

液晶モニターの明るさやメニュー表示言語、操作音・シャッター音などカメラの細かな設定を変更できます。必要に応じてお読みください。

パソコンへの接続 141

このカメラで撮影した画像をお持ちのパソコンに取り込む方法や、カメラを画像入力装置として使用する方法（PCカメラ）について説明しています。

その他 169

一般的な注意事項や、トラブル時の処置等を記載しています。

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

危険 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う危険性が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

警告 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発火注意）

⚠ 警告

電池の取り扱いを誤ると、液漏れによる周囲の汚損や、発熱や破裂による火災やケガの原因となりますので、次のことは必ずお守りください。

●指定された電池以外は使わないでください。

●電池の極性（＋／－）を逆に入れないでください。

●表面の被膜が破れたり、はがれたりした電池は使用しないでください。

●電池のショート、分解、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。また金属類と一緒に保管しないでください。

●新しい電池と古い電池、メーカーや種類の異なる電池、充電状態の異なる電池を混ぜて使用しないでください。

●アルカリ電池は充電しないでください。

●充電式電池を充電する場合は、専用の充電器をご使用ください。

●万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

⚠ 警告

ACアダプターをご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光させると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

次ページへ続く

⚠警告

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。

転倒や交通事故の原因となります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を抜き（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。

使用を続けると、火災や感電の原因となります。裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにご相談ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。

爆発や火災の原因となります。

ACアダプターをご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、ACアダプターを持って抜いてください。

コードが傷むと火災や感電の原因となります。コードが傷んだら、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に交換をご依頼ください。

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分注意してください。

使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

⚠ 注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。
外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。
本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

長時間の使用後は、すぐに電池やカードを取り出さないでください。
電池やカードが熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

次ページへ続く

⚠ 注意

ACアダプター使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。

電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ACアダプターを布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。

熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時にアダプターが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、ACアダプターをコンセントから抜いてください。

火災や感電の原因となります。

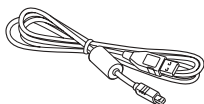
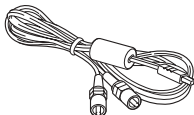
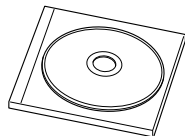
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

はじめに

お買い上げありがとうございます。
ミノルタディマージュX20は、軽量・コンパクトなボディに光学3倍ズーム機能を搭載したデジタルカメラです。屈曲光学系の採用により超薄型ボディを達成、メインスイッチを入れるとすぐに撮影ができる快適さに加え、音声付き動画の記録も可能です。
ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

内容物の確認

お買い上げのパッケージに梱包されているのは以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

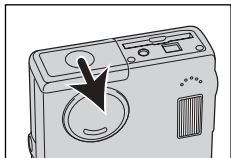
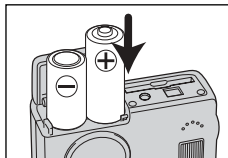
- □ カメラ本体（ミノルタDiMAGE X20）
- □ ネックストラップ NS-DG500 (P.18、175)
- □ 単3形アルカリ乾電池 2本(P.19)
- □ SDメモリーカード(P.22)
- □ USBケーブル USB-500 (P.144)

- □ AVケーブル AVC-200 (P.39)

- □ DiMAGEビューアー CD-ROM(P.142～)

- ☑ 本使用説明書
- □ DiMAGE Viewer使用説明書（ディマージュビューアー）
- □ アフターサービスのご案内
- □ 保証書
- □ ミノルタからのお知らせ

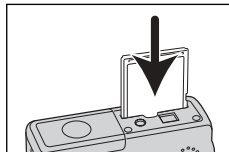
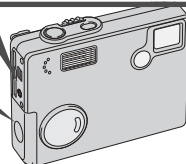
ユーザー登録について

本製品をご使用になる前に、お早めにユーザー登録をお済ませください。同梱されている「ミノルタからのお知らせ」に記載の弊社ホームページからオンライン登録を行っていただけます。

早分かり　詳しくは本文をご覧ください。

準備をする

1 電池を入れます。　→P.19

電池室ふたを矢印の方向にスライドさせます。

電池室内の＋／－表示にしたがって、電池を入れます。

2 カードを入れます。　→P.22

カチッと音がするまで、カードを押し込みます。

撮影する　P.28

1 メインスイッチを押して電源を入れます。

ON/OFF

2 撮影モード切り替えレバーを合わせます。

撮影

動画撮影

3 上下レバーで撮りたいものの大きさを決めます。

望遠

広角

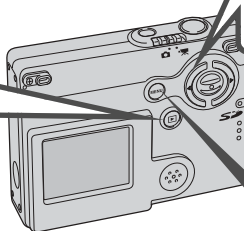
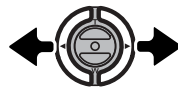
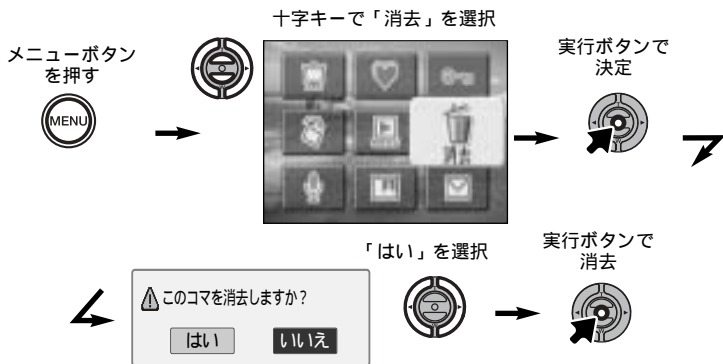
4 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

半押し

5 シャッターボタンを押し込んで撮影します。

1 再生ボタンを押します。

●撮影された最新の画像が表示されます。

2 左右キーで見たい画像を選びます。

まとめて画像を消去するには→P.93

各部の名称

*の付いたところは、直接手で触れないでください。(　)内は参照ページです。

カメラボディ

メインスイッチ

フラッシュ（32、44）*

シャッターボタン

マイク

USB/AV出力端子
（39、144）

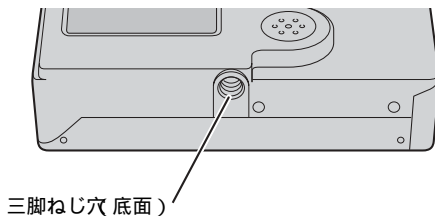
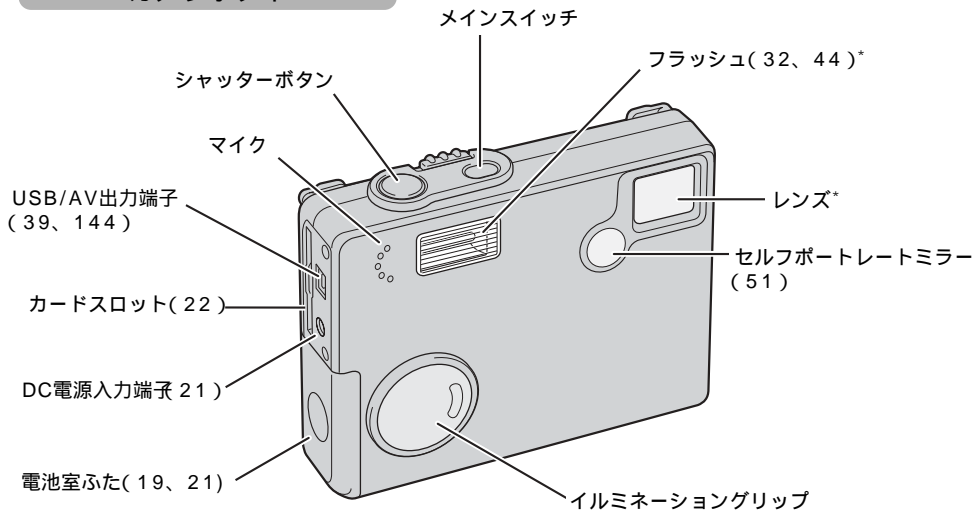
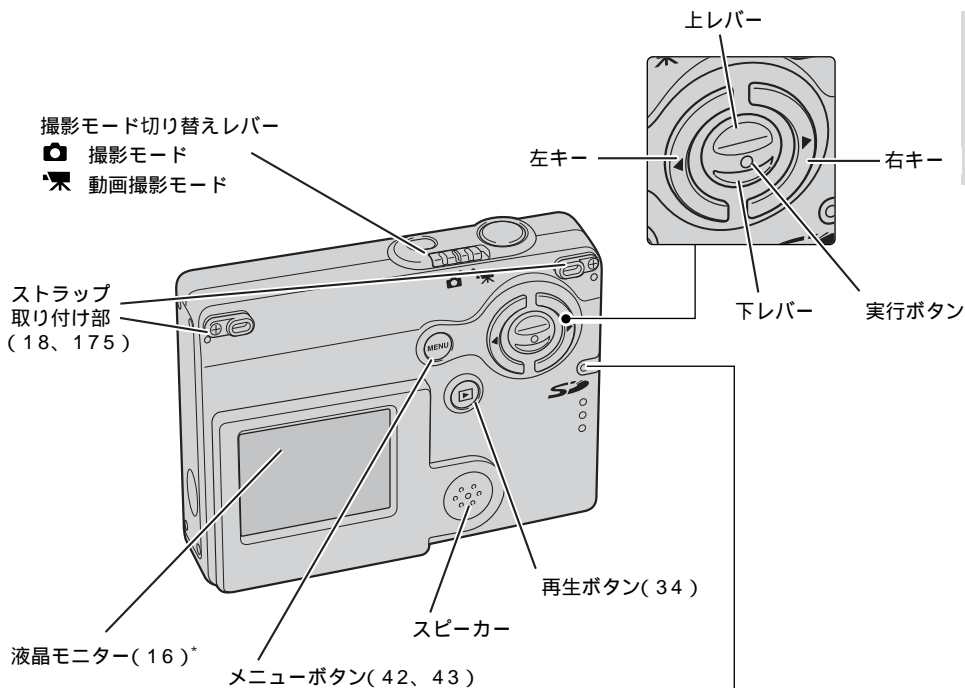
レンズ*

セルフポートレートミラー
（51）

カードスロット（22）

DC電源入力端子(21)

電池室ふた（19、21）

イルミネーショングリップ

フラッシュ/アクセスランプ
　赤色すばやく点滅　　：フラッシュ充電中（P.32）。または電池容量がありません（P.20）。
　ｵﾚﾝｼﾞ色すばやく点滅　：カードに記録中または読み出しです。カードを取り出さないでください。

各部の名称（説明のためすべての表示を点灯させています。）

液晶モニター（撮影モード時）

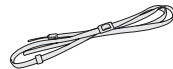
液晶モニター（再生モード時）

基本撮影

この章では、カメラの準備および最も基本的な撮影方法・再生方法を説明しています。

ストラップを取り付ける

このカメラに同梱されているストラップを用いて、5通りの取り付け方をお楽しみいただけます。お好みに応じてストラップをご使用ください。

このカメラに同梱されているストラップ

ストラップA

ストラップB

5通りの取り付け方法

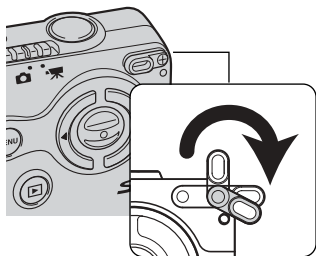
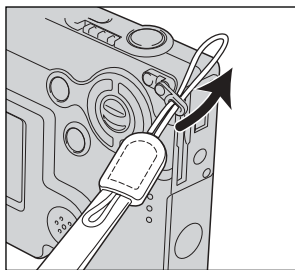
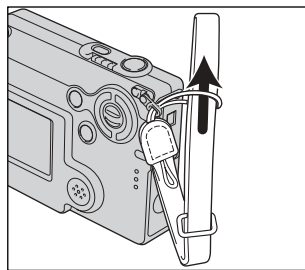
ストラップA

ストラップA

ストラップA＋B

ストラップA＋B

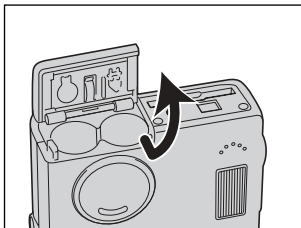
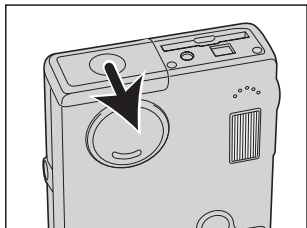
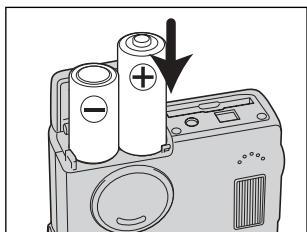
ストラップA＋B

ここでは、基本のストラップAの取り付け方について説明します。
- A＋Bの取り付け方については175ページをご覧ください。

1.ストラップ取り付け部の、紐を通す部分を図のように外側に回転させます。

2.取り付け部に、ストラップの短い方を通します。
- 先端を細くして通してください。

3.通したストラップの輪に、もう一方の端を通して引っ張ります。

電池を入れる

電池を入れる

単3形アルカリマンガン乾電池2本、または単3形ニッケル水素（Ni-MH）電池2本を使用します。このカメラには、単3形アルカリマンガン乾電池が同梱されています。より長い時間の撮影には、単3形ニッケル水素（Ni-MH）電池の使用をおすすめします。ニッケル水素電池は必ず指定の充電器でフル充電してからお使いください。電池の性能は銘柄によって差があります。

● ニッケルマンガン電池およびニッケル乾電池、マンガン乾電池は使用できません。

1. 電池室ふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

2. 電池室内の＋／－表示にしたがって電池を入れます。

3. 電池室ふたを閉じ、カメラ背面の方向にカチッと音がするまでスライドさせて元通りに閉めます。

● 最後まで確実に閉めてください。

日付/時刻を設定してください

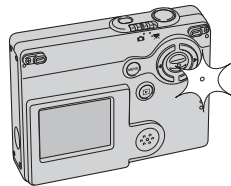
● 長時間電池を抜いたままにしておくと、日時の設定が失われます。液晶モニターに左のメッセージが現れたら、日時を再設定してください（→P.28）。

電池容量の確認

メインスイッチを押して電源を入れたり、撮影・動画撮影・再生モードを切り替えたりすると、電池の容量が液晶モニターに表示されます。

電池容量は十分です。（3秒間のみ表示）

電池容量が少なくなりました。（3秒間のみ表示）
これより電池容量が少なくなると節電のためフラッシュ充電中は液晶モニターが消灯します。

（赤色になった場合）電池の交換をおすすめします。
この状態でも動画以外の撮影はできます。

フラッシュ／アクセスランプが3秒間すばやく点滅（左図）、または「電池がなくなりました」というメッセージが現れるとき、電池を充電するか、新しい電池と交換してください。シャッターは切れません。

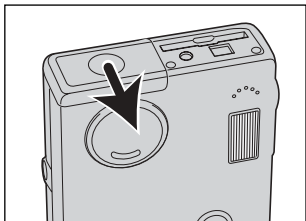
- 新しい電池を入れても何も表示されないときは、電池の向き（＋／－）を確認してください。
- 長時間の撮影、再生、パソコンとの接続時、PCカメラとして使用時には、別売りのACアダプター AC-6Lの使用をおすすめします。

オートパワーオフ（操作しないでいると自動的に電源が切れます）

約3分以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的にカメラの電源が切れます（オートパワーオフ）。撮影を再開する場合は、もう一度メインスイッチを押して電源を入れてください。

- オートパワーオフまでの時間（初期設定は3分）を変更することもできます。→ P.139

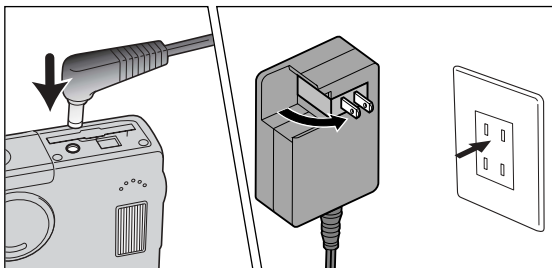
電池を取り出す

電池を取り出すときには、電源が入っていない（＝カメラがOFFになっている）のを確認してから取り出してください。

1.電池室ふたを開けます。

● ふたの開け方は → P.19

2.電池を取り出します。

ACアダプター（別売り）

屋内などAC電源が使える場合は、別売りのACアダプター AC-6Lを使用すると、電池の残りを気にすることなく撮影ができて便利です。

接続のしかた

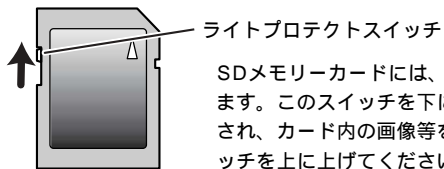
1. カメラの電源が入っていないのを確認してから、DC電源入力端子にACアダプターの出力プラグを差し込みます。
2. ACアダプターをコンセントに差し込みます。

取り外し方

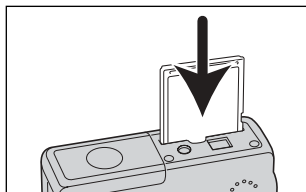
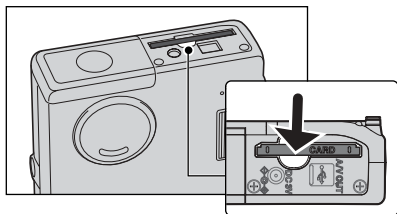
1. カメラのメインスイッチを押して電源を切ります。
2. ACアダプターをコンセントから抜いて、出力プラグをカメラから取り外します。

カードを入れる/取り出す

入れ方

画像を記録するには、ＳＤメモリーカードまたはマルチメディアカード（以下、カード）が必要です。
付属のＳＤメモリーカードは、そのままこのカメラに入れてお使いになれます。

ライトプロテクトスイッチ

● ＳＤメモリーカードには、ライトプロテクト（書き込み禁止）スイッチがついています。このスイッチを下にスライドさせると、カードへのデータ書き込みが禁止され、カード内の画像等を保護することができます。書き込みする際には、スイッチを上に上げてください。

カードを入れるときには、電源が入っていない（＝カメラがOFFになっている）のを確認してから入れてください。

1. カードのラベルをカメラの前面側、接点を背面側に向け、ラベル上の▼マークを挿入口に向けて差し込みます。

2. カチッと音がするまで、矢印の部分を押し込みます。

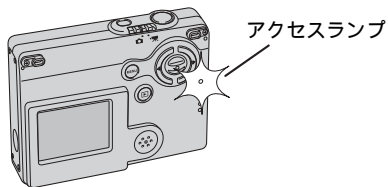
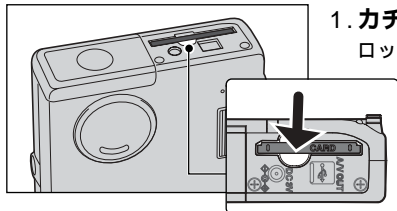
● まっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。
● カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめて正しく入れ直してください。
● 奥まで入ると、カードはロックされます。

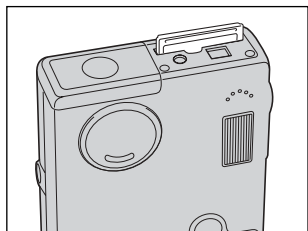
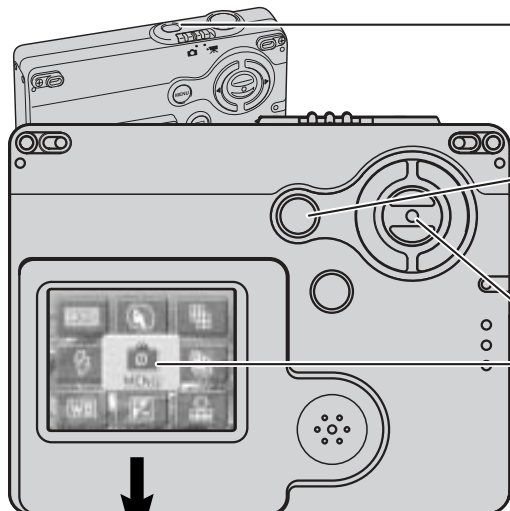
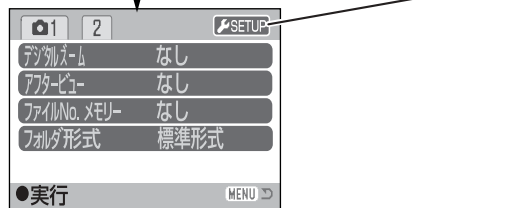
注意

撮影中にカードを不用意に押し込み、意図せずに取り出さないように注意してください。

- カードが入ってないときは、「カードが入っていません」というメッセージが現れます。また、撮影モードでは撮影残り画像数が、動画撮影モードでは時間表示が、赤色の ーーー ー になります。
- マルチメディアカードを使用した場合、SDメモリーカードと比べて撮影・再生時の動作応答時間がかなり長くなります。

取り出し方

注意

オレンジ色のアクセスランプが点滅している間は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

1.カチッと音がするまで矢印の部分を中に押し込みます。

- ロックが外れ、カードが出てきます。

2.カードを取り出します。

日時を設定する

カメラをご購入後初めて使用されるとき、長時間電池を抜いたままにしたときなど、「日付/時刻を設定してください」というメッセージが現れたら、日時の設定を行なってください。また日時の変更が必要な場合も、以下の手順に従ってください。

日付/時刻を設定してください

1.メインスイッチを押して電源を入れます。

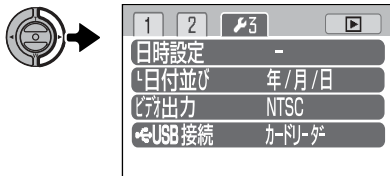
2.メニューボタンを押します。

3.MENUを選択している状態で実行ボタンを押します。

4.左右キーで SETUP を選択します。

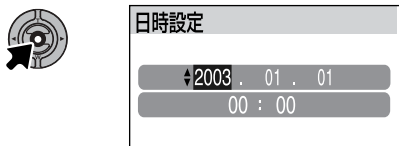
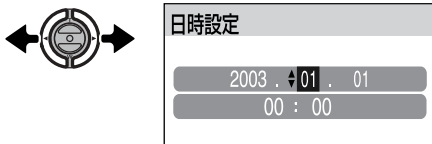
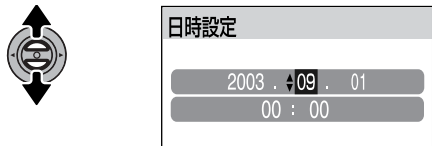
5. SETUP を選択している状態で、実行ボタンを押します。

- セットアップメニューの画面になります。

6.右キーで「3」を選択します。

7.上下レバーで「日付設定」を選びます。

8.右キーを押します。

9.実行ボタンを押します。

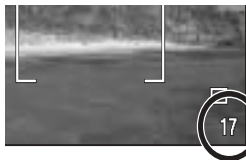
● 日時修正画面になります。

10.左右キーで修正したい項目を選びます。

11.上下レバーで希望の数値を選びます。

12.必要なだけ9、10の操作を繰り返します。

13.修正が終了すると、実行ボタンを押します。

● 日付設定が完了し、時計がスタートします。

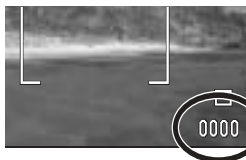
● 途中でメニューボタンを押すと、日時設定を行なわずに元の画面にもどります。

MENU

撮影の準備

撮影残り画像数

カードを入れて、カメラの電源を入れると、液晶モニター右下に撮影残り画像数（現在の設定で撮影を続けると、後何枚撮影できるか）が表示されます。

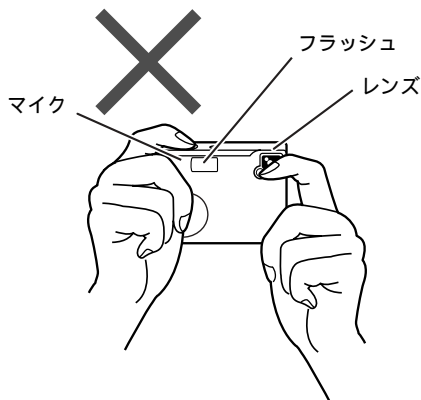
1枚のカードに記録できる画像数は、カードの容量、カメラで設定された画像サイズおよび画質によって異なります。付属のカード（8MB）で初期設定（画像サイズ1600×1200、画質スタンダード）で撮影する場合、記録できる画像数は約12枚です。

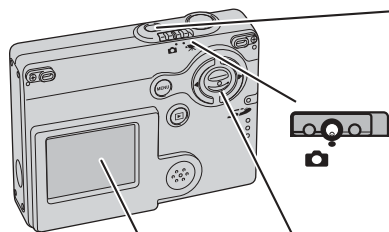
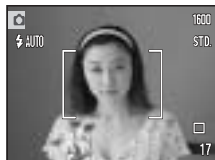
● 異なる容量のカードを使用した場合や、画像サイズ・画質を変更した場合、また動画撮影を行なった場合は、撮影できる画像数は大きく変わります。※詳細は → P.56

●「0000」が赤字で表示され、「カードに空きがありません」というメッセージが出たときは、カードがいっぱいです。画像サイズまたは画質を変更する、カード内の画像を消去する、カードを交換する、のいずれかを行なってください。
画像サイズの変更 → P.52
画質の変更 → P.54
画像の消去 → P.35、92

● ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては、撮影後に撮影残り画像数表示が変化しない場合もあります。

カメラの構え方

手ぶれが起こらないよう、脇を締め、両手でしっかりとカメラを構えて撮影してください。

- レンズやフラッシュなど、カメラの前面に指や髪、ストラップがかからないようにしてください。
- 縦位置で撮影するときは、フラッシュをレンズより上にしてください。
- 動画撮影時（→ P.40、83）やボイスメモ（→ P.70）、アフレコ（→ P.98）録音中は、カメラ前面にあるマイクを指などでふさがないようにしてください。

レンズやマイク、フラッシュに指をかけないように！
失敗の原因となるので注意してください。

撮影する

1. メインスイッチを押して電源を入れます。

- 電池の状態によっては、起動時間が若干長くなる場合があります。

2. 撮影モード切り替えレバーを📷に合わせます。

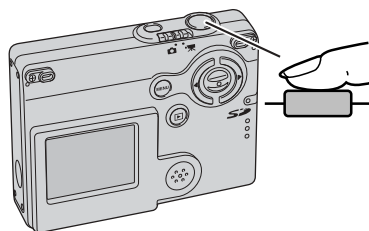
- 撮影モードになります。
- 動画撮影については、P.40をお読みください。

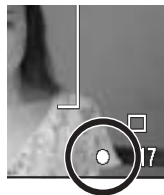
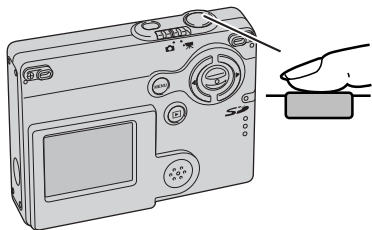
3. 液晶モニターで構図を決め、上下レバーでズームして大きさを決めます。

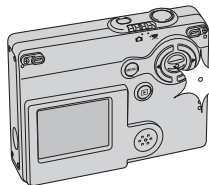
- レバーを上に押すと望遠に、下に押すと広角になります。
- 液晶モニター内の［　］中のものにピントが合います。

※ピントが合わないときは →P.30

- 撮りたいものから10㎝以上離れてください。

- ACアダプター使用時、あるいは店頭等でのカード無し撮影の場合は、ズーム操作に連動してカメラ前面のランプが点滅します。

4. シャッターボタンを半押しします。

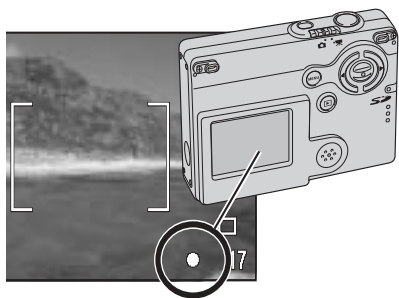
- シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼びます。
- シャッターボタンを半押しするとピントが合います。ピントが合うと、液晶モニター右下には白い○が点灯します。
- シャッター音を設定しているときは、ピントが合うと音でお知らせします。

※半押ししたときのその他の表示については →次ページ

5.シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

- 撮影後シャッターボタンを押し込んだままにしていると、撮影した画像が液晶モニターに表示され確認することができます。シャッターボタンを押し続けなくても、撮影した画像を約2秒間液晶モニターに表示させることができます。(アフタービュー、P.76)

- 撮影された画像は自動的にカードに記録（書き込み）されます。書き込み中はオレンジ色のアクセスランプが点滅します。**その間はカードを取り出さないでください。**

- シャッターボタンを半押しした時に現れる表示の意味は以下の通りです。

液晶モニター右下の表示	状況
白色の○点灯	ピントが合っています。撮影できます。
赤色の○点灯	ピントが合わない、または撮りたいものに近づき過ぎています（→ P.30）。
(手ぶれアイコン)	シャッター速度が遅くなっています。手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

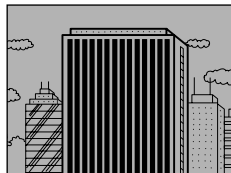
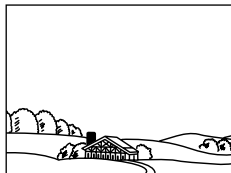
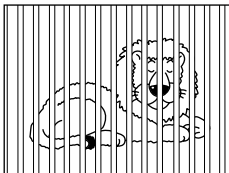
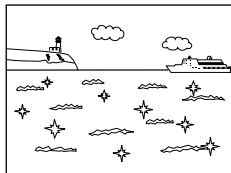
- 撮影終了後は、メインスイッチを押して電源を切ってください。

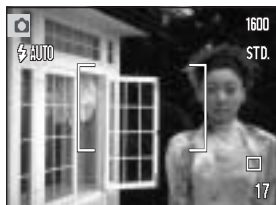
ピント合わせ

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、[　]の中のものにピントが合います。ピントが合うと、液晶モニターの白色のフォーカス表示○が点灯します。

赤い●が点灯したときは、ピントが合っていません。以下を確認してください。
・撮りたいものから10㎝以上離れていますか？
・オートフォーカスの苦手な被写体（以下参照）を撮影しようとしていませんか？

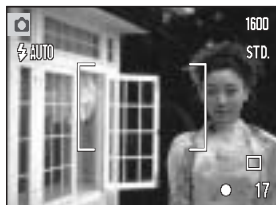
● ピントが合わない場合にそのまま撮影すると、フラッシュが光るときはカメラから2m離れた場所に、フラッシュが光らないときはカメラから約20m離れた場所にピントが合います。

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、次ページのフォーカスロック撮影で、被写体と同じ距離にあるものにピントを固定して撮影してください。

暗すぎるもの

青空や白壁など
コントラストのないもの

[　]の中に
距離の異なるものが
混じっているとき

太陽のように
明るいものや、
車のボディ、水面など
きらきら輝いているもの

ピントを合わせたいものが画面中央にないとき

ピントを合わせたいものが画面中央にないときに、そのまま撮影すると、中心部の背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

1. ピントを合わせたいものに［　］を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

- ピントが合っていること（液晶モニター右下の白い○点灯）を確認します。

2. シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻します。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

フラッシュ撮影

フラッシュが自動発光 AUTO の場合、必要時には自動的に発光します。

※フラッシュモードを変更するには → P.44

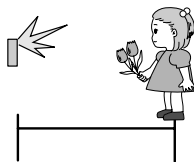
● シャッターボタンを半押ししていると、フラッシュの状態をフラッシュモードの表示でお知らせします。

フラッシュモードの表示	状況
赤色の AUTO 点灯	フラッシュ充電中です。 シャッターは切れません。
白色の AUTO 点灯	フラッシュの充電が完了しました。 撮影することができます。

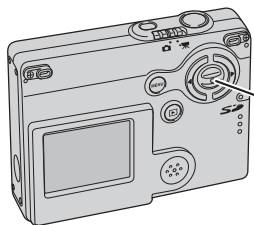
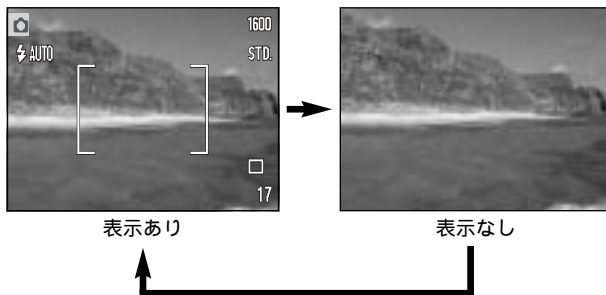
※表はフラッシュモードが自動発光の場合です。

- ● 画面表示が「表示なし」の場合は、フラッシュ充電中のみフラッシュモードの表示が赤く点灯します。
- ● 広角側で20cmより近くでフラッシュ撮影すると、画面の左右で明るさが異なることがあります。このような場合は、フラッシュを発光禁止にしての撮影をおすすめします。
- ● 電池容量が少ないと、フラッシュ充電中は液晶モニターが消灯します。その場合は、カードスロット横のフラッシュ／アクセスランプが赤く点滅して、充電中をお知らせします。

フラッシュ光の届く距離

フラッシュの光が届く範囲には限度があります。最広角側では3.6m、最望遠側では2.7mを目安に撮影してください。(撮像感度AUTO時)

広角側：0.10～3.6m
望遠側：0.10～2.7m

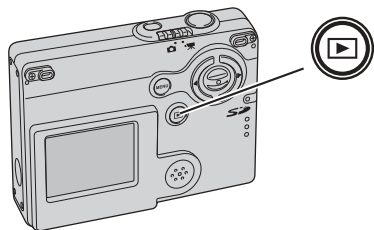
夜景など暗い場合は、フラッシュが発光しても遠くの景色は写りません。

画面表示の切り替え（撮影・動画撮影モード）

撮影モード 、動画撮影モード で実行ボタンを約2秒間押すと、以下の通り表示を切り替えることができます。

- この使用説明書では、「表示あり」の状態で説明しています。

※各表示については → P.16

- 「表示なし」のときも、電池容量（P.20）と写し込み表示（P.72）は表示されます。また、シャッターボタン半押し中はフォーカス表示とフラッシュ充電中の表示がされます。
- オートリセットを「あり」にしている場合は、電源を入れ直すと「表示あり」の状態になります。

「表示なし」の設定を保持したいときは→ P.68

撮影した画像を見る（再生する）

1.再生ボタンを押します。

●撮影された最新の画像が表示されます。

液晶モニターに再生モードが表示されます。

●もう一度再生ボタンを押したり、撮影モード切り替えレバーを操作すると、撮影モード（動画撮影モード）に戻ります。

2.左右キーで見たい画像を選びます。

古い画像　　　　新しい画像

左キー

右キー

●画像が記録されていない場合は、「画像がありません」と表示されます。
●押し続けると高速で画像が切り替わります。
●動画の場合は開始時の画像が表示されます。→P.41、86

※再生モードのメニューについては → P.87

●電源OFFの状態で再生ボタンを2秒以上押すと、直接再生モードで起動します。
●指定したお気に入りの画像を、別の再生操作で再生することができます。

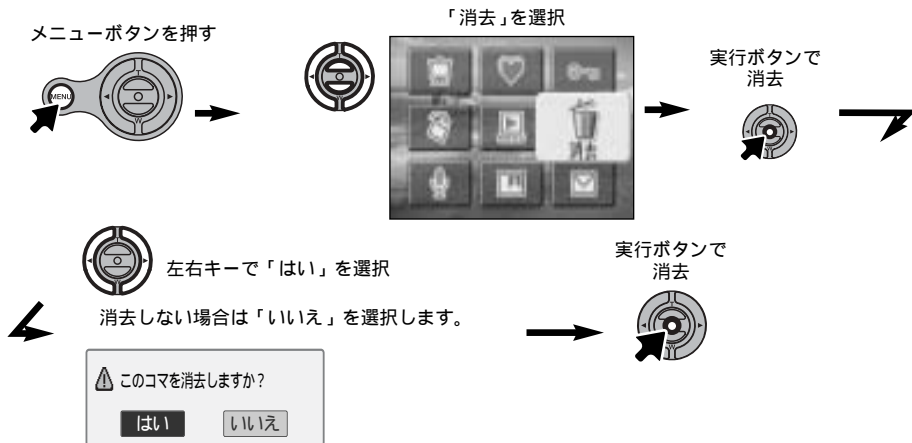
※お気に入り作成・再生ついては → P.100

画像を手早く消去する

画像を１コマずつ簡単に消去することができます。

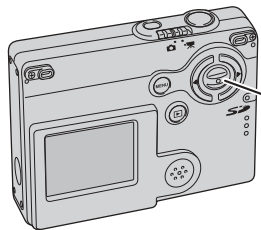
いったん消去した画像を復活させることはできません。

1.消去したいコマを再生させます。

2.クイックパネルで「消去」を実行します。

●画像がプロテクト（→ P.95）されていて消去できない場合は、消去のアイコンを選択できません。

●消去後は次の画像が表示（再生）されます。他に消去したい画像があるときは、上の操作を繰り返します。

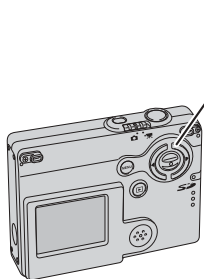
※複数の画像をまとめて消去するときは → P.93

画面表示の切り替え（再生モード）

再生モードで実行ボタンを約2秒間押すと、以下の通り表示を切り替えることができます。

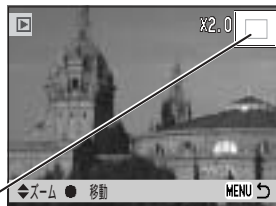
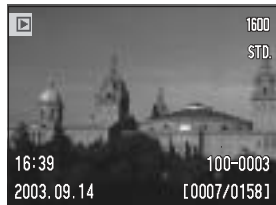
● この使用説明書では、表示ありの状態で説明しています。

※各表示については → P.16

再生画像を拡大する

再生画像を、最大6倍にまで拡大することができます。
●動画の拡大再生はできません。

1. 左右キーで見たい画像を選びます。

2. 上下レバーを上に押します。

- ズーム画面が現れ、レバーを上に押すたびに画像が 0.2倍ずつ、1.2倍から 6倍まで拡大されます。下に押すと縮小されます。
- 現在の拡大倍率が画面右上に表示されます。その右に、元画像のどの部分を拡大表示しているかを示すインジケータ(白枠は元画像全体、赤色の枠は拡大再生されている部分)が現れます。たて再生には適用されません。

- メニューボタンを押すと拡大前の画像に戻ります。

拡大再生中に実行ボタンを押すと、「ズーム画面」と「移動画面」を切り替えることができます。

ズーム画面

実行ボタンを押すと移動画面になる

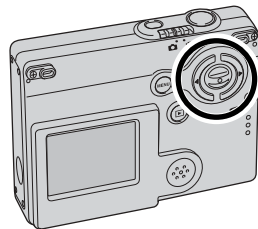
移動画面

実行ボタンを押すとズーム画面になる

移動に合わせて白枠内の赤色の枠も移動します。

「移動」画面選択中は、上下レバーまたは左右キーで、見たい部分を移動させることができます。

インデックス再生

撮影した画像を6画像ずつまとめて表示することができます。画像を探すときなどに便利です。

1コマ再生

下キーを押すと、インデックス再生になります。

1コマ再生に戻すには上キーを押します。

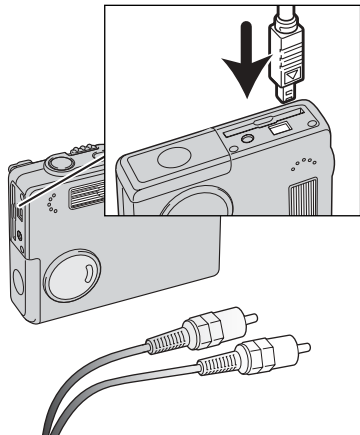
選択中の画像の内容や設定が表示されます。

インデックス再生

左右キーで、見たい画像を選択します。

- キーを押し続けると、画像の選択が早送りされます。

画像をテレビに映して見る

付属のAVケーブル AVC-200 でカメラとテレビを接続して、撮影した画像や音声をテレビで見たり聞いたりすることができます。

1.カメラとテレビの電源を切ります。

2.AVケーブルのミニプラグ側を、カメラ側面のUSB/AV出力端子に差し込みます。

3.AVケーブルのもう一方の、黄色のプラグをテレビのビデオ入力端子（通常は黄色）に、白色のプラグを音声入力端子（通常は白色）に差し込みます。

4.テレビの電源を入れ、テレビの［入力切り替え］などで、ビデオ入力端子からの入力に切り替えます。

- 詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。

5.カメラのメインスイッチを押して電源を入れ、再生ボタンを押します。

- 再生ボタンを2秒間押してカメラを起動すると、お気に入り（P.100）が選択可能の状態になっています。

- 上記の操作で、カメラの液晶モニターに現れる画像や表示がそのままテレビに映ります。通常の再生モードと同様に、表示の切り替え等を行なうことができます。
- 音声はテレビ側から再生されます。
- 上記の操作で万一画像がテレビに映らない場合は、ビデオ出力形式を確認してください。→P.140
  ビデオ出力形式の初期設定は日本国内用のNTSC方式になっています。海外旅行時には地域によってPAL方式への切り替えが必要です。
- カメラ背面の液晶モニターは点灯しません。
- 実行ボタンを約2秒間押すと、テレビに映し出される映像の「表示あり」「表示なし」を切り替えることができます。

動画の撮影をする

カードの容量がなくなるまで、連続して動画撮影を行なうことができます。音声も同時に記録されます。

画像サイズ　P.85

撮影可能な残り時間

1.メインスイッチを押して電源を入れます。

2.撮影モード切り替えレバーを に合わせます。

● 動画撮影になり、液晶モニター左上には動画の が表示されます。

3.シャッターボタンを押して撮影を開始します。

● 撮影中は ●Rec が表示されます。カードの容量が残り少なくなるなど撮影可能時間が10秒以下になると、赤色で残り秒数表示に変わります。

● 動画撮影中はカメラ前面のランプが赤色に点灯します。

● ピント位置は動画の撮影開始時に固定されます。

4.撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

● 残り秒数が 0 になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

320
●Rec
00:27

撮影可能な残り時間

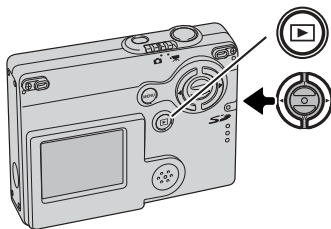
● マイクの部分を指などでふさがないよう、カメラの持ち方にご注意ください。

● 電池の容量表示が （赤色）のときは、動画撮影できません。

● 記録（書き込み）速度の遅いカードを使用されている場合、カメラの内部メモリがいっぱいになってしまい、カード容量がなくなる前に動画撮影が終了することがあります。

※動画撮影の詳細については →P.82

動画を再生する

動画の再生方法は以下の通りです。1コマ再生またはインデックス再生で、該当する画像またはファイルを選択している状態にします。

1.再生ボタンを押して、再生モードにします。

2.1コマ再生、または、インデックス再生で、動画を選択します。

●動画開始時の画像が静止画として現れます。

3.実行ボタンを押すと、動画の再生が開始されます。

●右上の数値は経過時間です。

●再生中に実行ボタンを押すと、一時停止・再スタートを繰り返します。

●一時停止中に左右キーを押すと、コマ送りになります。

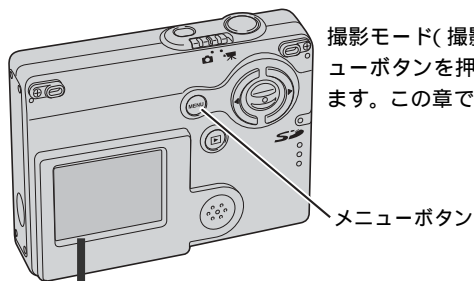
●再生中に左右キーを押すと、巻戻し、早送りができます(右キーが早送り、左キーが巻戻し)。

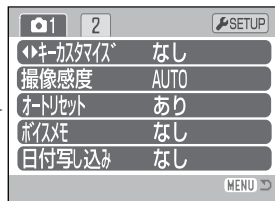
●デジタルカメラのスピーカーから音声も同時に再生されます。再生中に上下レバーで音量の調節ができます。(上レバーで音量アップ、下レバーで音量ダウン。)

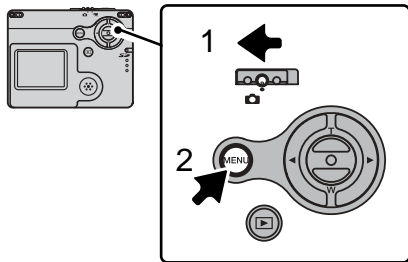
4.再生を終えるときは、メニューボタンを押します。

●最後まで再生が終了すると、自動的に再生開始前の画面に戻ります。

●動画の拡大再生はできません。

撮影メニュー

撮影モード（撮影モード切り替えレバーが📷位置）のときにメニューボタンを押すと、カメラの様々な設定を変更することができます。この章では撮影モードのメニューについて説明しています。

基本的な設定を変更します。
（P.43）

その他の設定を変更します。
（P.62）

クイックパネル（撮影メニュー）

撮影モードレバーが撮影位置 📷 にあるときにメニューボタンを押すと、撮影メニューのクイックパネルが表示されます。

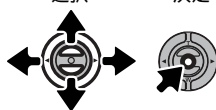
1. 撮影モードレバーを撮影位置 📷 にします。

2. メニューボタンを押します。

液晶モニターに9つのアイコンが表示され、以下の設定を変更することができます。その他の設定変更を行なう場合は、中央のメニューアイコンを選択します。

十字キーで選択　実行ボタンで決定

ポートレート　P.58

モノトーン　P.60

画像サイズ　P.52

フラッシュモード　P.44

ドライブモード　P.47

画質　P.54

ホワイトバランス　P.59

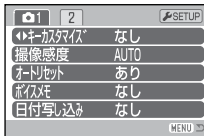
メニュー　P.62

その他の設定画面へ移ります。

露出補正　P.57

📷1	2	SETUP
◀▶キーカスタマイズ	なし	
撮像感度	AUTO	
オートリセット	あり	
ボイスメモ	なし	
日付写し込み	なし	

● アイコンを選択すると、各々の機能の説明が表示されます。

● 各々の設定画面に移った後、メニューボタンを押すと、通常の撮影画面に戻ります。

フラッシュモード

フラッシュモードを以下のように変更することができます。

AUTO 自動発光　　必要時にはフラッシュが自動的に発光します。（P.45）
AUTO 赤目軽減自動発光　　フラッシュで人物の目が赤く写るのをやわらげます。（P.45）
強制発光　　フラッシュは必ず発光します。（P.45）
発光禁止　　フラッシュは発光しません。（P.46）
夜景ポートレート　　夜景を背景に人物を撮影するときに使います。（P.46）

設定方法

撮影モードでメニューボタンを押す

十字キーで「フラッシュモード」を選択

実行ボタンで決定

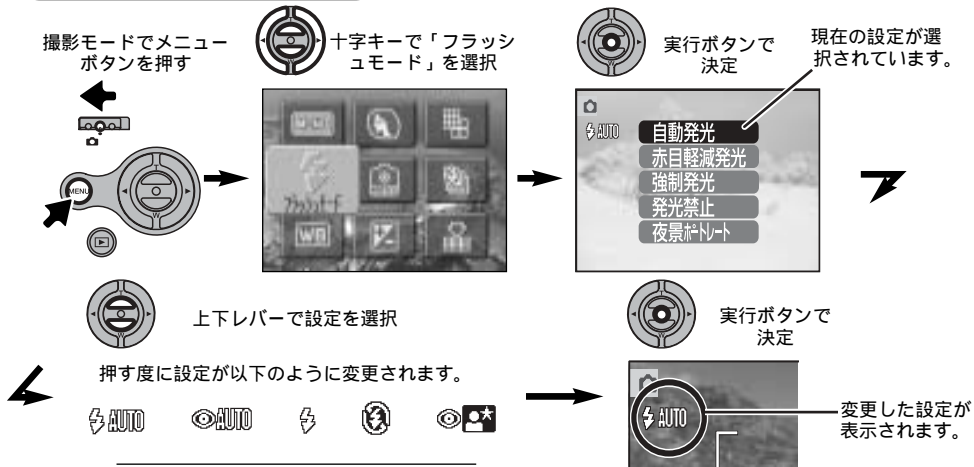
現在の設定が選択されています。

上下レバーで設定を選択

●押す度に設定が以下のように変更されます。

AUTO ⟷ AUTO ⟷ ⟷ ⟷

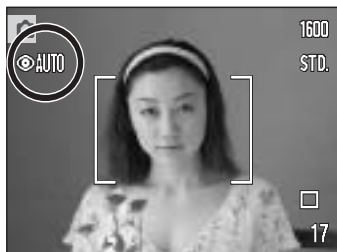
実行ボタンで決定

変更した設定が表示されます。

●シャッターボタンを半押しして液晶モニターのフラッシュモード表示（AUTO や 等）が赤く点灯、またはフラッシュ／アクセスランプが赤く点滅したら、フラッシュが充電中です。充電が完了すれば撮影することができます。

●オートリセットが「あり」の場合は、電源を入れるたびに、フラッシュは自動発光 AUTO (ただし赤目軽減自動発光を設定していた場合は赤目軽減自動発光 AUTO)になります。お買い上げ時には「あり」に設定されています。　それ以外の設定を保持したいときは → P.68

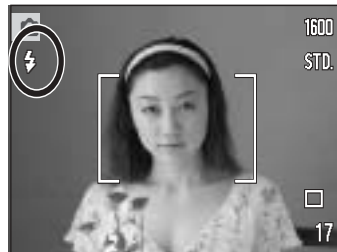
フラッシュ自動発光

暗い場所や逆光など必要時には自動的にフラッシュが発光します。

フラッシュ赤目軽減自動発光

暗いところで人物を撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。このモードでは撮影の直前に小光量のフラッシュが発光し、目が赤く写るのをやわらげることができます。フラッシュは必要時には自動的に発光します。

P.44の要領で、液晶モニターに AUTO を表示させます。

- シャッターボタンを押すと、数回小光量のフラッシュが発光し、その後本発光とともに撮影されます。
- シャッターボタンを押してから撮影までの間、カメラを動かしたり写される人が動いたりしないよう注意してください。

フラッシュ強制発光

フラッシュは必ず発光します。屋外の人物撮影で顔の影をやわらげたい時などにお使いください。

P.44の要領で、液晶モニターに を表示させます。

次ページへ続く

フラッシュ発光禁止

フラッシュは発光しません。美術館などフラッシュの使用が禁止されている場所や、風景・夜景などフラッシュ光が届かない被写体を撮影するときにお使いください。

P.44の要領で、液晶モニターに ⓘ を表示させます。

● 暗いところでは手ぶれしやすいので、三脚などにカメラを固定して撮影されることをおすすめします（液晶モニター右下に ((✋)) が現れてお知らせします）。

夜景ポートレート

夜景を背景に記念撮影する場合、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写し出されますが、フラッシュ光の届かない背景は黒くつぶれてしまいます。そのような場合にこのモードを使うと、人物も背景もきれいに撮ることができます。目が赤く写るのをやわらげるため、撮影の直前に小光量のフラッシュが発光します。

P.44の要領で、液晶モニターに ◎ を表示させます。

夜景ポートレートを選択

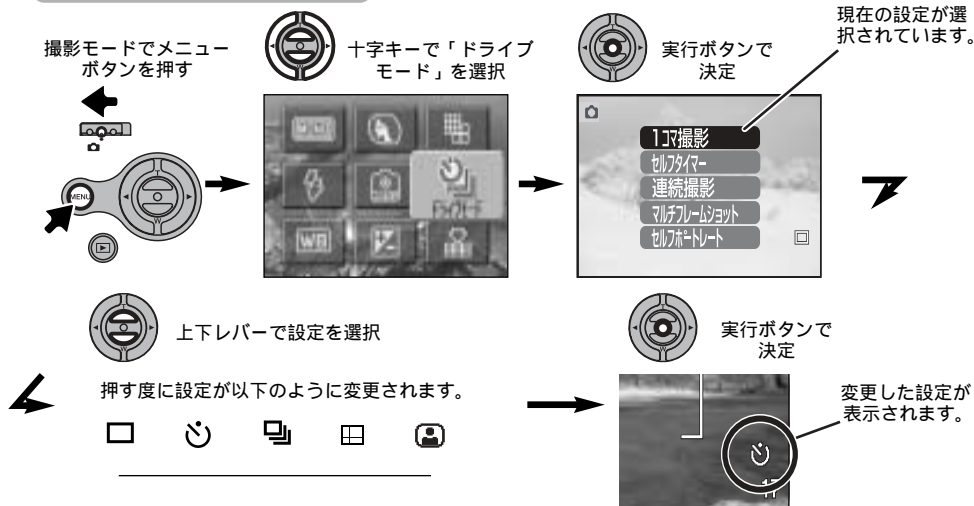
● 暗いところでは手ぶれしやすいので、三脚などにカメラを固定して撮影されることをおすすめします（液晶モニター右下に ((✋)) が現れてお知らせします）。

ドライブモード

ドライブモードの設定を変更すると、以下のような撮影を行なうことができます。

- 1コマ撮影　シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。
- セルフタイマー　シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。（P.48）
- 連続撮影　シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。（P.49）
- マルチフレームショット　9回の連続撮影を、画面を9分割して1つの画像に撮影します。（P.50）
- セルフポートレート　カメラ前面の鏡で自分自身やツーショットの撮影をします。（P.51）

設定方法

● 押す度に設定が以下のように変更されます。

● オートリセットが「あり」に設定されている場合は、電源を入れ直すと、ドライブモードの設定は1コマ撮影になります。　それ以外の設定を保持したいときは → P.68

● 左右キーカスタマイズでドライブモードを設定すると、左右キーを押すだけでドライブモード（の設定）を切り替えることができます。詳しくは → P.64

次ページへ続く

⏲ セルフタイマー

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

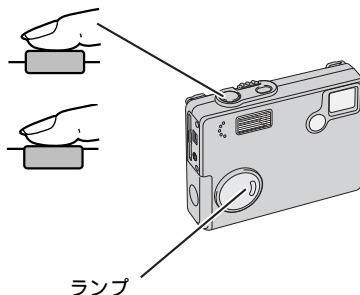
1. P.47の要領で、液晶モニターに⏲を表示させます。

● セルフタイマー設定時は液晶モニター右下に⏲が表示されます。

2. シャッターボタンを半押しし、被写体にピントが合っていることを確認します。

3. シャッターボタンを押し込みます。

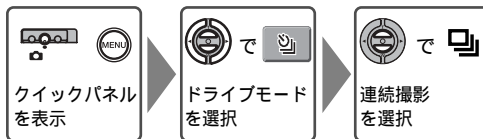
● セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のランプが点滅します。撮影直前にはランプが素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。

● セルフタイマー作動中はランプと同様に音でもお知らせします。音を消すこともできます（→ P.138）。

● 作動中のセルフタイマーを止めるには、メニューボタンを押すか、上下レバーを動かしてください。

● 撮影後、セルフタイマーは解除されます。

連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。最高毎秒約1.5コマの連続撮影ができます（画像サイズ 1600×1200、日付写し込み「なし」設定時）。

1. P.47の要領で、液晶モニターに を表示させます。

● 連続撮影設定時は液晶モニター右下に が表示されます。

2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

● フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
● 日付写し込みを「あり」に設定している場合は、連続撮影の速度は遅くなります。
● 連続撮影できる枚数には、カメラの内部メモリ容量による上限があります（以下参照）。これらの値は、被写体によっても異なりますので、あくまで目安とお考えください。

		画像サイズ		
		1600x1200	1280x960	640x480
画質	エコノミー	約7枚	約10枚	約22枚
	スタンダード	約4枚	約5枚	約15枚
	ファイン	約3枚	約3枚	約10枚

● 連続撮影ではシャッター音を「音1」「音2」にしていてもシャッター音は鳴りません。

▦ マルチフレームショット

9回の連続したコマを画面を9分割した1枚の画像に撮影することができます。人の表情の変化などを撮影して楽しむことができます。

1. P.47の要領で、液晶モニターに ▦ を表示させます。

● 液晶モニター右下に ▦ が表示されます。

2. シャッターボタンを押して撮影します。

● 撮影が終了するまで、カメラ前面のランプが赤色に点灯します。
● フラッシュは自動的に発光禁止になります。

● 毎秒3コマで、9コマの撮影がされます。
● 手ぶれの少ない、適正な露出のマルチフレームショットを撮影するには、明るいところでの撮影をおすすめします。
● マルチフレームショットでは、シャッター音を「音1」「音2」にしていても、シャッター音は鳴りません。

セルフポートレート

カメラ正面にある鏡を見ながら、自分自身を撮影したり、ツーショットの撮影を行なうことができます。

- 自動的に広角になります。
- このモードでは1mより遠い被写体にはピントは合いません。

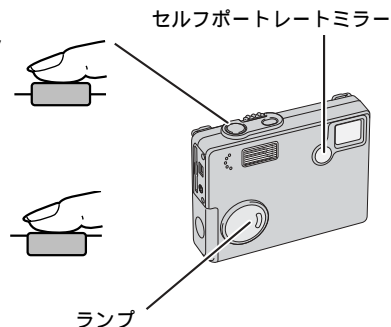
1. P.47の要領で、液晶モニターにを表示させます。

- 液晶モニター右下にが表示されます。

2. カメラ前面の鏡で構図を確認し、シャッターボタンを半押しします。

- ピントが合いフラッシュ充電が完了すると、カメラ前面のランプが緑色に点灯します。
- 上下レバーでズームを変更することができます。ズームした場合は、実際に撮影される範囲は、鏡に写っている範囲と異なります。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 撮影後はカメラ前面のランプが緑色に点滅し、撮影を終えたことをお知らせします。

画像サイズ

画像の大きさを指定することができます。3通りの中から選ぶことができます。

表示	画像サイズ	説明
1600	1600 × 1200 (UXGA)	パソコンに取り込んで編集するときや、プリントする*場合におすすめします。約190万画素の画像が撮影できます。 *L版（127mm×89mm）〜 A5（210mm×148mm）程度
1280	1280 × 960 (SXGA)	枚数を多く撮るときに便利です。約120万画素の画像が撮影されます。
640	640 × 480 (VGA)	1枚のカードに最も多くの枚数を撮影することができます。ファイルサイズが小さいので、Eメールに添付するときやホームページ用の画像として最適です。

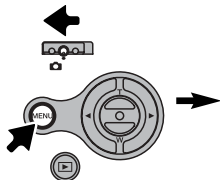
ここでいうプリントとは、印刷解像度150dpi〜300dpi の場合を指しています。

画像サイズとは

デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。例えば画像サイズ1600×1200画素の場合、画像は横に1600、縦に1200に分割され、その1点1点（画素）にそれぞれ色が付き、全体として1つの写真になっています。画像サイズとは、このように並んでいる画素の数（記録画素数）を表し、画素 または ピクセル、ドットといった単位で表されます。

画像をプリント（印刷）する場合は、大きなサイズで撮影しておくほどきれいにプリントできますが、1枚当たりのファイルサイズ（データ量）が大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。ご使用のカード容量や用途に合わせてお選びください。

設定方法

撮影モードで
メニューボタンを押す

十字キーで
「画像サイズ」を選択

実行ボタンで
決定

現在の設定が選
択されています。

上下レバーで設定を選択

●押す度に設定が以下のように変更されます。

1600×1200⟷1280×960⟷640×480

実行ボタンで
決定

変更した設定が
表示されます。

●液晶モニター右上に、現在設定している
画像サイズが表示されます。

画像サイズ

画質

画像の圧縮率を指定することができます。以下の3通りの中から選ぶことができます。

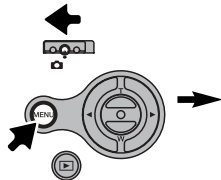
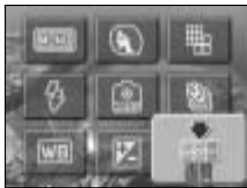
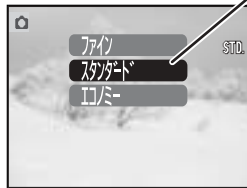
<table>
<tr><th>表示</th><th>ファイル形式</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>ファイン
(FINE)</td><td>JPEG
(圧縮率 小)</td><td rowspan="3">画像がJPEG(ジェイペグ)形式で圧縮されて記録されます。圧縮率が大きくなるほどファイルサイズは小さくなり、1枚のカードに記録できる枚数が増えます。

一般的な目安は以下のとおりです。
プリント(印刷)する場合 → スタンダード、ファイン
画像を加工する場合 → ファイン
Eメールに添付する場合など → エコノミー</td></tr>
<tr><td>スタンダード
(STD.)</td><td>JPEG
(圧縮率 中)</td></tr>
<tr><td>エコノミー
(ECON.)</td><td>JPEG
(圧縮率 大)</td></tr>
</table>

画質とは

画像の圧縮率によって画質が決まります。画像を圧縮しないとファイルサイズ(P.56)が大きくなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。
エコノミー → スタンダード → ファイン の順に高画質になりますが、高画質になるほど1枚当たりのファイルサイズが大きくなりますので、カードに記録できる(撮影できる)枚数は少なくなります。また、JPEG形式の画像は保存すると圧縮率が大きいほど画質は劣化します。いったん劣化した画像を撮影後にパソコン等で復元することはできません。特に後で画像の加工や編集を行う場合、保存の作業の度に画質は劣化しますので、撮影はファインの設定で行なうことをおすすめします。

設定方法

撮影モードで
メニューボタンを押す

十字キーで
「画質」を選択

実行ボタンで
決定

現在の設定が選
択されています。

上下レバーで設定を選択

● 押す度に設定が以下のように変更されます。

ファイン←→ スタンダード←→ エコノミー

実行ボタンで
決定

変更した設定が
表示されます。

● 液晶モニター右上に、現在設定している画質が表示されます。

画質

ファイルサイズと撮影画像数について

画像サイズと画質によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズと使用しているカードの容量によって1枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。ファイルサイズの目安と付属のSDメモリーカード使用時の撮影画像数は以下の通りです。

● 下記の値は被写体やカードによって異なるため、あくまで目安とお考えください。

ファイルサイズ

	1600x1200	1280x960	640x480
エコノミー	約290KB	約210KB	約90KB
スタンダード	約520KB	約360KB	約130KB
ファイン	約990KB	約660KB	約210KB
動画	約340KB/秒（320×240） 約85KB/秒（160×120）		
音声*	約8KB/秒		

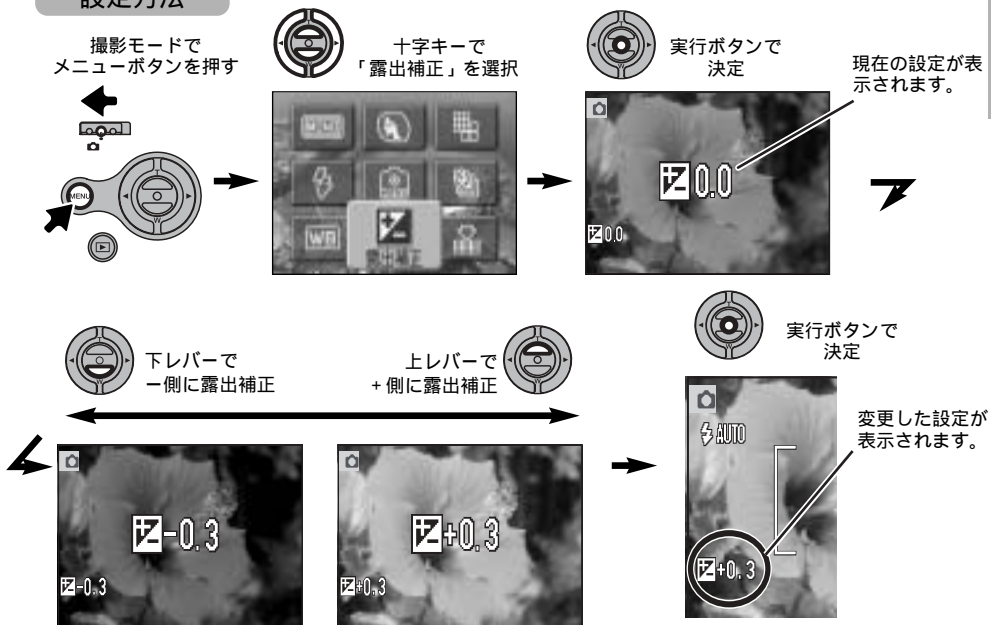
＊ボイスメモ（P.70）、アフレコ（P.98）

8MB SDメモリーカード使用時の撮影画像数

	1600x1200	1280x960	640x480
エコノミー	約22コマ	約31コマ	約68コマ
スタンダード	約12コマ	約18コマ	約48コマ
ファイン	約6コマ	約10コマ	約31コマ
動画	約19秒（320×240） 約1分14秒（160×120）		

露出補正

画像全体を明るくしたり暗くしたりします。±2.0段の範囲内で1/3段刻みで補正することができます。
＋側にすると画面全体が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。
－側にすると画面全体が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。

設定方法

- 露出補正を解除するときは、上記の要領で±0.0を選んでください。
- オートリセットを「あり」に設定しているときは、電源を入れ直すと、露出補正値は0になります。

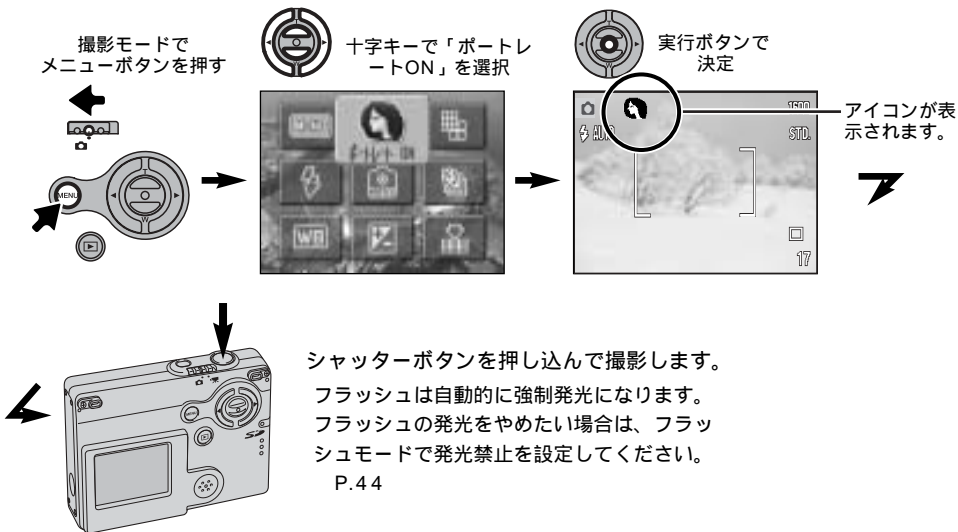
ポートレート

カメラ内部の画像処理により、美しいポートレートを撮影することができます。デジタル処理を加えることで肌をなめらかに髪や目などをはっきりと再現します。

● 目にキャッチライトを入れるため、フラッシュは自動的に強制発光になります。

設定方法

シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● フラッシュは自動的に強制発光になります。
フラッシュの発光をやめたい場合は、フラッシュモードで発光禁止を設定してください。
→P.44

● ポートレートを解除するには、クイックパネルのポートレートOFFを選び、実行ボタンを押します。

● ポートレートを解除すると、自動的に設定されたフラッシュ強制発光も同時に解除されます。フラッシュモードの設定は、前回使用していた設定に戻ります。

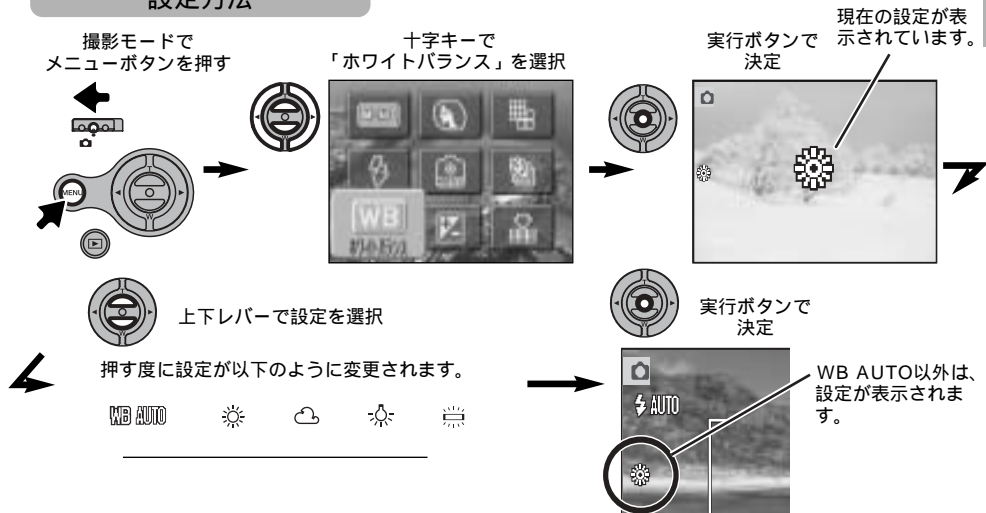
● オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すとポートレートの設定はOFFになります。

ONの設定を保持したいときは→P.68

ホワイトバランス

光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽくなったり黄色っぽくなったりします。これが白くなるように調整するのがホワイトバランスです。WB AUTO（オート）にすると自動的に調整されますが、意図的に選択することもできます。

WB AUTO 自動的に調整されます。
昼光（晴れた明るい屋外）
曇天（曇った屋外）
白熱灯（タングステン光）
蛍光灯

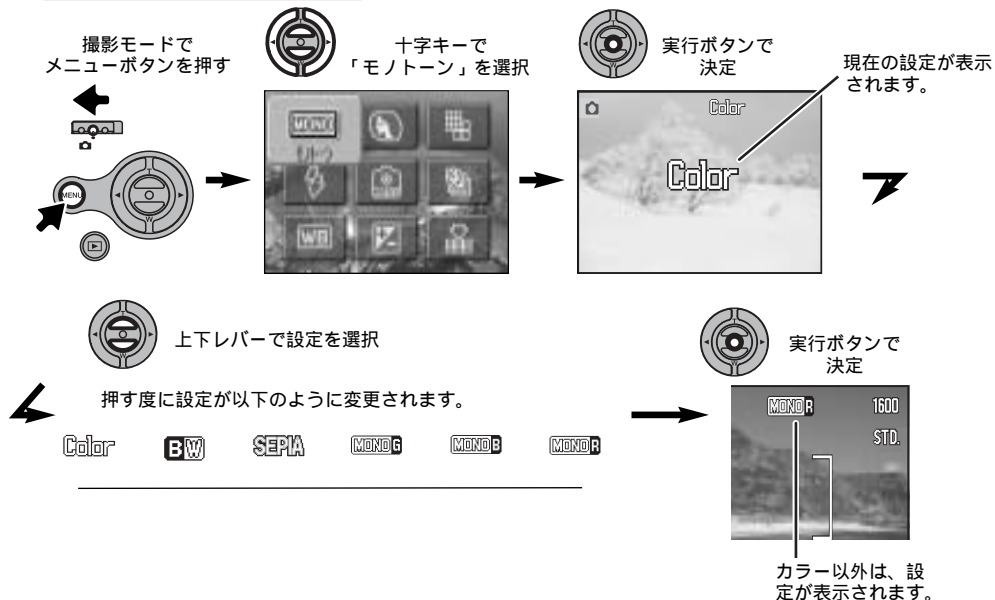
設定方法

● 複数の光源がある場合や、水銀灯など特殊な光源下では、正確なホワイトバランスが得られないことがあります。フラッシュの使用をおすすめします。
● オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、ホワイトバランスの設定はWB AUTOになります。

その他の設定を保持したいときは→P.68

モノトーン

モノクロ（白黒）や色調の異なるモノトーンの画像を撮影することができます。

Color　カラー：通常の撮影で、フルカラーの画像になります。
BW　モノクロ：白黒画像が撮影されます。
SEPIA　セピア：やや色あせた（セピア調）全体に黒茶色の画像が撮影されます。
MONO G　モノトーン（緑）：全体的に緑がかったモノトーンの画像になります。
MONO B　モノトーン（青）：全体的に青味がかったモノトーンの画像になります。
MONO R　モノトーン（赤）：全体的に赤味がかったモノトーンの画像になります。

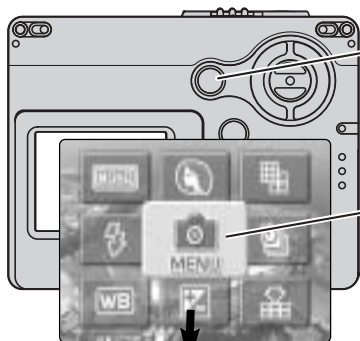
設定方法

●画像の色の変化をカメラの液晶モニターで確認しながら、設定を変更できます。

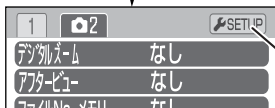
●モノクロやセピア、モノトーン画像を選んでも、画像ファイルサイズはカラーとほぼ同じです。

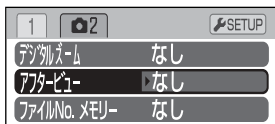
●オートリセットを「あり」に設定しているときは、電源を入れ直すとモノトーンは「カラー」になります。

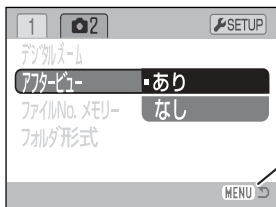
撮影メニュー

メニューボタンを押して表示されるクイックパネルから、さらに他の設定が変更できる撮影メニューの画面に入ることができます。

設定方法

1. メニューボタンを押します。

2. メニューが選択されている状態で、実行ボタンを押します。

3. 左右キーで「1」「2」のいずれかを選びます。

SETUPで実行ボタンを押すとセットアップメニューの画面になります。

4. 上下レバーで希望のメニュー項目を選びます。

5. 右キーでメニュー項目の設定内容を表示させます。

6.上下レバーで希望の設定を選びます。

メニューボタンで通常撮影に戻る

7.中央の実行ボタンを押して設定を実行します。

設定内容

◎は初期設定値です。

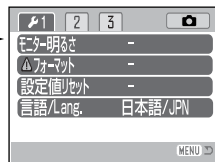
1

項目	設定
左右キーカスタマイズ P.64	フラッシュモード 露出補正 ドライブモード ホワイトバランス ◎なし
撮像感度 P.66	ISO400 ISO200 ISO100 ISO64 ◎AUTO
オートリセット P.68	◎あり なし
ボイスメモ P.70	あり ◎なし
日付写し込み P.72	年月日 月日時刻 ◎なし

2

項目	設定
デジタルズーム P.74	あり ◎なし
アフタービュー P.76	あり ◎なし
ファイルNo.メモリー P.78	あり ◎なし
フォルダ形式 P.80	◎標準形式 日付形式

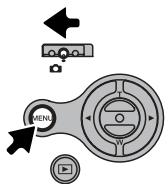
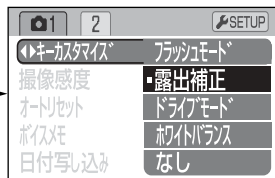
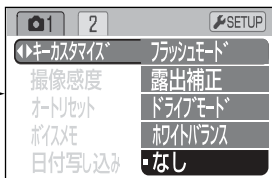
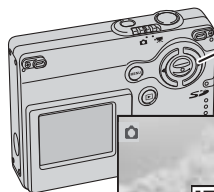
SETUP

SETUPを選んで実行ボタンを押すと、セットアップメニューの画面になります。P.129

左右キーカスタマイズ

撮影時によく使う4つの機能の内の1つを左右のキーに割り当てることができます。左右のキーを押すだけで設定を変更できますので、メニュー画面で設定する手間が省けます。

機能	説明	ページ
フラッシュモード	左右キーを押すたびにフラッシュモードの設定が切り替わります。	44
露出補正	右キーを押すたびに「+」側に補正され、左キーをおすたびに「−」側に補正されます。（±2.0、1/3ステップ）	57
ドライブモード	左右キーを押すたびにドライブモードの設定が切り替わります。	47
ホワイトバランス	左右キーを押すたびにホワイトバランスの設定が切り替わります。	59
なし	初期設定では、左右キーに機能は割り当てられていません。	−

設定方法

1.撮影モード でメニューボタンを押し、メニュー画面を表示させます。

2.上下レバーと右キーで、左右キーに割り当てたい機能を選びます。

左右キーの操作方法

1.左キーまたは右キーを押します。

● 現在の設定が、液晶モニターの中央に大きく表示されます。

2.左キーまたは右キーを押すたびに設定が変更されます。

● 希望の設定に変更した後、しばらくすると元の撮影画面に戻ります。ボタン等を操作すると、すぐに元の撮影画面に戻ります。

● オートリセットを「あり」に設定している場合は、左右キーカスタマイズで設定した項目は、電源を入れ直すと以下の状態にリセットされます。
フラッシュモード：AUTO、　ドライブモード：□（1コマ撮影）、
露出補正：0、ホワイトバランス：AUTO

● 撮影モードで左右キーダイレクトに露出補正、ホワイトバランスを設定していた場合は、動画モードでも有効です。

撮像感度

撮影時の感度を選択することができます。感度はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。AUTO（オート）に設定すると、明るさや状況（フラッシュ発光の有無など）に応じて自動的に感度が調整されます。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときには感度を上げる（＝数値を大きくする）と有効ですが、その分画像は粗くなります。

● 感度は以下の範囲から選ぶことができます。初期設定はオート（AUTO）です。
  オート（AUTO）、ISO 64、ISO 100、ISO 200、ISO 400
● オート（AUTO）の場合、感度はISO64～200の範囲で自動設定されます。撮影中の表示はありません。
● オート（AUTO）以外の撮像感度を設定すると、液晶モニターの画面左側にISOと選んだ値が表示されます。

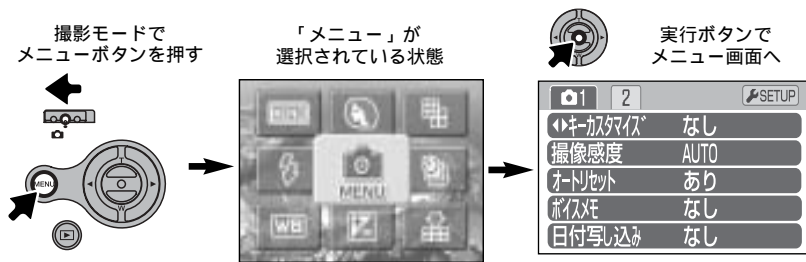
● オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、撮像感度の設定はAUTOになります。AUTO以外の設定を保持したいときは → P.68

撮像感度変更時のフラッシュ調光距離

撮像感度を変更すると、フラッシュ調光距離（フラッシュ光の届く距離）は以下の通りになります。感度をあげるとフラッシュ調光距離は長くなりますが、ノイズが増える場合があります。

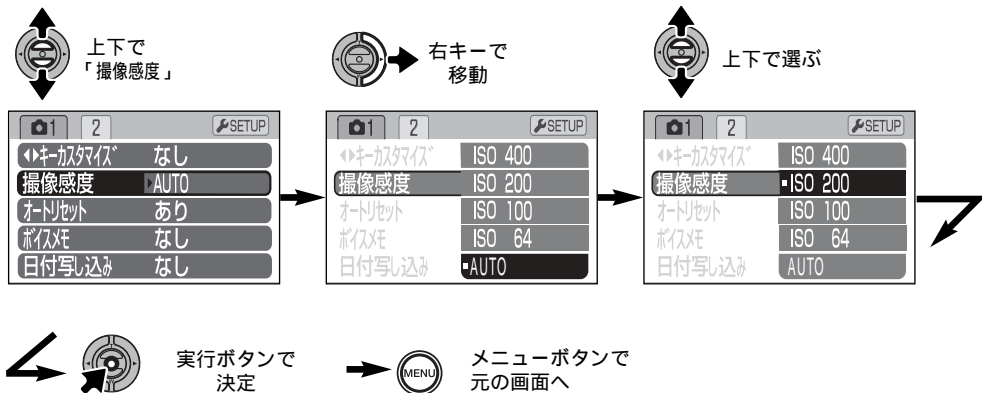
撮像感度	フラッシュ調光距離	
	広角側	望遠側
オート（AUTO）	0.10～3.6m	0.10～2.7m
ISO 64	0.10～2.0m	0.10～1.5m
ISO 100	0.10～2.5m	0.10～1.9m
ISO 200	0.10～3.6m	0.10～2.7m
ISO 400	0.10～5.1m	0.10～3.8m

設定方法

1. 撮影モード📷で、メニューボタンを押し、メニュー画面を表示させます。

2. 上下レバーと右キーで、「撮像感度」から希望の設定を選び、実行します。

実行ボタンで
決定

メニューボタンで
元の画面へ

撮像感度

オートリセット

オートリセットを「あり」にすると、メインスイッチを入れ直すたびに下記の設定項目が初期設定に自動的にもどります。「なし」にすると、メインスイッチを入れ直しても前回に使用した設定が保持されます。

状態の変わる項目	初期設定（この状態にもどります）
画面表示の切り替え（P.33、P.36）	表示あり
フラッシュモード*（P.44）	自動発光または赤目軽減自動発光
ドライブモード（P.47）	1コマ撮影
露出補正*（P.57）	±0.0
ホワイトバランス（P.59）	AUTO
撮像感度（P.66）	AUTO
モノトーン（P.60）	カラー
ポートレート（P.58）	OFF

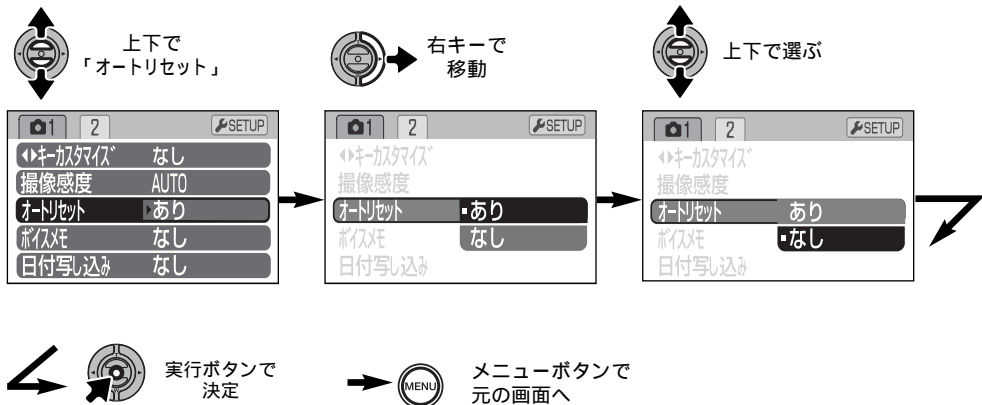
*フラッシュモードを前回 赤目軽減自動発光 に設定していた場合は、オートリセット「あり」で電源を入れ直すと、自動発光ではなく赤目軽減自動発光になります。その他のフラッシュモードの場合は自動発光になります。

● お買い上げ時は、オートリセット「あり」に設定されています。電源を入れ直したときに前回設定した状態でそのまま撮影したい場合は、オートリセットを「なし」にしてください。

設定方法

1.撮影モード📷で、メニューボタンを押し、メニュー画面を表示させます。

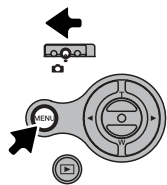
2.上下レバーと右キーで、「オートリセット」から希望の設定を選び、実行します。

実行ボタンで
決定

メニューボタンで
元の画面へ

ボイスメモ

撮影直後に、最大15秒間、撮影した画像のコメント等を音声で入れることができます(ボイスメモ)。

設定方法

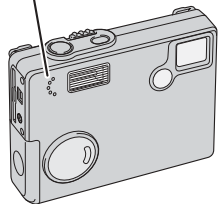
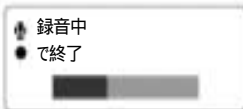
1.撮影モード📷で、メニューボタンを押し、メニュー画面を表示させます。

2.上下レバーと右キーで、「ボイスメモ」の「あり」「なし」を選びます。

メニューボタンで
元の画面へ

● ボイスメモを「あり」に設定すると、液晶モニター左上に音声録音を表す🎙が表示されます。

操作方法

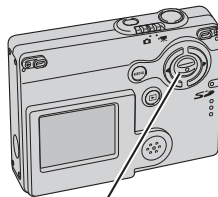
1.撮影します。

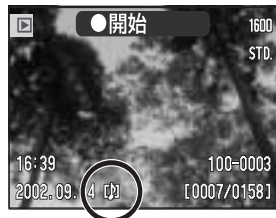
録音中
で終了

- 直後に右の画面が現れます。撮影2秒後から録音は始まります。（アフタービュー（→P.76）が「あり」の場合は、2秒間のアフタービューの後すぐ録音が始まります。）
- 録音中はカメラ前面のランプが赤く点灯します。

2.マイクに向かって話します。

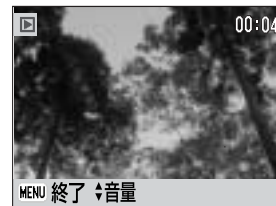
- 残りの秒数を画面右下に表示します。
- マイクの部分を指などでふさがないようにしてください。

3.録音を終了するときは実行ボタンを押します。

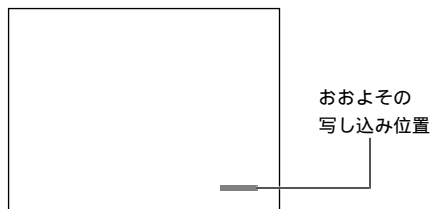
- ボイスメモは最大15秒間可能です。15秒経過すると、自動的に録音は終了します。
- 録音するときは、マイクから20㎝くらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。
- 連続撮影の場合は、最後のコマにだけボイスメモを付けることができます。

音声（ボイスメモ）付き画像の再生

1.1コマ再生、または、インデックス再生で、ボイスメモ付き画像を選択します。

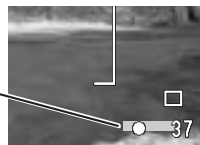
- 画面下に 🔊 が表示されます。

2.実行ボタンを押すと、音声が再生されます。

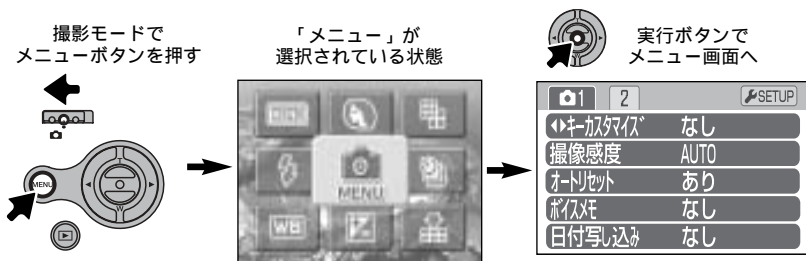
- 右上の数値は経過秒数です。
- 再生中は、上下レバーで再生音量の調節ができます（上レバーで音量アップ、下レバーで音量ダウン）。
- 途中で再生を終えるときは、メニューボタンを押してください。

日付写し込み

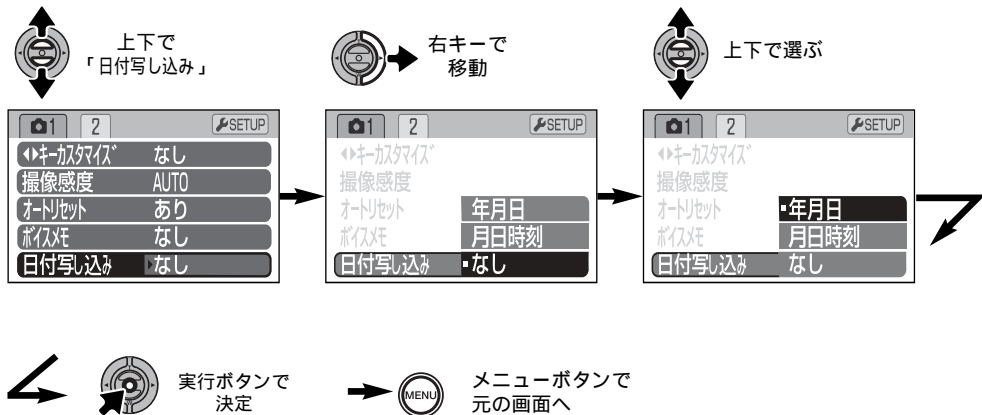
撮影の「年月日」または「月日時刻」を、画像の右下に入れることができます。

●実際の写し込み位置は右のようになります。

●日付写し込みを「なし」に設定していても、撮影時の年月日・時刻は記録され、再生時には液晶モニター画面左下に表示されます。

※年月日の並びを変更するときは → P.139

日付写し込みを「年月日」または「月日時刻」に設定したときは、液晶モニター画面右下に黄色のバーが表示されます。

設定方法

1.撮影モード📷で、メニューボタンを押し、メニュー画面を表示させます。

2.上下レバーと右キーで、「日付写し込み」から希望の設定を選び、実行します。

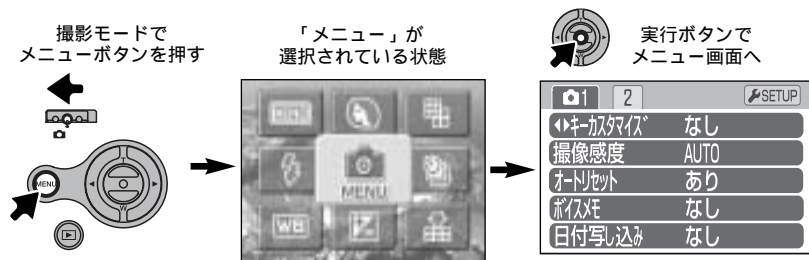
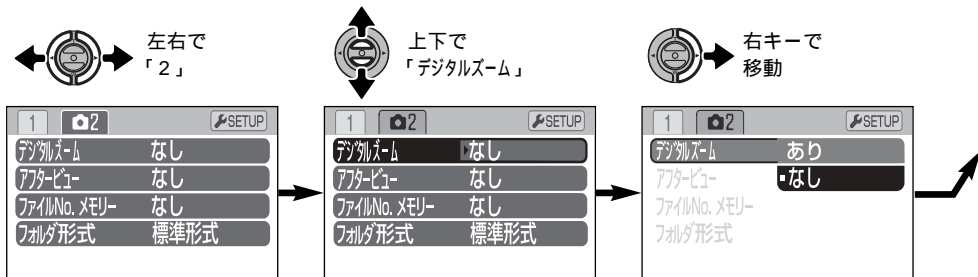
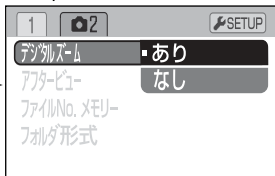
実行ボタンで
決定

メニューボタンで
元の画面へ

デジタルズーム

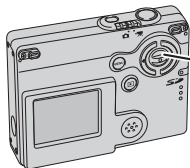
通常のズーム（光学ズーム）で最望遠側にした後、デジタルズームにより、さらに4倍まで画像を拡大することができます。

● デジタルズームは拡大すればするほど、画質は劣化します。

設定方法

1. 撮影モード で、メニューボタンを押し、メニュー画面を表示させます。

2. 2の「デジタルズーム」から希望の設定を選び実行します。

実行ボタンで
決定

メニューボタンで
元の画面へ

操作方法

1. 撮影モード位置（📷）で、上下レバーの上側で望遠側にズームさせます。

2. そのままズームを続けると自動的にデジタルズームになり、画像がさらに4倍まで拡大されます。

● 液晶モニター右上に、現在のデジタルズームでの倍率が表示されます。0.1倍ごとに4.0倍まで拡大することができます。

● デジタルズームは、拡大すればするほど画質は劣化します。ただしこのカメラでは画像補間が行われますので、画像サイズは変わりません。

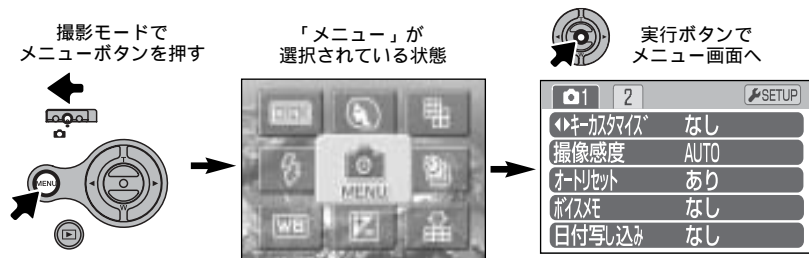
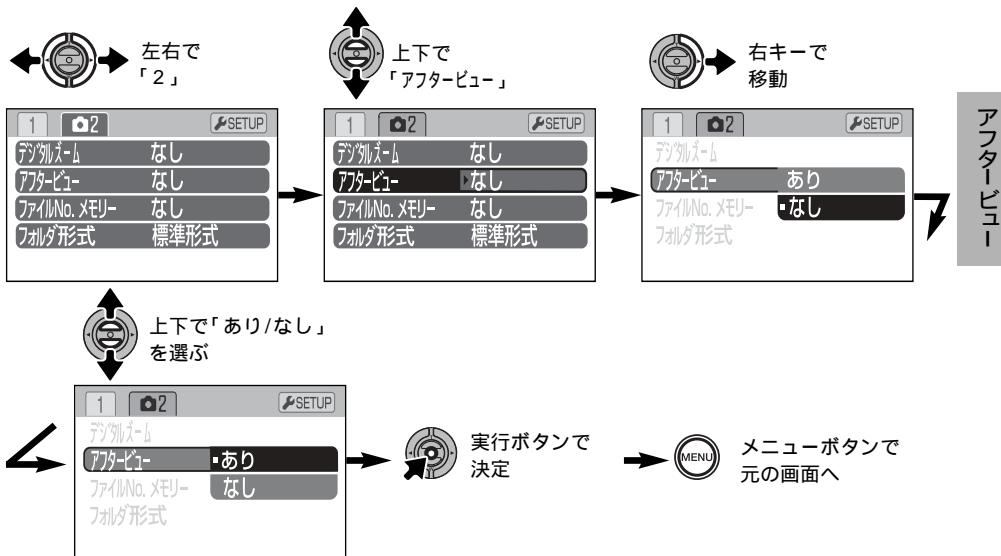
● 動画撮影（→ P.83）の場合も、同様のデジタルズームが可能です。

アフタービュー

撮影直後に、撮影した画像を約2秒間液晶モニターに表示させることができます（アフタービュー）。

● 連続撮影の場合は、最後のコマのみが表示されます。
● アフタービューで画像表示中にシャッターボタンを半押しすると、アフタービューはキャンセルされます。
● アフタービュー「なし」でも、撮影後シャッターボタンを押し込んだままにすると、押し込んでいる間撮影した画像が表示されます。

設定方法

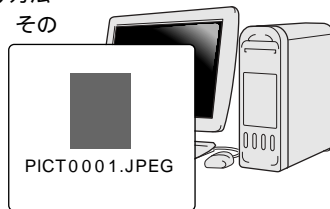
1.撮影モード📷で、メニューボタンを押し、メニュー画面を表示させます。

2. 📷 2の「アフタービュー」から希望の設定を選び、実行します。

ファイルNo.メモリー

撮影した画像を、パソコンに取り込むと（パソコンへの取り込み方法P.141～）画像に以下のようなファイル名がつけられています。そのファイル名につけられた数字をファイル番号（No.）といいます。

ファイル名の例：

PICT 0001 .JPG

ファイル番号（0001～）　拡張子（ファイルの種類を識別する部分）

PICT0001.JPEG

●お使いのパソコンの設定によっては、拡張子が表示されない場合があります。

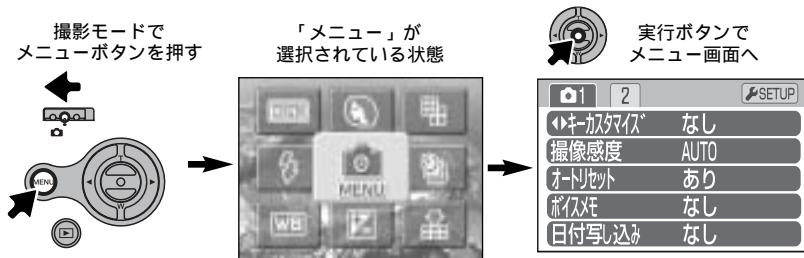
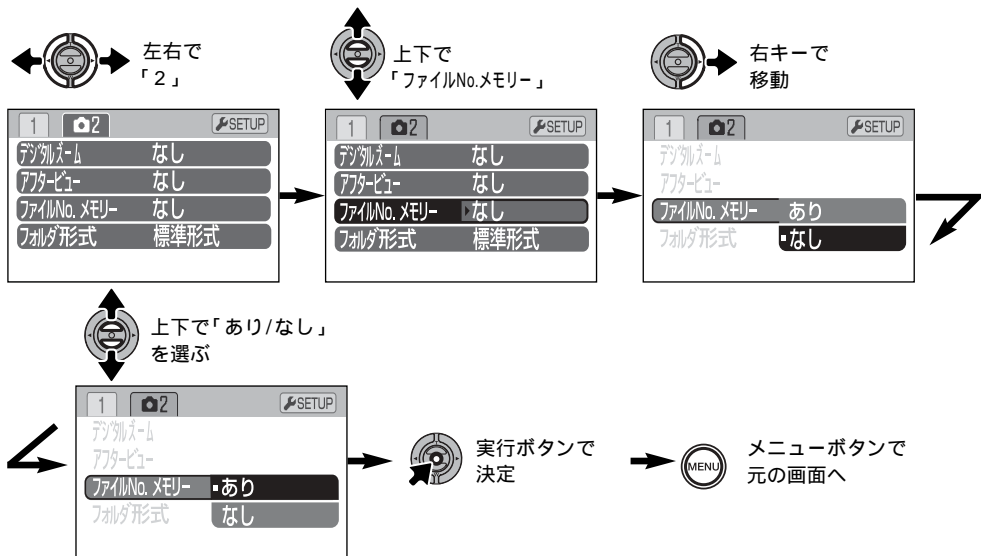
ファイル番号（No.）は通常1ずつ増えていきますが、以下のような場合には新しいフォルダがつくられ、再び0001からはじまります。

- ●ファイル番号がPICT9999まで進んだとき
- ●全画像を消去したとき（P.93）
- ●フォーマットしたとき（P.134）
- ●カードを交換したとき
- ●フォルダ形式（P.80）を変更し、新しいフォルダに画像の保存が始まるとき
- ●日付フォルダ形式（P.80）で日付が変わり、新しいフォルダに画像の保存が始まるとき

※新しいフォルダに、すでにファイルが存在する場合はその次の番号から始まります。

ファイルNo.メモリを「あり」にすると、ファイル番号（No.）が再び0001から始まらないようにすることができます。ファイル番号が重複しないので、パソコンで画像整理をするときに便利です。

設定方法

1.撮影モードで、メニューボタンを押し、メニュー画面を表示させます。

2. 2の「ファイルNo.メモリー」から希望の設定を選び、実行します。

フォルダ形式

撮影した画像をパソコンに取り込むと（パソコンへの取り込み方法 P.141〜）、フォルダの中に画像ファイルが保存されています。

フォルダの形式は「標準形式」と「日付形式」の2種類があります。初期設定は「標準形式」になっていますが、フォルダ形式で「日付形式」に切り替えることができます。

DCIM

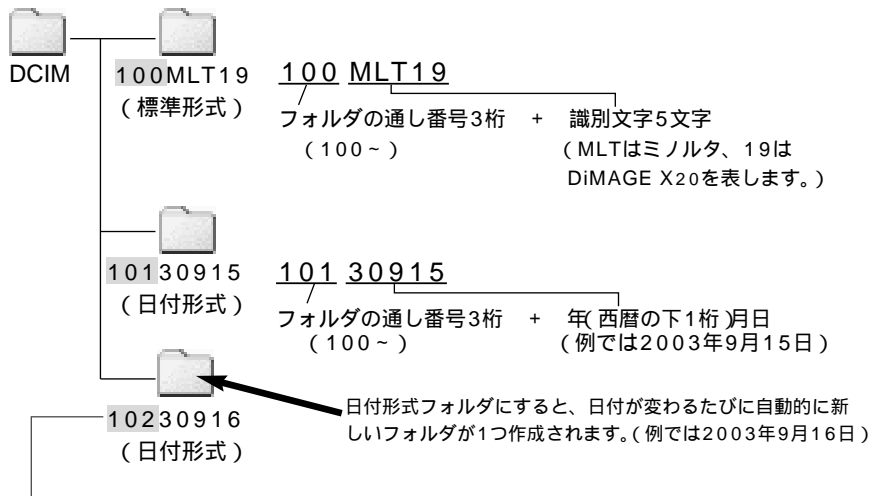
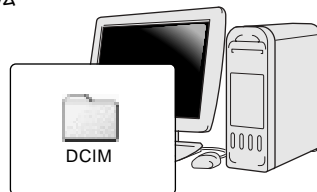
100MLT19
（標準形式）

100 MLT19
フォルダの通し番号3桁（100〜） ＋ 識別文字5文字（MLTはミノルタ、19はDiMAGE X20を表します。）

10130915
（日付形式）

101 30915
フォルダの通し番号3桁（100〜） ＋ 年（西暦の下1桁）月日（例では2003年9月15日）

10230916
（日付形式）

日付形式フォルダにすると、日付が変わるたびに自動的に新しいフォルダが1つ作成されます。（例では2003年9月16日）

通し番号は“ 100 ”から始まり、フォルダが作成されるたびに 1つずつ増えて行きます。

- 日付形式フォルダは、日付・時刻を正確に合わせた状態でお使いください。
- フォルダの削除は、カメラをパソコンに接続してパソコン側で行なうか（→ P.144〜）、カメラ側でカードをフォーマットしてください（→ P.134）。

設定方法

1.撮影モード📷で、メニューボタンを押し、メニュー画面を表示させます。

2.📷2の「フォルダ形式」から希望の設定を選び、実行します。

左右で「2」

上下で「フォルダ形式」

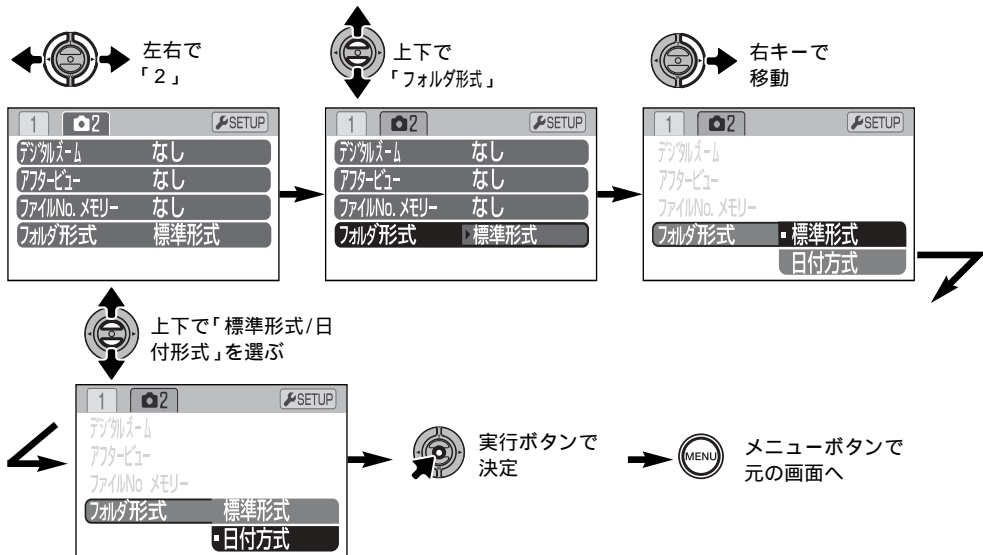
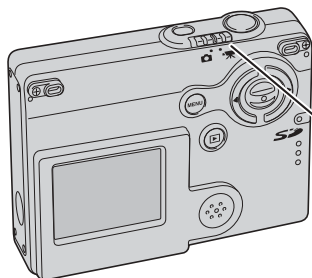
右キーで移動

1	📷2	SETUP
デジタルズーム	なし	
アフタービュー	なし	
ファイルNo.メモリー	なし	
フォルダ形式	標準形式	

上下で「標準形式/日付形式」を選ぶ

1	📷2	SETUP
デジタルズーム		
アフタービュー		
ファイルNo.メモリー		
フォルダ形式	標準形式	
	日付方式	

実行ボタンで決定

メニューボタンで元の画面へ

動画撮影モード

カメラの撮影モード切り替えレバーを🎥位置にすると、動画撮影モードになります。この章では、この動画撮影について説明しています。

このカメラは、カードの容量がなくなるまで連続しての動画撮影ができます。長時間連続して動画撮影される場合は、別売りのACアダプター AC-6Lのご使用をおすすめします。

動画撮影

カードの容量がなくなるまで、連続して動画撮影を行なうことができます。音声も同時に記録されます。

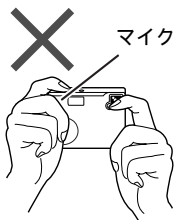
1.カメラの電源を入れます。

2.撮影モード切り替えレバーを に合わせます。

●液晶モニターが動画撮影の画面になります。

3.シャッターボタンを押して撮影を開始します。

●カードの容量が残り少なくなるなど撮影可能時間が10秒以下になると、残り時間が赤色で表示されます。

●ピント位置は、動画撮影開始時に固定されます。

●マイクの部分を指などでふさがないよう、カメラの持ち方にご注意ください。

4.撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

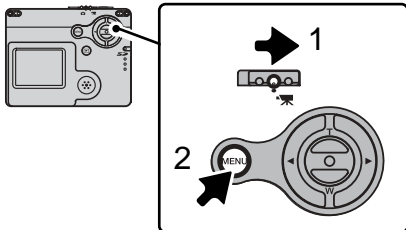
●残り秒数が 0 になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

次ページへ続く

- 電池の容量表示が（赤色）のときは、動画撮影できません。「電池が少ないので動画撮影できません」のメッセージが表示されます。
- 記録（書き込み）速度の遅いカードを使用されている場合、カメラの内部メモリがいっぱいになってしまい、カード容量がなくなる前に動画撮影が終了することがあります。
- 録音された動画は、SDメモリーカード内にMotion JPEG（MOV）ファイルとして保存されます。
- 付属の8MBのカードには、合計約19秒間（画像サイズ320×240）、または、合計約1分14秒間（画像サイズ160×120）の動画を記録することができます。

動画撮影時に設定/変更可能な機能は以下の通りです。

	動画撮影する前	動画撮影中
設定／変更可能なもの	・上下レバーによるレンズのズーム（光学ズーム、デジタルズーム） ・実行ボタンを2秒間押して液晶表示の切り替え（表示あり⟷表示なし） ・動画撮影メニュー	上下レバーによるデジタルズーム

動画撮影メニュー

撮影モードレバーが動画撮影位置 にあるときにメニューボタンを押すと、動画撮影メニューのクイックパネルが表示され、カメラの様々な設定を変更することができます。

1.撮影モードレバーを動画 にします。

2.メニューボタンを押します。

液晶モニターに5つのアイコンが表示され、以下のカメラの設定を変更することができます。

- 露出補正、ホワイトバランス、モノトーンの設定は、撮影モード 📷 のメニュー設定と共通です。一方で設定すると、もう一方のモードにも設定が反映されます。

十字キーで選択

実行ボタンで決定

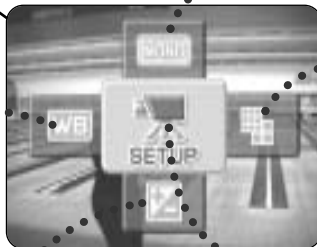
モノトーン　P.60

画像サイズ

動画撮影で画像サイズを小さくすると、画質は落ちますが連続撮影時間が長くなります。

320×240（初期設定）

160×120

ホワイトバランス　P.59

セットアップ

セットアップのメニュー画面へ移ります。**P.125**

露出補正　P.57

- アイコンを選択すると、各々の機能の説明が表示されます。

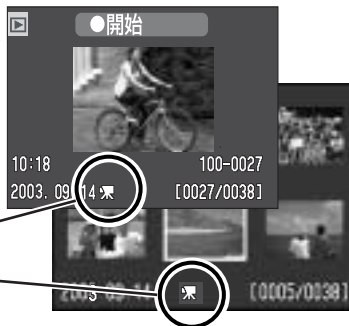
上下キーで設定を選択　　実行ボタンで決定

- 動画撮影メニューは動画時のみに可能です。
- 撮影モードで左右キーダイレクトに露出補正、ホワイトバランスを設定していた場合は、動画モードでも有効です。

動画の再生

1.再生ボタンを押して、再生モードにします。

2.1コマ再生、または、インデックス再生で、動画を選択します。

●動画開始時の画像が静止画として現れます。

画像に が表示されています。

3.実行ボタンを押すと、動画の再生が開始されます。

●右上の数値は経過時間です。

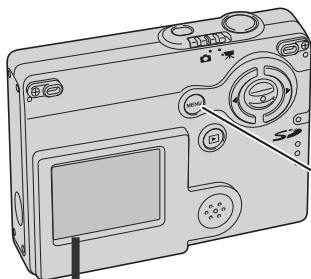
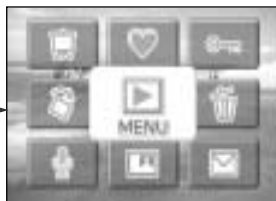
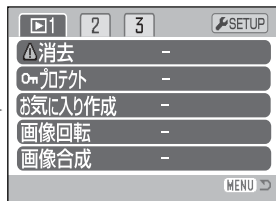
●再生中に実行ボタンを押すと、一時停止・再スタートを繰り返します。左右キーで再生の巻戻し、早送りができます(右キーが早送り、左キーが巻戻し)。

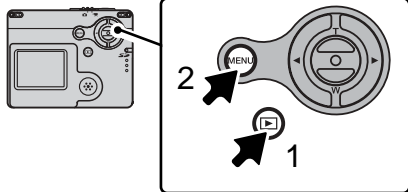
●デジタルカメラのスピーカーから音声も同時に再生されます。再生中に上下レバーで音量の調節ができます。(上レバーで音量アップ、下レバーで音量ダウン。)

4.再生を終えるときは、メニューボタンを押します。

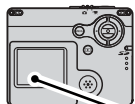
●最後まで再生が終了すると、自動的に再生開始前の画面に戻ります。

●動画の拡大再生はできません。

再生メニュー

再生モードのときにメニューボタンを押すと、カメラの様々な設定を変更することができます。この章では再生モードのメニューについて説明しています。

現在再生中の1コマに対しての操作をしたり、手早く操作を開始したりします。また、お気に入り再生の操作を行ないます。(P.88)

さらに詳細な設定や、複数のコマに対しての設定、またはその他の設定をします。(P.89)

クイックパネル（再生メニュー）

再生ボタンを押し、メニューボタンを押すと再生メニューのクイックパネルが表示されます。

1.再生ボタンを押します。

2.メニューボタンを押します。

液晶モニターに9つのアイコンが表示され、以下の設定を操作することができます。さらに詳細の設定や複数コマに対しての設定、その他の設定については中央のメニューアイコンを選択します。

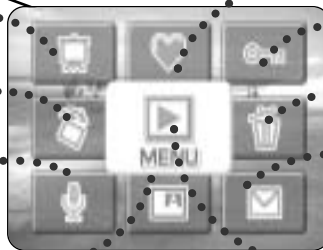
十字キーで選択

実行ボタンで決定

お気に入り再生　P.102

スライドショー　P.110

プロテクト　P.95

画像回転　P.104

消去　P.92

メール画像作成　P.124

アフレコ　P.98

メニュー　次ページ
詳細な設定変更の画面へ移ります。

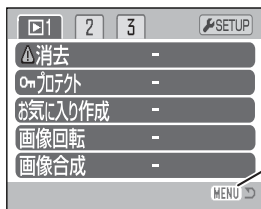
画像合成　P.109

1 2 3 SETUP
消去 -
プロテクト -
お気に入り作成 -
画像回転 -
画像合成 -
MENU

● アイコンを選択すると、各々の機能の説明が表示されます。

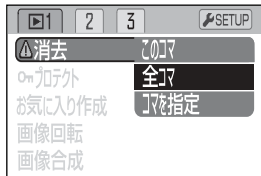
● 各々の設定画面に移った後、メニューボタンを押すと通常の再生画面に戻ります。

再生メニュー

複数の画像に対してまとめて設定をする場合や、さらに詳細の設定をする場合、またはその他の設定をする場合はメニュー画面で行ないます。

メニューボタンで通常再生にもどる

1.左右キーで「▶1」「▶2」「▶3」のいずれかを選びます。

2.上下レバーで、希望の項目を選びます。

3.右キーで、設定の内容を表示させます。

4.上下レバーで、希望の設定を選びます。

5.中央の実行ボタンを押して、設定を決定します。

次ページへ続く

設定内容

◎は初期設定値です。

再生メニューで、以下の設定が変更できます。

▶1

項目	設定
消去 P.93	このコマ 全コマ コマを指定
プロテクト P.96	このコマ 全コマ コマを指定 全コマ取り消し
お気に入り作成 P.100	このコマ コマを指定
画像回転 P.104	このコマ コマを指定
画像合成 P.106	実行する

▶2

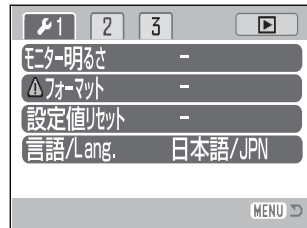
項目	設定
スライドショー P.112	実行する
└再生画像 P.110	全コマ コマを指定
└間隔 P.110	1〜60秒（◎5秒）
└繰り返し P.110	あり ◎なし
└コマ送り効果 P.110	ランダム ◎なし

▶3

DPOF指定 P.114	このコマ 全コマ コマを指定 全コマ取り消し
└インデックスプリント P.118	あり ◎なし
メール画像作成 P.125	このコマ コマを指定
└ 画像サイズ P.124	◎640×480 160×120

SET UP

このタブを選んで実行ボタンを押すとセットアップメニューの画面になります。（P.130）

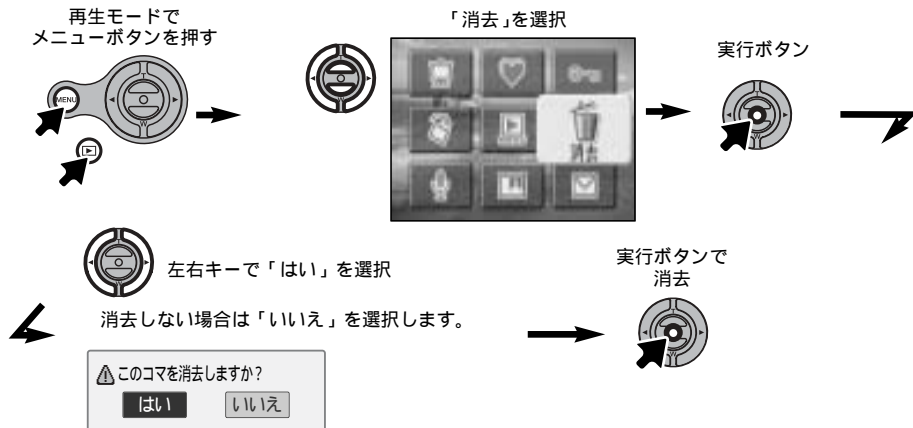
再生メニュー

画像を消去する

撮影した画像を消去します。

いったん消去した画像を復活させることはできません。

1コマずつ消去する

1.消去したいコマを再生させます。

2.クイックパネルで「消去」を実行します。

● 画像がプロテクト（→ P.95）されていて消去できない場合は、消去のアイコンを選択できません。

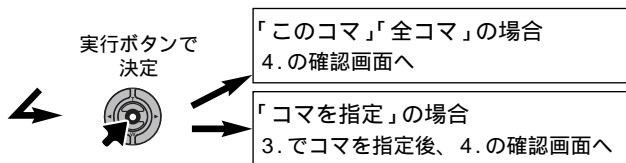
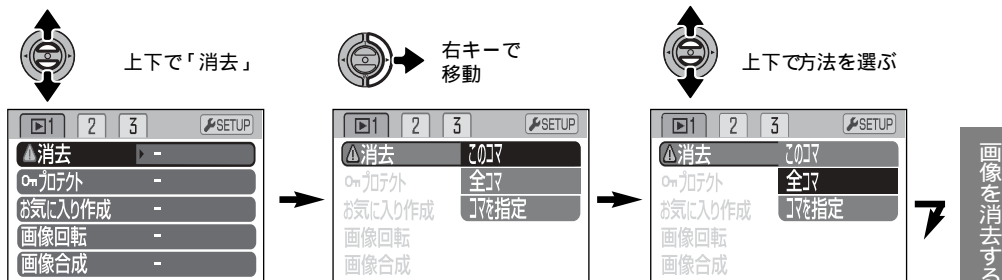
● 音声付き画像の場合、画像を消去すると音声も同時に消去されます。

複数の画像を消去する

メニューでは複数の画像をまとめて消去することもできます。以下の3通りの消去方法があります。
このコマ（1コマ消去）：　再生中の画像を1コマだけ消去します。
全コマ（全コマ消去）：　カード内の画像すべてを消去します。
コマを指定：　指定した画像だけを消去します。

1.クイックパネルからメニュー画面を表示させます。（P.88）

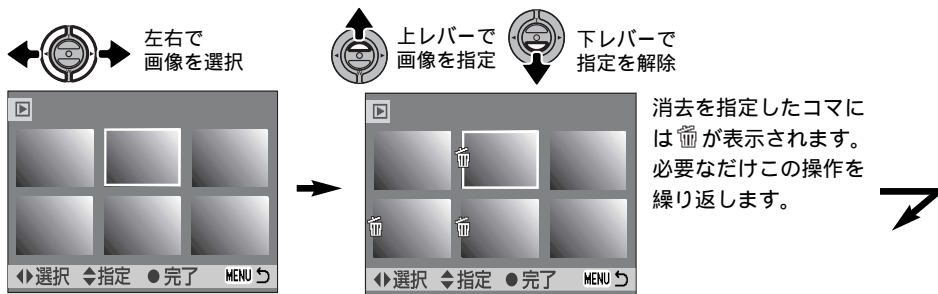
2.「消去」から希望の設定を選び実行します。

次ページへ続く

3.「コマを指定」の場合、消去するコマを指定し、実行ボタンで実行します。

左右で
画像を選択

上レバーで
画像を指定

下レバーで
指定を解除

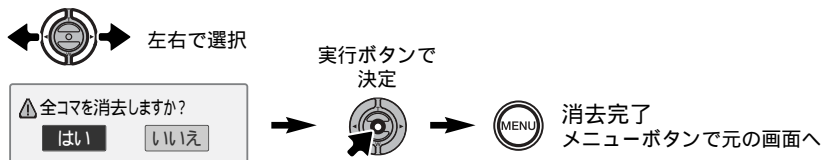
消去を指定したコマには🗑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

実行ボタンで
指定を完了

- 実行ボタンを押すと、**4.** の消去確認画面に進みます。
- 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、画像の指定が解除され、メニュー画面に戻ります。

4.確認後、消去します。（下図は全コマ消去の場合）

実行ボタンで
決定

MENU

消去完了
メニューボタンで元の画面へ

- 🔑が表示されている画像はプロテクト（誤消去防止、→次ページ）されていて、消去できません。
- 音声付き画像の場合、画像を消去すると音声も同時に消去されます。

⚠プロテクトされています

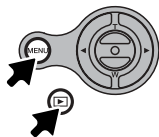
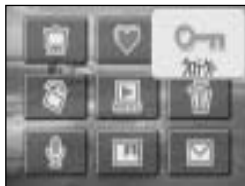
大事な画像を残す（プロテクト、誤消去防止）

撮影した画像（音声も含む）にプロテクトをかけ、間違って消去してしまわないようにすることができます。

1コマずつプロテクト（プロテクト解除）する

1.プロテクトしたいコマを再生させます。

2.クイックパネルで「プロテクト」を実行します。

●既にプロテクトしている画像を選んで実行すると、プロテクトが解除されます。

●プロテクトのかかった画像には、液晶モニターに 🔑 が表示されます。

●カードをフォーマット（初期化、→ P.134）すると、プロテクトのかかった画像も消去されます。

画像を残す

次ページへ続く

複数の画像をプロテクト（プロテクト解除）する

メニューでは複数の画像にまとめてプロテクトを指定したり、解除することもできます。以下の4通りの方法があります。

このコマ（1コマプロテクト）： 再生中の画像1コマだけにプロテクトをかけます。
1コマだけプロテクトを取り消す場合にも使えます。
全コマ（全コマプロテクト）： カード内の画像すべてにプロテクトをかけます。
コマを指定： 画像を指定してプロテクト（またはプロテクト解除）する
全コマ取り消し： カード内の画像すべてのプロテクトを取り消します。

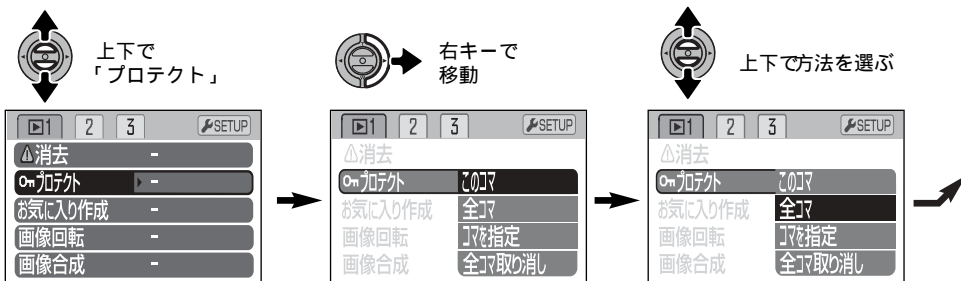
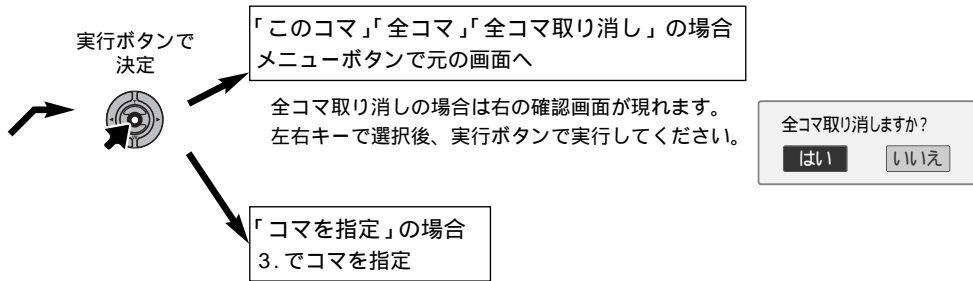
1.クイックパネルからメニュー画面を表示させます。（P.88）

2.「プロテクト」から希望の設定を選び実行します。

実行ボタンで
決定

「このコマ」「全コマ」「全コマ取り消し」の場合
メニューボタンで元の画面へ

● 全コマ取り消しの場合は右の確認画面が現れます。
左右キーで選択後、実行ボタンで実行してください。

全コマ取り消しますか？
はい　いいえ

「コマを指定」の場合
3. でコマを指定

3.「コマを指定」の場合、プロテクトをかける（または取り消す）コマを指定し、実行ボタンで実行します。

左右で
画像を選択

上レバーで
画像を指定

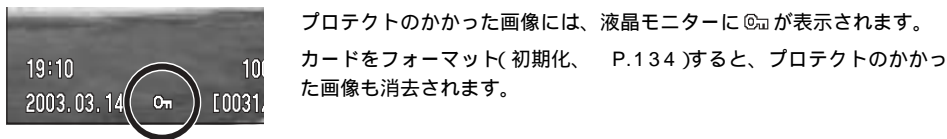
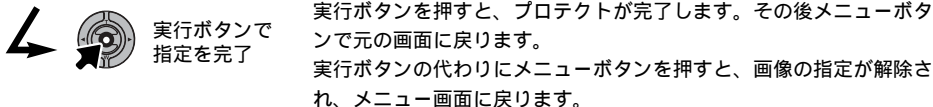
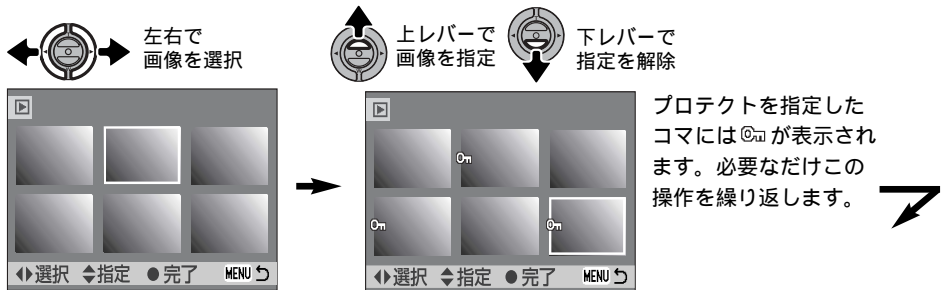
下レバーで
指定を解除

プロテクトを指定したコマには ⊶ が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

実行ボタンで
指定を完了

● 実行ボタンを押すと、プロテクトが完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
● 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、画像の指定が解除され、メニュー画面に戻ります。

● プロテクトのかかった画像には、液晶モニターに ⊶ が表示されます。
● カードをフォーマット（初期化、→ P.134）すると、プロテクトのかかった画像も消去されます。

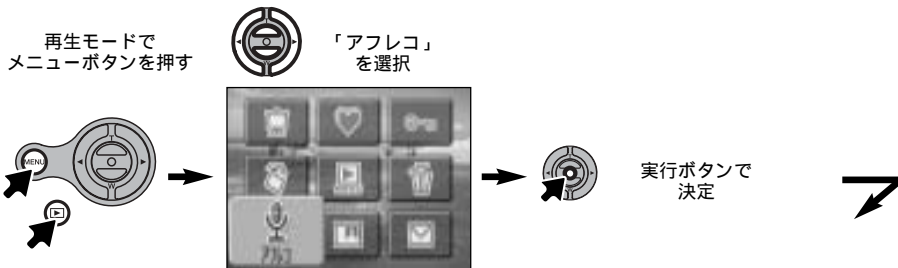
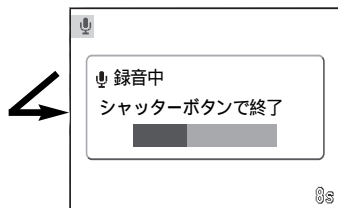
画像を残す

アフレコ

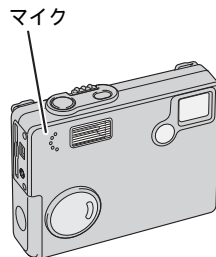
撮影後、画像に音声を付けることができます。最大15秒間の録音が可能です。

※アフレコ　＝　アフターレコーディング（After recording）の略

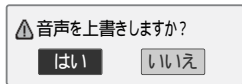
設定方法

1.アフレコを付けたいコマを再生させます。

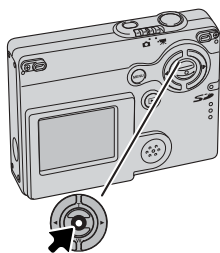
2.クイックパネルで「アフレコ」を実行します。

シャッターボタンを押して録音開始

シャッターボタンを押すと録音が開始されます。マイクに向かって話します。

- ●声を録音するときは、マイクから20cmくらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。
- ●録音中は前面のランプが赤く点灯します。

3.録音を終了するときはシャッターボタンを押します。

● アフレコは最大15秒間可能です。15秒経過すると、自動的に録音は終了します。
● メニューボタンを押すと元の画面にもどります。

● アフレコを付けた画像には、液晶モニターに 🔊 が表示されます。

● すでに音声（ボイスメモまたはアフレコ）が付いている場合、左のメッセージが表示されます。上書きする場合は左右キーで「はい」を選択し、実行ボタンを押すと、前の音声を上書きして新たな音声が録音されます。

● 動画およびプロテクト（→ P.95）をかけた画像にはアフレコを付けることはできません。

音声（アフレコ）付き画像の再生

1. 1コマ再生、または、インデックス再生で、アフレコ付き画像を選択します。

● 画面下に 🔊 が表示されます。

2.実行ボタンを押すと、音声が再生されます。

● 右上の数値は経過秒数です。
● 再生中は、上下レバーで再生音量の調節ができます（上レバーで音量アップ、下レバーで音量ダウン）。
● 途中で再生を終えるときは、メニューボタンを押してください。

お気に入り

お気に入りの画像をコピーし、通常の再生画像と区別してカード内に保存することができます。お気に入りの画像だけを集めたり、画像を整理したりするのにお使いいただけます。また、通常の再生操作では、お気に入り作成した画像は再生されないので、再生プロテクトとしてもお使いいただけます。

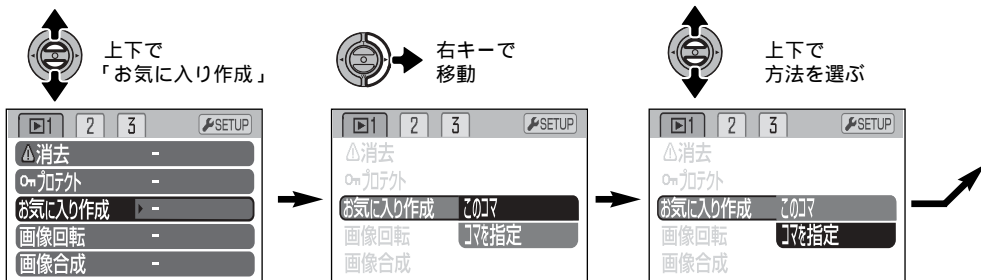
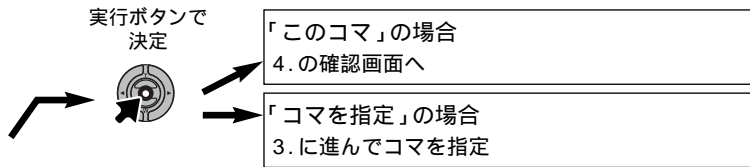
- お気に入り作成すると、元画像がコピー（640×480、エコノミー）され、お気に入りのフォルダに保存されます。元画像はそのまま残ります。
- 音声付き画像は、音声も同様にコピーされます。Eメール画像作成用の160X120はそのままコピーされます。
- プロテクト（誤消去防止の設定）された画像からもお気に入り画像を作成できます。ただし、作成されたお気に入り画像にはプロテクトがかかっていません。
- 動画はお気に入り作成できません。

お気に入りを作成する

以下の2通りの方法があります。

このコマ：　再生中の画像1コマだけをお気に入り作成します。
コマを指定：　指定した画像をお気に入り作成します。

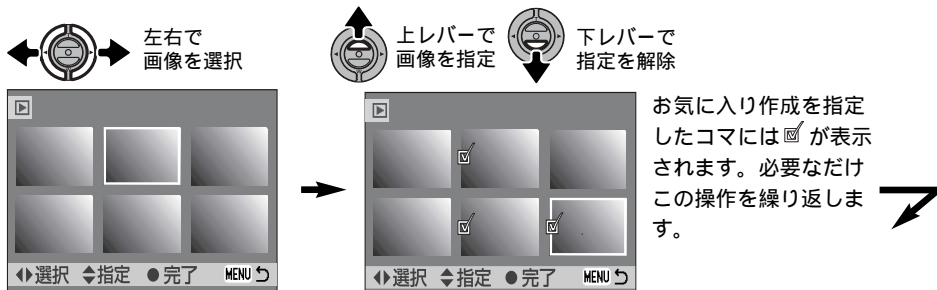
1.クイックパネルからメニュー画面を表示させます。（P.88）

2.「お気に入り作成」から希望の設定を選び実行します。

3.「コマを指定」の場合、お気に入りを作成するコマを指定し、実行ボタンで実行します。

左右で
画像を選択

上レバーで
画像を指定

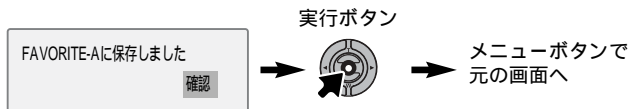
下レバーで
指定を解除

お気に入り作成を指定したコマには☑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

実行ボタンで
指定を完了

- 実行ボタンを押すと、コピーがはじまります。
- 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、画像の指定が解除され、メニュー画面に戻ります。

- 右のメッセージが現れた場合は、指定した画像全体のファイルサイズが大きくてカードの容量を超えています。画像の数を減らして指定し直してください。

画像が多すぎます
指定し直してください

4. お気に入り画像の作成が完了すると、確認画面が現れます。

- 作成されたお気に入り画像は、カード内につくられる" FAVORITE（お気に入り）"という名前のフォルダの「A01」にまとめて保存されます。9999枚までのお気に入り画像を保存することができます。
- 元画像とお気に入り画像はそれぞれ別のファイルとして扱われ、ファイル番号も変わります。たとえば、ある元画像を消去しても、それから作成されたお気に入り画像は消去されずに残っています。

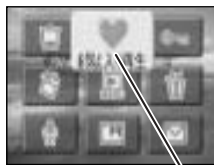
- 右のメッセージが現れた場合は、指定した画像がカードの容量を超えるか、動画のため、お気に入り画像を作成することができません。

作成できません

お気に入りを再生する

コピーされたお気に入り画像をカメラで再生します。
- 通常の再生操作では、コピーされた画像は再生されません。

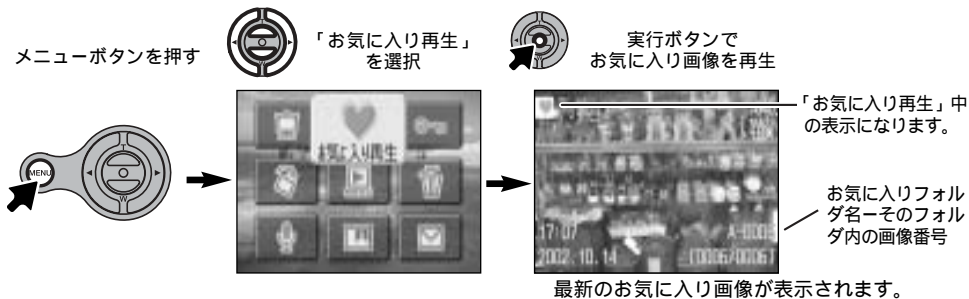
1. 電源OFFまたは撮影（動画撮影）モードの状態で、再生ボタンを2秒以上押します。

- クイックパネルの「お気に入り再生」が選択可能な通常再生になります。カメラの電源をOFFにするまでこの状態は保持されます。

再生ボタンを2秒以上押すまで「お気に入り再生」を選択することはできません。

<u>「お気に入り再生」中は、以下の機能は使えません</u>

アフレコ（P.98）、画像合成（P.106）、メール画像作成（P.124）、DPOF（プリント）指定（P.114）、お気に入り作成（P.100）、USB ダイレクトプリント（P.119）

2.クイックパネルの「お気に入り再生」を選んで実行します。

●最新のお気に入り画像が表示されます。

●お気に入り作成した画像がない場合は、「画像がありません」のメッセージが表示されます。

お気に入り再生から通常再生に戻る

クイックパネルの「通常再生」を選んで実行します。

●この操作をしなくても、お気に入り再生中にカメラの電源をOFFにすると、次に再生モードにした時には通常再生に戻っています。

●お気に入り画像は、通常の再生で全コマ消去しても、消去されません。元画像は全コマ消去で、消去されます。

●お気に入り再生で全コマ消去をすると、お気に入り画像は消去されます。

●お気に入り画像は、カードをフォーマット（初期化→P.134）すると消去されます。

お気に入り

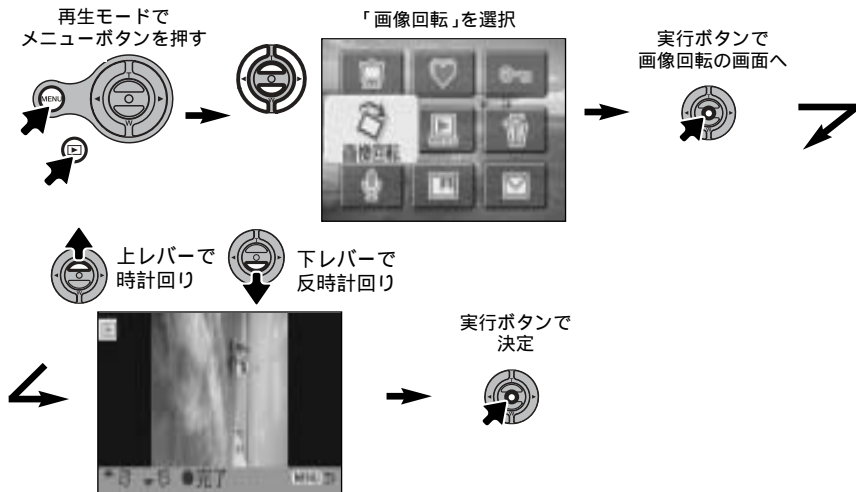
画像回転

画像を回転させて表示することができます。カメラを縦にして撮影した画像などを、回転させて見やすくすることができます。

- 動画は画像回転することができません。
- 画像回転すると、テレビで画像を表示したときも縦で再生されます。

1コマずつ回転する

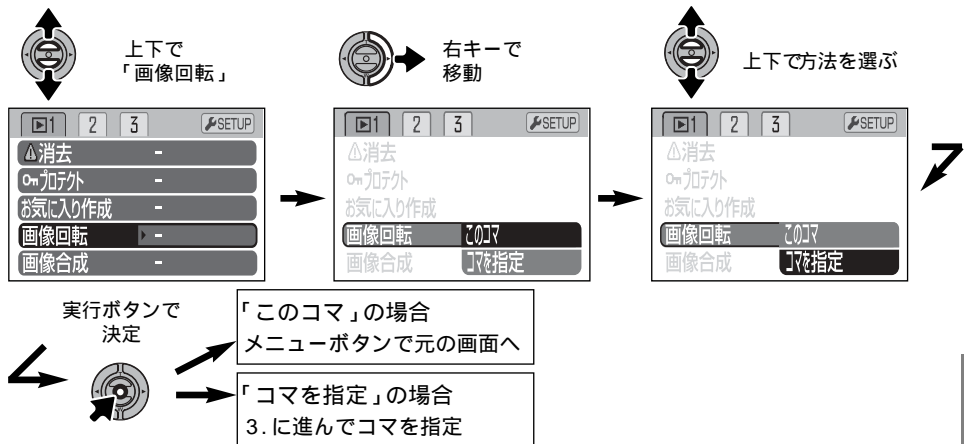
1.回転させたい画像を再生させます。

2.クイックパネルで「画像回転」を実行します。

複数の画像をまとめて回転する

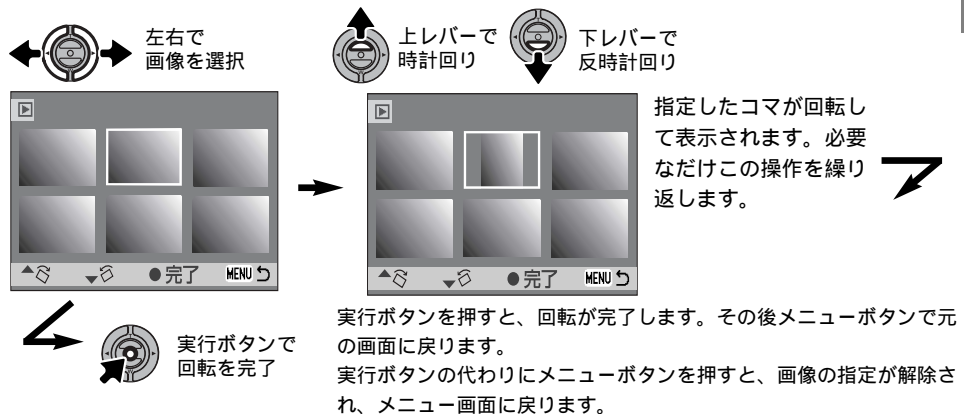
メニューでは複数の画像をまとめて回転することができます。以下の2通りの方法があります。

このコマ：　再生中の画像1コマだけを回転させます。
コマを指定：　指定した画像を回転させます。

1. クイックパネルからメニュー画面を表示させます。（P.88）

2.「画像回転」から希望の設定を選びます。

3.「コマを指定」の場合、回転するコマを指定し、実行ボタンで実行します。

指定したコマが回転して表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

- 実行ボタンを押すと、回転が完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
- 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、画像の指定が解除され、メニュー画面に戻ります。

画像合成

このカメラで合成写真を作成することができます。

- すでに撮影した画像を背景に、別の撮影画像を合成します。背景に選んだ画像は元画像としてそのまま残り、新たな合成写真を作成します。

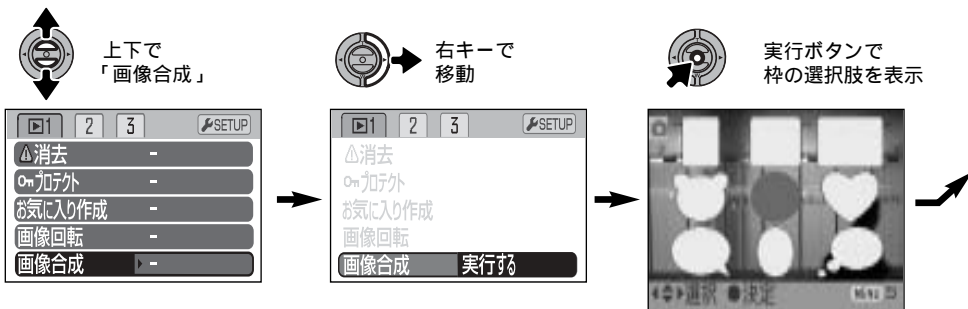
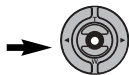
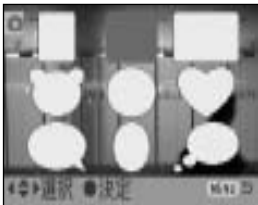
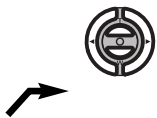
- 背景の画像をモノクロ（→モノトーン、P.60）にして、合成する写真をカラーにするなど、設定次第で様々な合成写真をつくることができます。

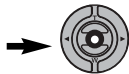
メニューで画像合成する

合成する写真の枠の種類や、大きさ、位置を選んで、合成写真を作成します。

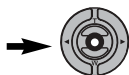
1.背景となる画像を再生させます。

- 他の弊社製カメラで撮影した画像の場合、画像サイズが1600画素×1200画素以下のJPEG画像のみ使用できます。

2.メニューから「画像合成」を選び、実行します。（P.88）

十字キーで枠の種類を選択

実行ボタンで
決定

上下レバーで枠の大きさを選択

実行ボタンで
決定

● 3段階のなかから、枠の大きさを選択できます。

十字キーで合成位置を選択

実行ボタンで
決定

● 上下レバーや左右キーを押す度に、合成位置が変わります。

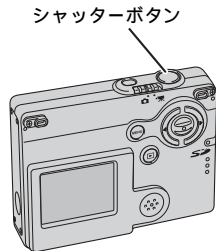
● 合成の操作中にメニューボタンまたは再生ボタンを押すと、画像合成はキャンセルされ再生画面に戻ります。キャンセルするまでに、すでに実行ボタンで決定した設定は保持されたままでお使いいただけます。

次ページへ続く

3.枠の中に合成したい被写体を入れ、シャッターボタンを半押しします。

- シャッター音を設定していると、ピントが合った際に音が鳴ります。

- 合成する画像は、背景の画像と同じ画像サイズ、画質に設定されます。
- 撮影時の設定は前回の撮影の設定と同じになります。

- 撮影中は上下レバーで光学ズームの設定を変更できます。画像合成が終了すると、この変更は解除され、前回の設定に戻ります。

4.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

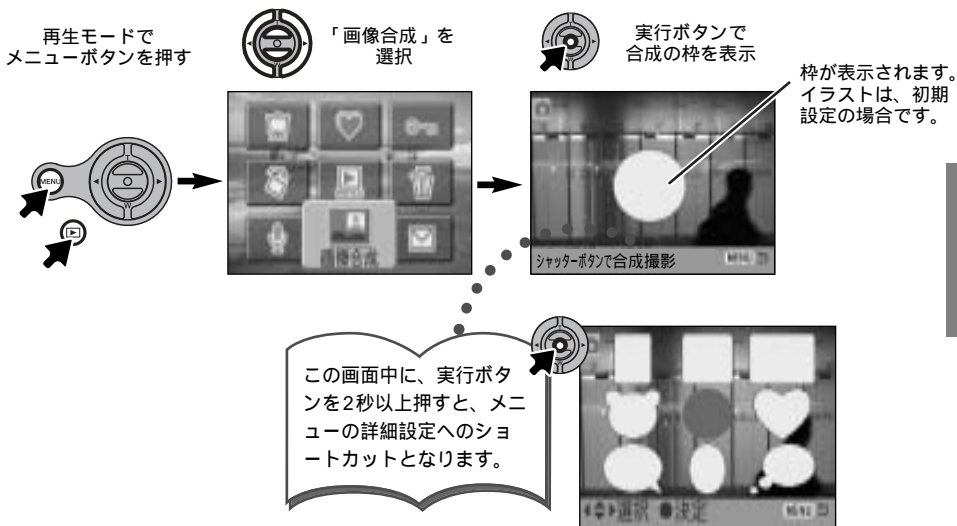
- 背景の画像が音声付き画像の場合は、作成した合成画像にも音声が付きます。
- 動画は画像合成できません。
- 合成枠の中に撮影した画像は、その画像のみでは保存されていません。

クイックパネルで画像合成する

メニューで選んだ枠の種類、大きさ、位置と同じ設定でクイックパネルから手早く画像合成を行なうことができます。メニューで詳細の設定を行なっていない場合は、初期設定の枠が画面に表示されます。

1.背景となる画像を再生させます。

2.クイックパネルで「画像合成」を実行します。

● この画面以降は、P.107の手順に従って、合成を完了してください。

3.枠の中に合成したい被写体を入れ、シャッターボタンを半押しします。

● 合成写真の撮影については前ページもあわせてお読みください。

4.シャッターボタンを押し込んで、枠のなかに合成したい画像を撮影します。

スライドショー（画像の自動再生）

カードに記録されている画像を、自動的に順番に表示させることができます。初期設定では、カード内のすべての画像が最初から順に5秒間隔で表示されます。

スライドショーの設定変更

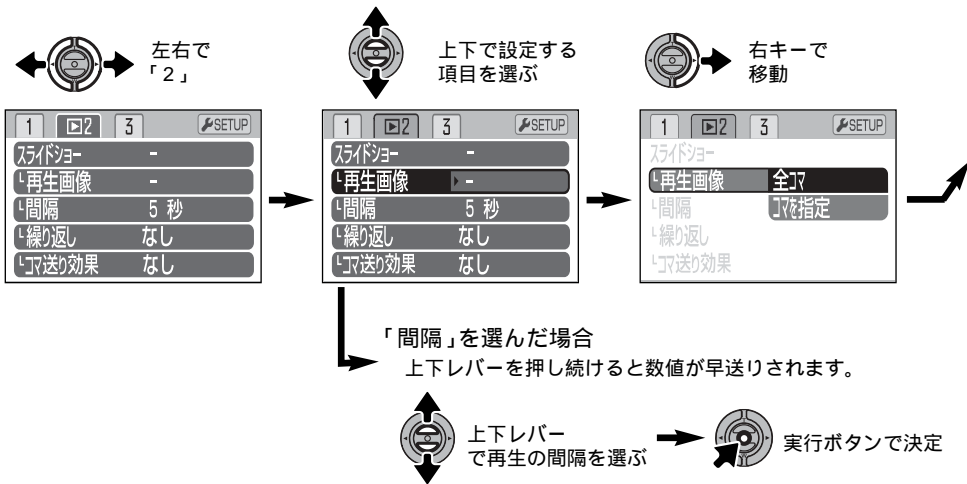
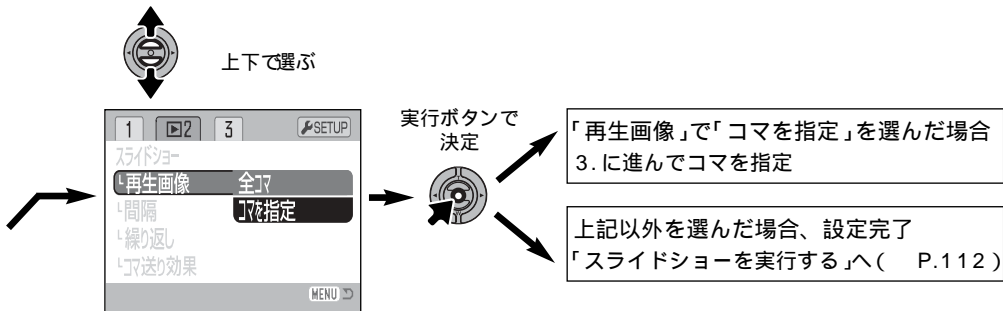
スライドショーの設定を以下の通り変更することができます。

再生画像　：全コマ（全コマを再生する）／コマを指定（再生するコマを指定する）
間隔（画像表示時間）　：１秒～６０秒の範囲で、１秒ごと
繰り返し　：なし／あり
コマ送り効果　：ランダム／なし（様々なコマ送りの効果を楽しむことができます。）

1.クイックパネルからメニュー画面を表示させます。（P.88）

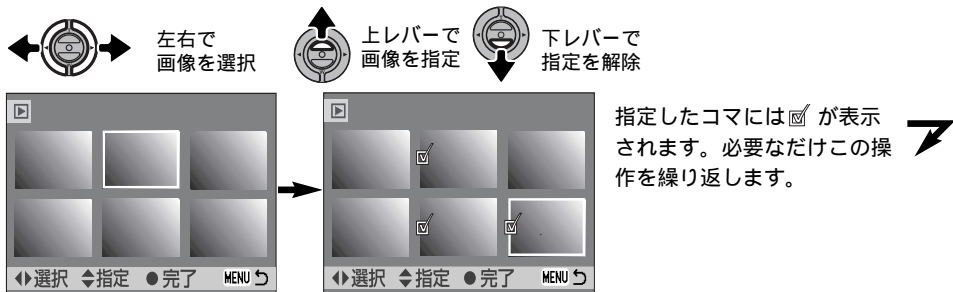
2.▶2の「スライドショー」から希望の設定を選び、実行します。

「スライドショーを実行する」へ（→ P.112）

「再生画像」で「コマを指定」を選んだ場合
3. に進んでコマを指定

上記以外を選んだ場合、設定完了
「スライドショーを実行する」へ（→ P.112）

3.「コマを指定」の場合、左右キーと上下レバーでスライドショー再生するコマを指定し、実行ボタンで実行します。

指定したコマには☑ が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

実行ボタンで
指定を完了

「スライドショーを実行する」へ（→ P.112）

- 上下レバー中央部の実行ボタンを押すと、スライドショーのコマ指定は終了します。
- 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、画像の指定が解除され、メニュー画面に戻ります。

次ページへ続く

スライドショーを実行する

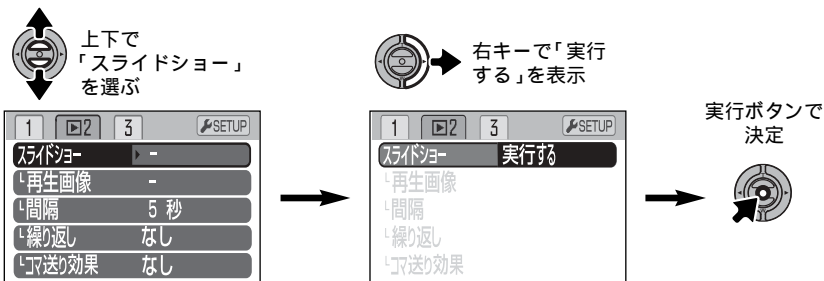
スライドショーの実行は、クイックパネルまたはメニューのどちらからでも行えます。

クイックパネルより

1.クイックパネルで「スライドショー」を実行します。

● メニューで選んだ詳細の設定と同じ設定でスライドショーが実行されます。ただし再生画像のコマ指定の設定は反映されず、全コマのスライドショーが開始されます。

メニューより

1.再生メニューから「スライドショー」→「実行する」を選んで実行ボタンを押します。

2.スライドショーが開始されます。

●実行ボタンを押すと、スライドショーの一時停止・再スタートが繰り返されます。

●静止画（または停止中の動画）で左右キーを押すと、次の画像にコマ送りされます。
●動画再生中に左右キーを押すと、早送り（右キー）または巻戻し（左キー）になります。

●動画や音声付き画像は、上下レバーで音量を調節することができます。

●メニューで設定した間隔より、音声付き画像の再生時間が長い場合は、音声再生終了後すぐに次の画像が表示されます。また動画の場合は、再生終了後すぐに次の画像が表示されます。

3.スライドショーを終えるときは、メニューボタンを押します。

●その後もう一度メニューボタンを押すと、元の再生画面にもどります。

●繰り返しを「あり」に設定した場合はスライドショー再生がずっと繰り返されます。再生を止めるにはメニューボタンを押してください。

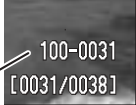
●お気に入り作成した画像のスライドショーを見るには、あらかじめクイックパネルで「お気に入り再生」を選択し、お気に入り画像を表示させておく必要があります（P.102)。

画像のプリント

プリントする方法について

撮影した画像は様々な方法でプリントすることが可能です。

1. ご自分のプリンタで印刷する。

画像をパソコンに取り込んでそこから印刷できます（パソコンとの接続に関してはP.141～）。プリンタによっては、パソコンを介さずに直接カードから印刷したり、カメラとプリンタをUSBケーブルで接続するだけで印刷できるものもあります（USB DIRECT-PRINT → P.119）。

2. ご購入店やカメラ店などにプリントを依頼する

カードをお店にお持ちになると、普通のフィルムと同様にプリントできます。
DPOF対応のプリント店では、DPOF（プリント）指定を利用できます。
お店によっては、フォルダ番号とファイル番号でどの画像を何枚プリントするかを指定する場合もあります。

100-0031
[0031/0038]
フォルダ番号ーファイル番号

3. ネットプリントを利用する

インターネットを介してプリントの依頼をすることができます。Windows®パソコンをお持ちのかたは、付属のCD-ROMからアクセスすることができます（→ P.162）。また、ミノルタホームページ http://www.photo.minolta.co.jp のクラブ・フォトナビゲーションからも同様にプリント依頼ができます。

ここでは、より便利にプリントする方法の1つとしてDPOF（プリント）指定と、カメラとプリンタを直接USBケーブルでつないでプリントする方法（P.119）を紹介します。

DPOF（プリント）指定

DPOF（プリント）指定とは、撮影した画像をご自分のプリンタでプリントする場合や、プリント店にプリントを依頼する際に、あらかじめどの画像を何枚プリントするかをカメラで指定しておくことです。

- プリンタやプリント店がDPOF*に対応している必要があります。

*DPOF＝ ディーポフ、Digital Print Order Formatの略。撮影した画像の中から、プリントしたいコマや枚数等の指定情報を記録メディアに記録するフォーマットのこと。

どの画像を何枚プリントするかを指定することができます。以下の3通りの指定方法があります。

このコマ（1コマ指定）　：再生中の画像を1コマだけDPOF（プリント）指定します。
1コマだけDPOF（プリント）指定を取り消す場合にも使えます。

全コマ（全コマ指定）　：カード内の画像すべてをDPOF（プリント）指定します。

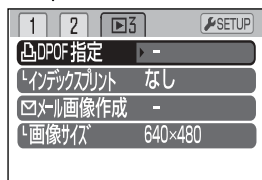
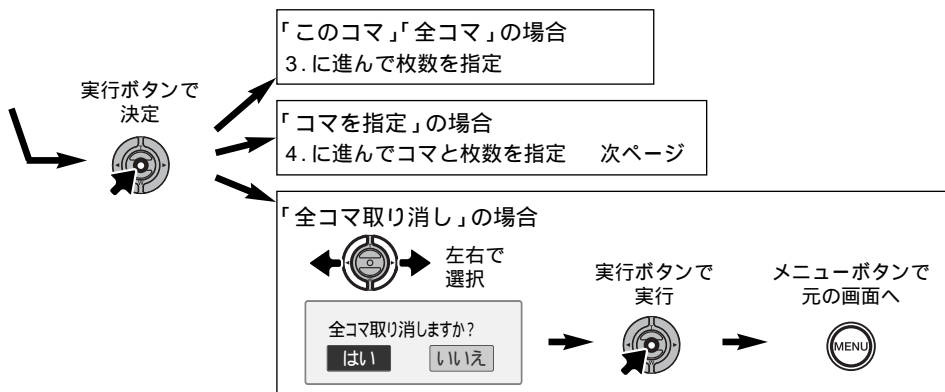
コマを指定　：指定した画像だけをDPOF（プリント）指定します。

全コマ取り消し　：カード内の画像すべてのプDPOF（プリント）指定を取り消します。

● 動画のDPOF（プリント）指定はできません。

1.クイックパネルからメニュー画面を表示させます。

2. ▶3の「DPOF指定」から希望の設定を選び、実行します。

次ページへ続く

3.「このコマ」「全コマ」の場合、上下レバーで希望の枚数を選び、実行ボタンで実行します。

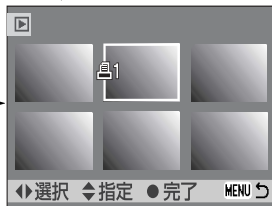
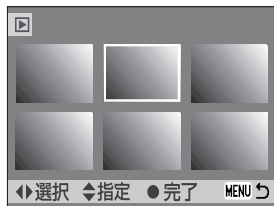
- このコマ（1コマ指定）の場合、現在表示中のコマのプリント枚数を選ぶことができます（0〜9枚）。
- 全コマ（全コマ指定）の場合、全コマとも同じプリント枚数しか選べません（0〜9枚）。

- DPOF（プリント）指定された画像には、液晶モニターに🖶が表示されます。
🖶のみで数字がなければ、DPOF（プリント）指定枚数は1枚です。
🖶の横に数字があれば、その枚数分DPOF（プリント）指定されています（左図の例では3枚）。

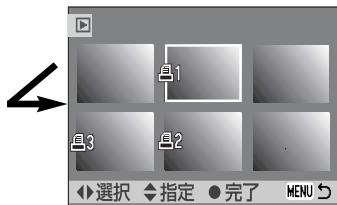
- 全コマ指定後に撮影した画像は、DPOF（プリント）指定されていません。

4.「コマを指定」の場合、左右キーと上下レバーでDPOF(プリント)指定するコマを選び、枚数を設定して、実行ボタンで実行します。

左右で
画像を選択

上下レバーで
枚数を選択

DPOF(プリント)指定したコマには 🖶 が表示されます。
必要なだけこの操作を繰り返します。

- 表示がない場合はプリントされません。
- コマの右側に、動画 (P.86)のアイコンがある場合は、DPOF(プリント)指定できません。

実行ボタンで
指定を完了

- 実行ボタンを押すと、DPOF(プリント)指定が完了します。その後メニューボタンで元の画面にもどります。
- 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、画像の指定が解除され、メニュー画面にもどります。

- DPOF(プリント)指定された画像には、液晶モニターに 🖶 が表示されます。
  🖶 のみで数字がなければ、DPOF(プリント)指定枚数は1枚です。
  🖶 の横に数字があれば、その枚数分DPOF(プリント)指定されています(左図の例では 3枚)。

- 他のデジタルカメラでDPOF(プリント)設定したカードをこのカメラに入れ、このカメラでDPOF(プリント)設定し直すと、他のカメラでの設定はキャンセルされます。

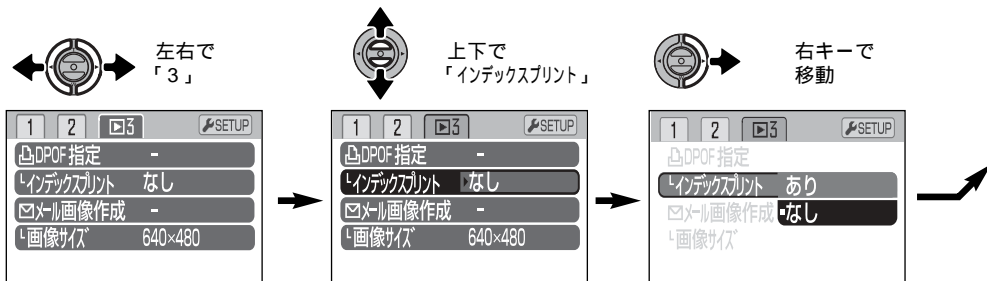
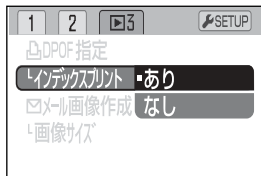
次ページへ続く

インデックスプリント

カードに記録されているすべての画像を一覧表示用としてまとめてプリントすることができます（インデックスプリント）。DPOF（プリント）指定では、1コマずつのプリントと合わせて、このインデックスプリントの有無を指定できます。初期設定ではインデックスプリントはされません。

- 1枚のプリントに印刷される画像の数や印刷内容は、プリンタによって異なります。
- インデックスプリント設定後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。改めて設定してください。

1. クイックパネルからメニュー画面を表示させます（P.88）。

2. ▶3の「インデックスプリント」から希望の設定を選択し、実行します。

上下で「あり/なし」を選ぶ

USB DIRECT-PRINT（USBダイレクトプリント）

USB DIRECT-PRINT（USBダイレクトプリント）対応のエプソンプリンタをお持ちの場合、カメラとプリンタを直接USBケーブルで接続してプリントを行うことができます。

- プリントの途中でカメラの電池が無くなると印刷は中断されます。新品電池かフル充電した電池、または、別売りのACアダプタ ーAC-6Lの使用をおすすめします。
- USB DIRECT-PRINT（USBダイレクトプリント）を行う場合は、はじめにセットアップメニューの「3」の「USB接続」の設定を「カードリーダー」にしてください。詳しくは → P.140

1.カメラとプリンタの電源を入れます。

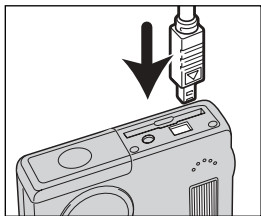
- カメラは、どのモードでも構いません。

2.カメラとプリンタを接続する前に、用紙設定などのプリンタ側の設定を行います。

- 詳しい設定方法については、プリンタの取扱説明書をご覧ください。
- 日付写し込み（→ P.72）付きの画像をプリントする場合は、二重写し込みを防ぐため、プリンタ側での日付写し込み設定は行わないでください。
- 1枚の用紙に複数の異なる画像をプリントする場合は、DPOF（プリント）指定を利用してください。→P.114

3.付属のUSBケーブルの大きいほうのコネクタを、プリンタのUSBポートに差し込みます。

- プリンタ内蔵のポートに直接つないでください。USBハブを経由して接続すると正常に動作しない場合があります。

次ページへ続く

4.付属のUSBケーブルの小さいほうのコネクタを、カメラのUSB/AV出力端子に差し込みます。

●「USB接続中」のメッセージが現れた後、USBダイレクトプリントの画面になります。

5.プリントするコマと枚数を指定します。

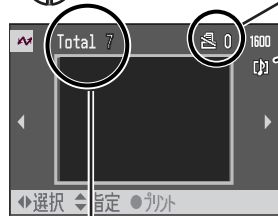
●USBダイレクトプリントの画面で指定する方法と、DPOF(プリント)指定を利用する方法(→ P.122)があります。

●1枚の用紙に複数の異なる画像をプリントする場合は、DPOF(プリント)指定を利用してください。P.122

USBダイレクトプリントの画面で指定する

USBダイレクトプリントの画面で、コマを選んで指定することができます。また、基本メニューでは一括で全コマを指定したり、全コマの指定を取り消すことができます。

コマを選んで指定

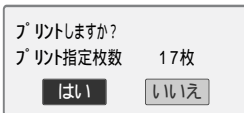
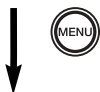
●静止画のみプリント可能です。プリントできない場合は、画像の右上に が表示されます。

●画像の情報が表示されます。

メニューのタブ1で、一括指定が可能です(次ページ)。

●プリントする画像の合計枚数です。999枚を超える場合は、999と表示されます。

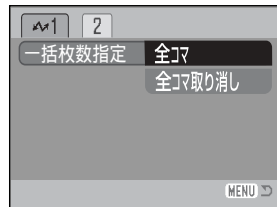
①と②を繰り返してコマと枚数を指定

メニューの一括指定を行わない場合

実行ボタンでプリント実行

6に進んでプリントを開始 →P.123

メニューの基本で一括枚数指定が可能です。メニューでカード内の全コマを指定した後、元の画面に戻って、そこから不必要なコマの指定を取り消したり、すでに行った指定を、全コマ取り消したりすることができます。

全コマ指定

メニューボタンを押し、上下左右キーで「1」→「一括枚数指定」から「全コマ」を選択します。

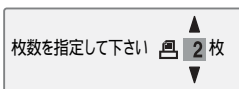
● 静止画全コマがプリント指定されます。

上下で枚数を選択

上下キーで枚数を選択して、中央ボタンで決定します。

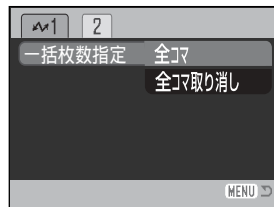
● 全コマとも同じプリント枚数しか選べません。(1～20枚)

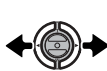
実行ボタンで決定

プリント USBダイレクト

次ページへ続く

全コマ取り消し

メニューボタンを押し、上下レバーと左右キーで「 1」→「一括枚数指定」から「全コマ取り消し」を選択します。

- 左キーで「はい」を選択して、中央の実行ボタンを押すと、全コマの指定が取り消されます。

必要なら、コマを設定し直します。

メニューボタンで元の画面へ

実行ボタンでプリント実行

6. に進んでプリントを開始 → P.123

DPOF(プリント)指定を利用する

USBケーブルでカメラとプリンタを接続する前にDPOF指定（→ P.114）しておく必要があります。インデックスプリントを含む、DPOF（プリント）指定した画像がプリントされます。

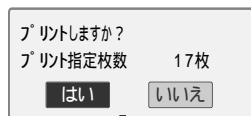
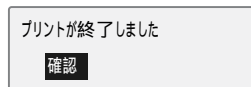
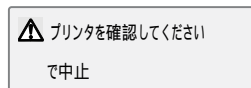
メニューボタンを押し、上下レバーと左右キーで「 2」→「DPOFプリント」→「実行する」を選びます。

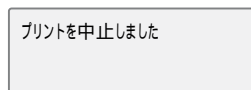
実行ボタンでプリント実行

プリントしますか？
プリント指定枚数　17枚
はい　いいえ

6. に進んでプリントを開始 → P.123

● DPOF（プリント）指定で、インデックスプリント（→ P.118）を「あり」にしている場合は、プリント指定枚数は1枚多く表示されます。
● DPOF（プリント）指定があらかじめされていないときは、「コマ指定がありません」のメッセージが現れます。

6. 以下の「プリントしますか？　プリント指定枚数　XX枚」の画面が現れたら、「はい」を選び、上下レバー中央の実行ボタンを押してプリントを開始します。

● プリント中に実行ボタンを押すとプリントが中止されます。操作**5.**でのコマと枚数の設定は保持されていますので、上下レバー中央の実行ボタンを押すとプリントがもう一度はじめから始まります。

● プリントが終了したら左のメッセージが現れます。上下レバー中央の実行ボタンを押してプリントを終了してください。USBダイレクトプリントを終了するには、カメラとプリンタの電源を切ってUSBケーブルを外してください（プリンタ接続中はカメラの電源を切るのに約2秒ほどかかります）。

● 左のメッセージが現れた場合は、プリンタ側の問題（用紙切れなど）によりプリントできません。プリンタ側の問題を解決するとプリントが再開されます。再開されない場合は、上下レバー中央の実行ボタンを押していったんプリントを中止してください。

ﾌﾟﾘﾝﾄを中止しました

● プリント中や上記エラーメッセージ表示中に実行ボタンを押すと、プリントは途中で中止されます。USBケーブルを外すか、カメラの電源を切ってください。再度プリントする場合は、カメラ側でDPOF（プリント）指定、プリンタ側で用紙等の設定をし直してから、再度119ページからの手順にしたがってプリントを行ってください。

メール画像作成

カードに記録された画像から、Eメール添付に適したサイズの画像(画像サイズ640×480、または、160×120)を作成することができます。元の画像はそのまま残ります。

画像サイズの設定

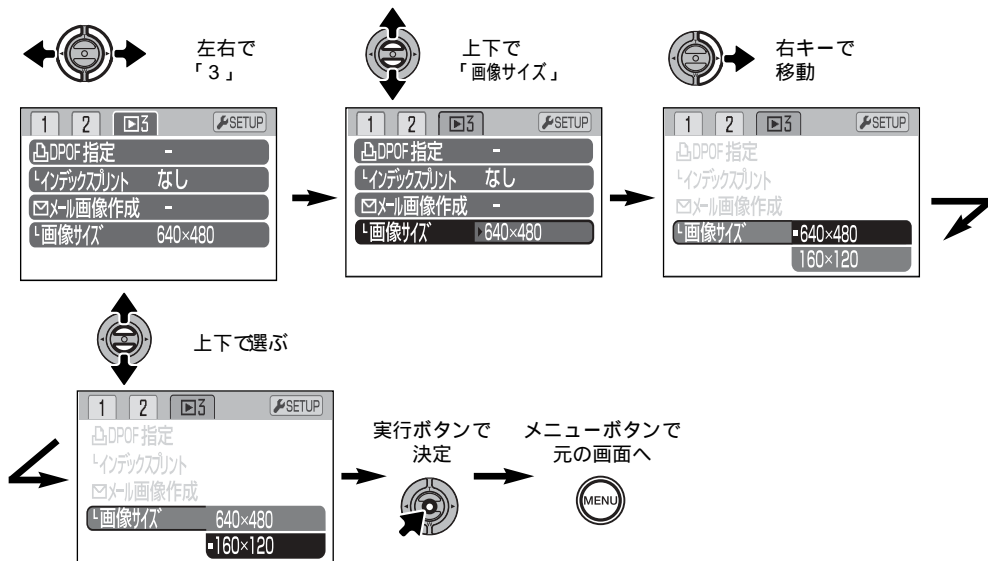
作成するメール画像の画像サイズを2種類のサイズから選ぶことができます。

● 画像サイズは、メール画像作成する前にあらかじめ設定しておく必要があります。初期設定は、640×480です。

640×480:パソコンなどでのEメールに画像を添付する場合

160×120:携帯電話などのメールに画像を添付する場合

1.クイックパネルからメニュー画面を表示させます(P.88)。

2.▶3の「画像サイズ」から希望の設定を選び実行します。

1コマずつメール画像を作成する

1.メール画像を作成したいコマを再生させます。

2.クイックパネルで「メール画像作成」を実行します。

複数の画像をまとめてメール画像にする

メニューでは複数の画像をまとめてメール画像を作成することができます。以下の2つの方法があります。

このコマ（1コマ指定）：　再生中の画像1コマをサイズ変更して作成します。
コマを指定：　指定した画像をサイズ変更して作成します。

1.クイックパネルからメニュー画面を表示させます。（P.88）

2.▶3の「メール画像作成」から希望の設定を選びます。

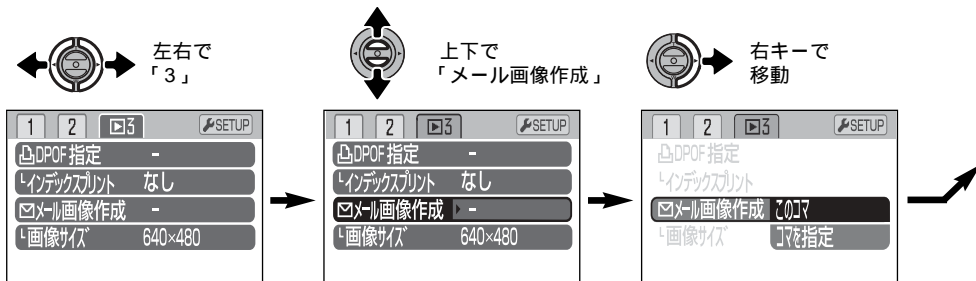
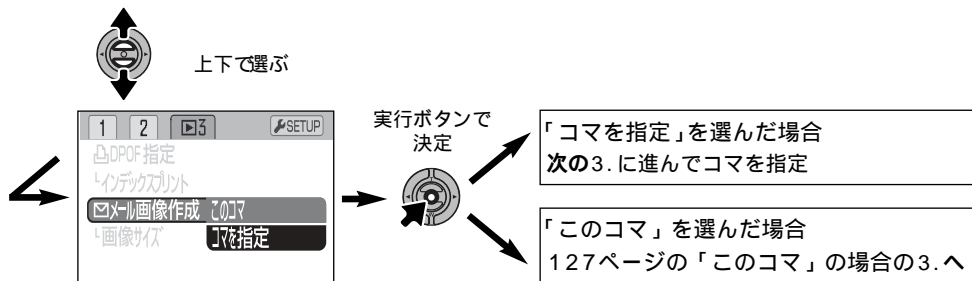
次ページへ続く

メール画像作成

上下で選ぶ

実行ボタンで
決定

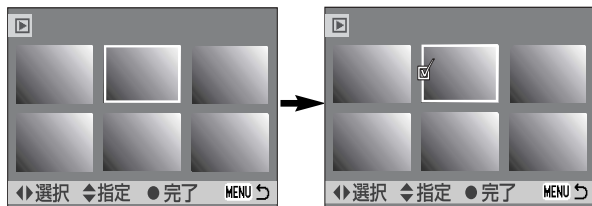
「コマを指定」を選んだ場合
次の3. に進んでコマを指定

「このコマ」を選んだ場合
127ページの「このコマ」の場合の3.へ

「コマを指定」の場合

3.「コマを指定」の場合、左右キーと上下レバーでメールの画像を作成するコマを指定します。

左右で
画像を選択

上レバーで
画像を指定

下レバーで
指定を解除

指定したコマには☑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

- コマの右側に、動画（P.83）、メール画像（P.127）のアイコンがある場合は、作成できません。
- 指定した画像がカードの容量を超える場合は、作成できません。

4.実行ボタンを押してメール画像を作成します。

5.作成完了すると、保存するフォルダ名と確認画面になります。

- 保存するフォルダ名については128、153ページをご覧ください。

101MLTEM に保存しました
確認

6.実行ボタンを押すとメニュー画面にもどります。

- メール画像として作成された画像には、再生時、液晶モニターに ✉ が表示されます。

- 右のメッセージが現れた場合は、指定した画像全体のファイルサイズが大きくてカードの容量を超えています。画像の数を減らして指定し直してください。

画像が多すぎます。
指定し直してください。

- 右のメッセージが現れた場合は、指定した画像がカードの容量を超えるか、動画あるいはすでに作成済みのメール画像で、メール画像を作成することができません。

作成できません

「このコマ」の場合

3.実行ボタンを押してこのコマを選択すると、メール画像を作成します。

4.作成完了すると、保存するフォルダ名と確認画面になります。

- 保存するフォルダ名については128、153ページをご覧ください。

101MLTEM に保存しました
確認

5.実行ボタンを押すとメニュー画面にもどります。

- メール画像として作成された画像には、再生時、液晶モニターに ✉ が表示されます。

- 右のメッセージが現れた場合は、指定した画像がカードの容量を超えるか、動画あるいはすでに作成済みのメール画像で、メール画像を作成することができません。

作成できません

次ページへ続く

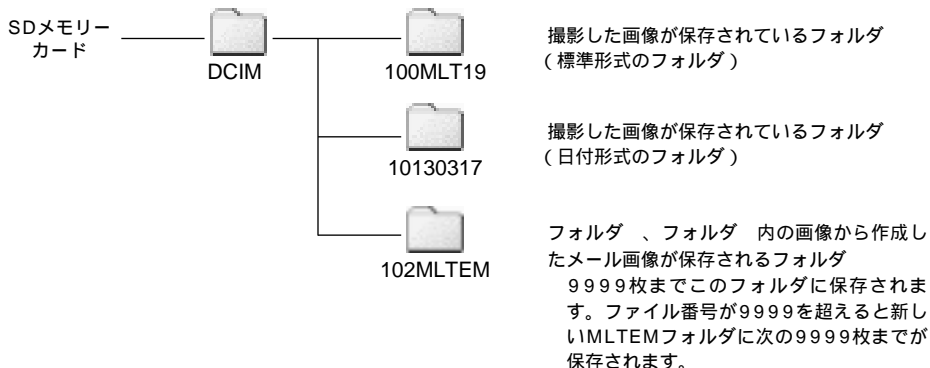
メール用画像の保存されるフォルダ

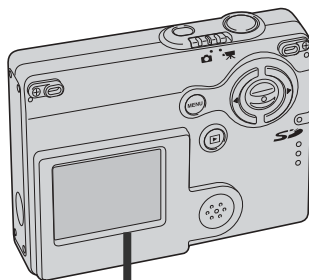
- 作成されるメール画像はエコノミーになります。
- 作成されたメール画像は、カード内に作られる“ **MLTEM** ”という名前のフォルダにまとめて保存されます（MLT=Minolta、EM=E-mail の意味）。

← 撮影した画像が保存されているフォルダ①（標準形式のフォルダ）

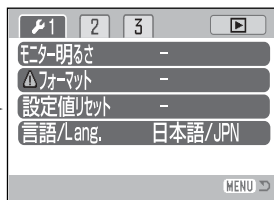
← 撮影した画像が保存されているフォルダ②（日付形式のフォルダ）

← **フォルダ①、フォルダ②内の画像から作成したメール画像が保存されるフォルダ**

- ９９９９枚までこのフォルダに保存されます。ファイル番号が９９９９を超えると新しいMLTEMフォルダに次の９９９９枚までが保存されます。

- ボイスメモやアフレコで音声を付けた画像から作成されたメール画像には、元画像と同じ音声が付けられています。
- すでに作成済のメール画像のファイル、動画からは、メール画像は作成できません。
- プロテクト（誤消去防止の設定）された画像からもメール画像を作成できます。ただし、作成されたメール画像にはプロテクトがかかっていません。
- 元画像とEメール用に作成された画像とはそれぞれ別のファイルとして扱われ、ファイル番号も変わります。たとえば、ある元画像を消去しても、それから作成されたメール画像は消去されずに残っています。

セットアップメニュー

撮影メニューまたは再生メニュー画面の右上にあるSETUPのアイコンを選ぶと、セットアップメニューの画面になります。

● 動画撮影モードのクイックパネルにあるSETUPを選ぶと、同様にセットアップメニュー画面になります。

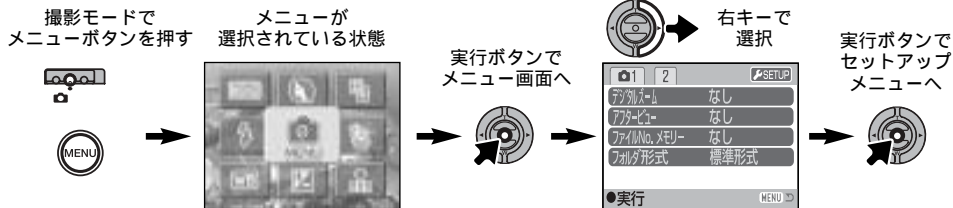
セットアップメニュー画面

カメラ全体の操作に関わる設定を変更することができます。

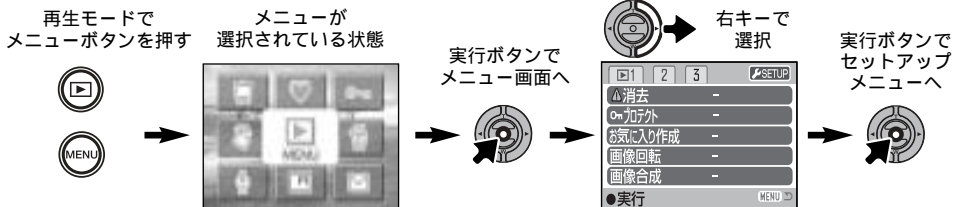
セットアップメニュー

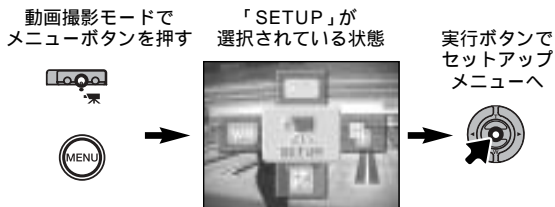
設定方法

1.以下の3つのいずれかの方法でセットアップメニューを表示させます。

撮影メニューから

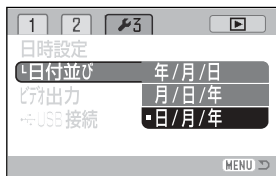
撮影モードのメニュー画面から SETUP を選びます。

再生メニューから

再生モードのメニュー画面から SETUP を選びます。

動画撮影メニューから

動画撮影モードのクイックパネルから「SETUP」を選びます。

メニューボタンで
通常再生にもどる

2.左右キーで「🔧1」「🔧2」「🔧3」のいずれかを選びます。

3.上下レバーで、希望の項目を選びます。

4.右キーで、設定の内容を表示させます。

5.上下レバーで、希望の設定を選びます。

6.中央の実行ボタンを押して、設定を決定します。

次ページへ続く

設定内容

◎は初期設定です。

セットアップメニューで、以下の設定が変更できます。

1

項目	設定
モニター明るさ P.133	実行する
フォーマット P.134	実行する
設定値リセット P.135	実行する
言語／Lang. P.137	◎日本語 English Deutsch Français Español

2

項目	設定
操作音 P.138	◎音1 音2 なし
シャッター音 P.138	◎音1 音2 なし
音量 P.138	3（大きい） ◎2 1（小さい）
オートパワーオフ P.139	30分 10分 5分 ◎3分 1分

3

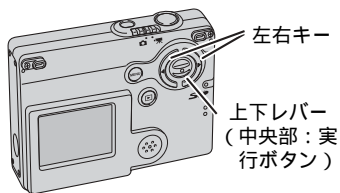
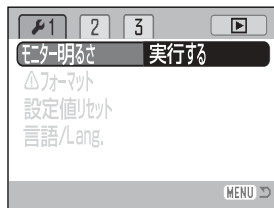
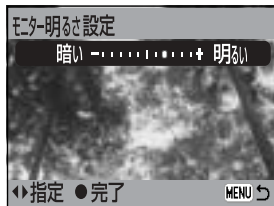
項目	設定
日付設定 P.24	実行する
└日付並び P.139	◎年月日 月日年 日月年
ビデオ出力 P.140	◎NTSC PAL
USB接続 P.140	◎カードリーダー PCカメラ

撮影メニューへ

再生メニューへ

● セットアップメニューでの設定は、カメラの電源を切ったり、モードを切り替えても保存されています。

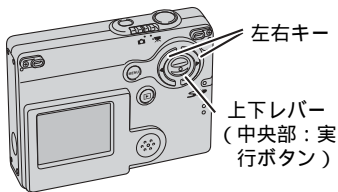
液晶モニターの明るさ調整

液晶モニターの明るさを調整できます。

1.セットアップメニュー→「🔧1」→「モニター明るさ」から「実行する」を選び、実行ボタンを押します。
（P.130）

2.左右キーで明るさを調整します。

3.上下レバー中央の実行ボタンを押します。
- 元の画面にもどります。

- 液晶モニターの明るさを変えても、撮影される画像の明るさは変わりません。画像そのものの明るさを変える場合は、露出補正をお使いください。→ P.57

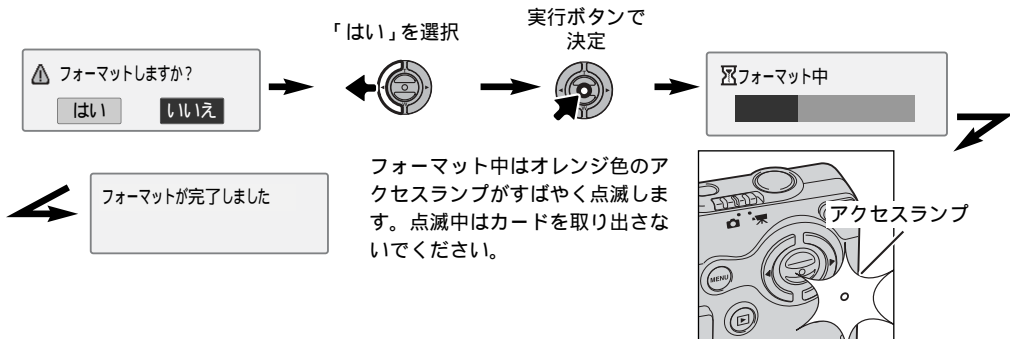
カードの初期化（フォーマット）

カード内の画像やフォルダをすべて消去するときには、カードのフォーマットが便利です。

フォーマットを行なうと、プロテクトをかけた画像も含めてすべての画像が消去されます。

1.フォーマットするカードをカメラに入れます。

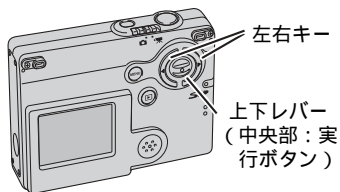
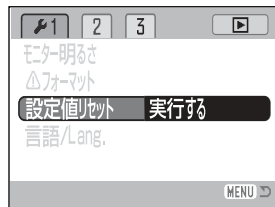
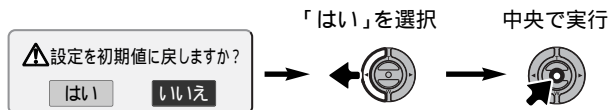
2.セットアップメニュー→「🔧1」→「フォーマット」から「実行する」を選び、実行ボタンを押します。**（P.130）**

3.左右キーと上下レバーで、カードをフォーマットします。

● フォーマット中はオレンジ色のアクセスランプがすばやく点滅します。点滅中はカードを取り出さないでください。

● フォーマットを行なうとプロテクト画像、お気に入り画像も消去されます。お気に入り画像がある場合はメッセージが表示されます。

● カードのフォーマットは、このページの要領でカメラ側で行ってください。**パソコンでカードのフォーマットを行うと、カメラでカードが認識できないことがあります。**カメラ以外でフォーマットした場合は、撮影する前にカメラで再フォーマットしてください。

設定値リセット

カメラのほとんどの設定を、お買い上げ時の初期設定にもどすことができます。

1. セットアップメニュー→「1」→「設定値リセット」から「実行する」を選び、実行ボタンを押します。(P.130)

2.「はい」を選んで上下レバー中央の実行ボタンを押します。

リセットされる内容は以下の通りです。

撮影モード

項目	設定	ページ
フラッシュモード	自動発光	44
ドライブモード	1コマ撮影	47
画像サイズ	1600×1200	52
画質	スタンダード	54
露出補正	±0.0	57
ポートレート	OFF	58
ホワイトバランス	AUTO	59
モノトーン	カラー	60
左右キーカスタマイズ	なし	64
撮像感度	AUTO	66

項目	設定	ページ
オートリセット	あり	68
ボイスメモ	なし	70
日付写し込み	なし	72
デジタルズーム	なし	74
アフタービュー	なし	76
ファイルNo.メモリー	なし	78
フォルダ形式	標準形式	80

再生モード

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
（ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ）間隔	5秒	110
（ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ）繰り返し	なし	110
（ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ）コマ送り効果	なし	110
（画像合成）枠の種類	丸い枠	106
（画像合成）枠の大きさ	中レベルの大きさ	106
（画像合成）枠の位置	中央	106
インデックスプリント	なし	118
メール画像サイズ	640×480	124

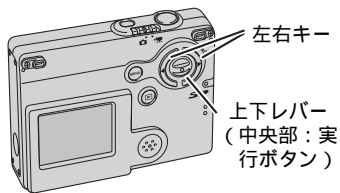
動画撮影

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
画像サイズ	320×240	85
ホワイトバランス	AUTO	85
モノトーン	カラー	85
露出補正	±0.0	85

セットアップメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
モニター明るさ	標準	133
操作音	音1	138
シャッター音	音1	138
音量	2	138
オートパワーオフ	3分	139
USB接続	カードリーダー	140

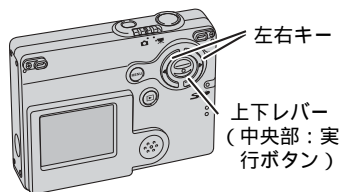
言語設定

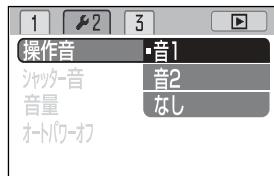
メニューの表示言語を、5カ国語の中から選ぶことができます。

セットアップメニュー →「🔧 1」→「言語/Lang.」から希望の言語を選び、実行ボタンを押します。

- 選べる言語は以下の通りです。
  - ・日本語
  - ・英語（**English**）
  - ・ドイツ語（**Deutsch**）
  - ・フランス語（**Français**）
  - ・スペイン語（**Español**）

言語設定

操作音と音量の設定

カメラを操作すると操作音が出ます。その音量を変えたり音が出ないようにすることができます。シャッター音も3つの中から選べます。

セットアップメニュー→「🔧2」→から希望の項目を選び、実行ボタンを押します。（P.130）

1 🔧2 3 ▶
操作音 ▪音1
シャッター音 音2
音量 なし
オートパワーオフ

操作音	レバーを動かす、ボタンを押すなど、カメラを操作したときに出る音	音1
		音2
		なし（操作音は出ません）

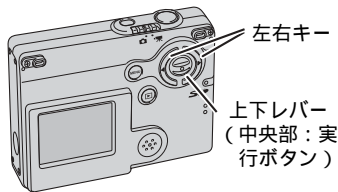
シャッター音	シャッターを切ったときに出る音、ピントが合ったときに出る音	音1（ミノルタCLEのシャッター音）
		音2（電子的なシャッター音）
		なし（シャッター音は出ません）

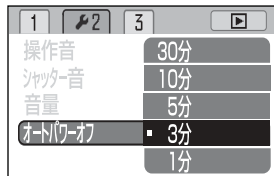
音量	3（大きい）
	2
	1（小さい）

ミノルタCLE

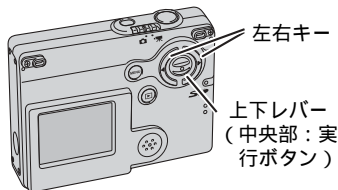
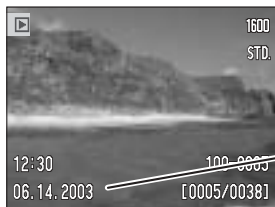
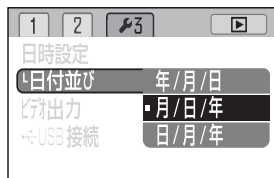
- 音量の設定は、操作音、シャッター音のすべてに反映されます。
- 操作音の設定によって、イルミネーショングリップの光り方のパターンも変わります。操作音なしのときは、起動時、終了時にイルミネーショングリップは光りません。

オートパワーオフ

初期設定では、約3分以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に電源が切れ、液晶モニターの表示が消灯します（オートパワーオフ）。このオートパワーオフまでの時間を、1分、3分、5分、10分、30分のいずれかに変更することができます。

セットアップメニュー→「🔧2」→「オートパワーオフ」から希望の時間を選び、実行ボタンを押します。（P.130）

1 🔧2 3
操作音 30分
シャッター音 10分
音量 5分
オートパワーオフ ▪3分
1分

● オートパワーオフ後に操作を再開したいときは、メインスイッチを押してカメラの電源を入れてください。

日付並び

「年月日」の並び順を、「月日年」または「日月年」に変えることができます。

セットアップメニュー→「🔧3」→「日付並び」から希望の並び方を選び、実行ボタンを押します。（P.130）

● ここでの設定は、再生画面に表示される撮影日や、日付写し込み「あり」で写し込まれる日付の並び順にも反映されます。

撮影日の並び順が月日年になっています
（上図の設定の場合）

※日付・時刻の設定（修正）のしかたは → P.24

ビデオ出力

AV出力端子からのビデオ信号を、「NTSC」と「PAL」とで切り替えることができます。
ビデオの信号形式には数パターンがあり、国によって異なります。日本やアメリカ等ではNTSC、ヨーロッパの多くの国々ではPALが採用され、両者の間には互換性がありません。このカメラの画像を日本国外のテレビで見る際には、その国に合わせた信号形式に設定してください。

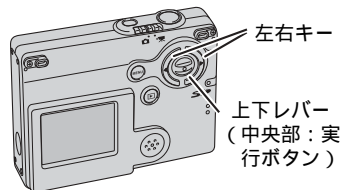
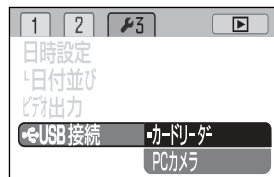
セットアップメニュー →「🔧3」→「ビデオ出力」から希望の設定を選び、実行ボタンを押します。（P.130）

● AVケーブルを接続するとカメラ背面の液晶モニターが消灯します。

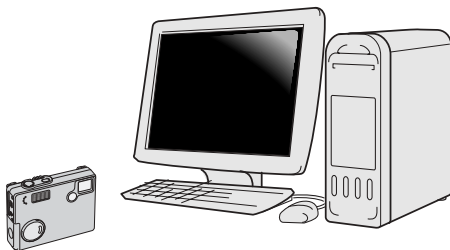
USB接続

USB接続時のカメラの動作モードを設定します。

カードリーダー ： カメラはカードリーダーとして動作します。カメラとパソコンを接続してカード内の画像をパソコンに取り込む場合や、カメラとプリンタを接続してカード内の画像をプリントするとき（USBダイレクトプリント）は「カードリーダー」にします。

PCカメラ ： カメラは画像入力用のカメラとして動作します。Windows Messenger, Windows NetMeeting と連動して、その画面に映像を表示させる場合には「PCカメラ」を選びます。→ P.163～

セットアップメニュー →「🔧3」→「USB接続」から希望の設定を選び、実行ボタンを押します。（P.130）

パソコンへの接続

パソコンをお持ちの場合、撮影した画像をパソコンに取り込み、保存や整理を行なうことができます。

● カメラとパソコンを接続して画像をパソコンに取り込む場合は、セットアップメニューの「🔧3」の「USB接続」の設定を「カードリーダー」にしてください。
→ 前ページ参照

USB接続の動作環境

以下のパーソナルコンピュータ（以下パソコン）をお持ちの場合、付属のUSBケーブルでカメラをパソコンに接続して、画像をパソコンに取り込むことが可能です（USBマスストレージ対応）。

コンピュータ	IBM PC/AT互換機	Apple Macintosh
OS	Windows®XP（Home／Professional）、 Windows®Me、Windows®2000 Professional、 Windows®98/98 Second Edition がインストール済み	Mac OS 9.0～9.2.2、 Mac OS X v10.1.3～10.1.5、 v10.2.1～10.2.6 がインストール済み
その他	USBポート標準装備	USBポート標準装備

- ご使用のOSの環境において、USBポートがパソコンメーカーに動作保証されていることが必要です。詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。
- 同時に使われるUSB機器によっては、正常に動作しない場合があります。
- USBポートは内蔵のみをサポートします。ハブ接続した場合は正常に動作しない場合があります。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

最新の動作環境情報(互換性情報)については、弊社ホームページをご覧いただくが、裏面記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。ホームページの場合は、以下のサイトから互換性情報をご覧ください。
http://www.photo.minolta.co.jp

お持ちのパソコンにより、画像を表示させる方法は異なります。

Windows®XP、Me、2000 Professional の場合

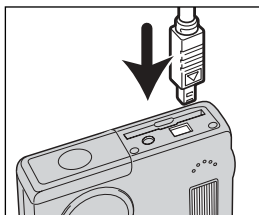
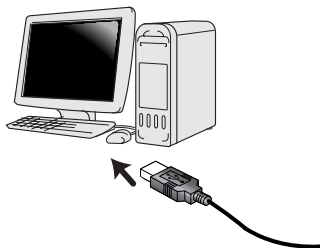
付属のUSBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→ P.144
静止画は、一般的な画像表示ソフトで開けることができます。お持ちでない場合は、付属のCD-ROMより画像表示ソフトDiMAGE ビューアーをインストールしてお使いください。
動画の再生にはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMよりインストールしてください。→ P.160

Windows®98/98 Second Edition の場合

付属のCD-ROMから、パソコンにUSBドライバをインストールする必要があります。→ P.154
その後付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続してお使いください。→ P.144
静止画は、一般的な画像表示ソフトで開けることができます。お持ちでない場合は、付属のCD-ROMより画像表示ソフトDiMAGEビューアーをインストールしてお使いください。
動画の再生にはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMよりインストールしてください。→ P.160

Macintoshの場合

付属のUSBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→ P.144
静止画は、一般的な画像表示ソフトで開けることができます。お持ちでない場合は、付属のCD-ROMより画像表示ソフトDiMAGEビューアーをインストールしてお使いください。
動画再生用のQuickTimeは通常はインストール済みですので、そのまま動画を再生することができます。

パソコンへ接続する（USB接続）

1. パソコンの電源を入れます。

2. カメラにカードを入れ、メインスイッチを押して電源を入れます。

3. USBケーブルの大きいほうのコネクタを、パソコン本体のUSBポートに差し込みます。

● 奥まで確実に差し込んでください。

4. 付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタをUSB端子に差し込みます。

● 奥まで確実に差し込んでください。

● USB接続は、接続する際にはカメラやパソコンの電源を入れたまま行なうことができますが、取り外す際にはP.150の指示にしたがってください。

● USB接続中は、液晶モニター左上に が表示されます。

● USB接続中のメッセージが消えない場合は、USBケーブルが確実に差し込まれているか再度ご確認ください。

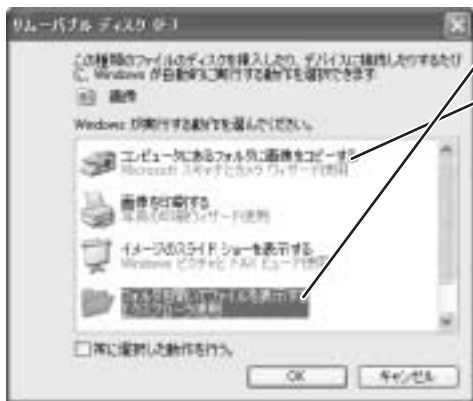
● USB接続中は、カメラを約10分間程度操作しないでいると自動的にカメラがOFFになります（OSによっては「デバイスを停止させないで取り外しました」等のメッセージが現れます）。接続後はすみやかに画像のコピー等の操作を行なってください。コピー等データの交信中は自動的にカメラがOFFになることはありません。また必要な画像をパソコンに取り込んだ後は、USB接続を解除されることをおすすめします。→P.150

● Windows 98／98SE使用時に、接続後［新しいハードウェアの追加ウィザード］の画面で止まった場合は、ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。→ドライバをインストールしていない場合はP.154へ、すでにしている場合はP.157へ

パソコンに画像ファイルをコピー・保存する

画像ファイル（動画ファイルや音声ファイルも含む）を、パソコンにコピーして保存します。

- カメラをパソコンに接続して作業を行なう場合は、カメラの電池容量に注意してください。データ交信中に電池がなくなると、パソコンのエラーやカード内の画像データ破損の原因となります。別売りのACアダプター AC-6Lの使用をおすすめします。
- カメラとパソコンを接続しているとき、特にデータの交信中（アクセスランプ点灯中）には、カメラのメインスイッチを切る、USBケーブルを取り外す、カードや電池を取り出すといった操作は行なわないでください。パソコンのエラーや、カード内の画像データ破損の原因となります。
- カードのフォーマットは、原則としてカメラ側で行なうことをおすすめします（P.134）。パソコンでカードのフォーマットを行なうと、カメラ側でカードを認識しないことがあります。
- パソコンでカード内の画像データのファイル名を変更したり、カメラによる画像データ以外のデータを書き込んだりしないでください。カメラで再生できないだけでなく、カメラの機能に支障をきたすことがあります。

WindowsXPの場合

1. [フォルダを開いてファイルを表示する] を選び、[OK] をクリックします。

- [コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする] でも可能です。その場合はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくは各パソコンメーカーにお問い合わせください。
- パソコンの設定によっては、この画面が現れないことがあります。その場合は、画面左下の［スタート］→［マイ コンピュータ］→［リムーバブルディスク］を開いてください。［リムーバブルディスク］が見つからない場合は、パソコンを再起動してください。

次ページへ続く

2.[DCIM] フォルダをダブルクリックして開きます。

- リムーバブルディスクのドライブ名（左図の例ではF）は、ご使用のパソコンによって異なります。
- [DCIM] 以外のフォルダ（[MISC] 等）は削除しないでください。

3.[100MLT19] 等のフォルダをダブルクリックして開きます。

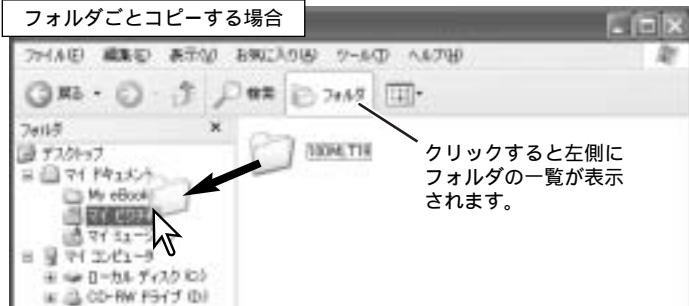
- フォルダ名の初期設定は [100MTL19] です。カメラの設定を変更したりすると、名前が変わったり複数表示されたりすることがあります。※フォルダの詳細は →P.153

フォルダを開けると、[PICT0001] 等の画像ファイルが表示されます。

- お使いのパソコンの設定により、[PICT0001] [PICT0001.JPG] など、拡張子（この場合は ".JPG"）が付く場合と付かない場合があります。※ファイルの詳細は →P.78

4.保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。

- フォルダごとコピーする場合は、[100MLT19] 等のフォルダごと、[マイ ドキュメント] [マイ ピクチャ] 等にコピーします。

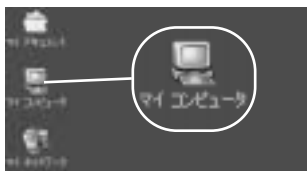
フォルダごとコピーする場合

[100MLT19] を [マイ ピクチャ] にコピーする例

ファイルごとにコピーする場合

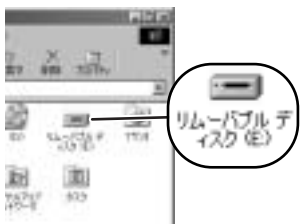
［PICT0001.JPG］を［マイ ピクチャ］にコピーする例

- 画像の見え方は、パソコンの設定によって異なります。

- コピー先のフォルダに同じ名前のファイルが存在すると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめコピー先のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。

Windows2000, Me, 98, 98SEの場合

1.デスクトップ上の「マイ コンピュータ」をダブルクリックして開きます。

- カメラ内のカードが、「リムーバブルディスク」として現れます。（ドライブ名（左下の例ではE）は、ご使用のパソコンによって異なります。）現れない場合は、パソコンを再起動してください。

　※それでも「リムーバブルディスク」が現れない場合は →P.157

2.「リムーバブルディスク」をダブルクリックして開きます。

- 「DCIM」フォルダが現れます。

次ページへ続く

3. [DCIM] フォルダをダブルクリックして開きます。

● その他のフォルダ（[MISC] 等）は削除しないでください。

4. [100MLT19] 等のフォルダをダブルクリックして開きます。

● フォルダ名の初期設定は [100MTL19] です。カメラの設定を変更したりすると、名前が変わったり複数表示されたりすることがあります。※フォルダの詳細は →P.153

フォルダを開けると、[PICT0001] 等の画像ファイルが表示されます。

● お使いのパソコンの設定により、[PICT0001] [PICT0001.JPG] など、拡張子（この場合は ".JPG"）が付く場合と付かない場合があります。※ファイルの詳細は →P.78

5. 保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。

● 同じ名前のファイルをパソコン上の同じフォルダにコピーすると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめパソコン上のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。

● [マイ ドキュメント] 以外に保存する場合は、あらかじめ保存先のフォルダを表示させておきます。

Macintoshの場合

カード内のフォルダを直接開ける場合

Macintoshでは、カードがデスクトップ上に、「NO_NAME」「名称未設定」などの名前で現れます。（それ以外の名前になることもあります。）

● 現れない場合は、パソコンを再起動してください。

1. デスクトップ上のカードアイコンをダブルクリックして開きます。

2. P.148の3～5の手順に従って、カード内のフォルダまたはファイルをパソコンにコピーします。

● ［マイ ドキュメント］の代わりに、任意の保存先を選んでコピーしてください。

イメージキャプチャを利用する場合（Mac OS Xのみ）

Mac OS Xでは、左図のイメージキャプチャ（Image Capture）が起動することがあります。パソコンに画像を保存する場合は、ダウンロード先を選んで、［一部をダウンロード...］または［すべてをダウンロード］をクリックします。その後はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくはパソコンメーカーにお問い合わせください。

接続を解除する

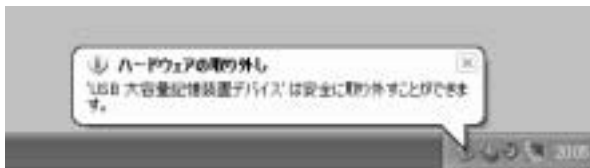
必要な画像をパソコンにコピーした後は、すみやかに以下の要領でUSB接続を解除されることをおすすめします。USB接続した状態でカメラ内のSDカードを交換する場合も、まず以下の操作を行なってください。

Windows XP、Me、2000の場合

お使いのWindows OSによって表示や文言が異なりますが、基本操作は同じです。

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。

2. タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている［ハードウェアの安全な取り外し］または［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］のアイコンを左クリックします。

3. ［USB大容量記憶装置デバイスを安全に取り外します（または停止します）］または［USBディスクの停止］を左クリックします。

4. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、☒または［OK］をクリックします。

5. USBケーブルを取り外します。

6. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

● 複数のUSB機器を接続している場合は、前ページの2で、アイコンの左クリックの代わりに、ダブルクリックまたは右クリックする方法が便利です。以下の手順に沿ってください。
1. ハードウェアの取り外し画面（右図）が現れたら、USBを選択して［停止］をクリックする。
2. ハードウェア デバイスの停止画面が現れたら、カメラを選択して［OK］をクリックする。
3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］または☒をクリックする。
4. USBケーブルを取り外す。

Windows 98または98 Second Editionの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。

2. USBケーブルを取り外します。

3. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

Macintoshの場合

Mac OS 9.xの場合

Mac OS Xの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。

2. カードのアイコンをゴミ箱へ移します。

3. USBケーブルを取り外します。

4. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

パソコンで画像ファイルを開ける

1.画像を保存したフォルダ（マイ ドキュメントなど）をダブルクリックして開けます。

2.見たい画像をダブルクリックします。

- 各ファイルに関連付けされたソフトウェアが自動的に起動します。起動しない場合や意図しないソフトウェアが起動した場合は、先にソフトウェアを起動させ、その後［ファイル］→［開く］を選んでください。

画像の表示・再生に必要なソフトウェア

このカメラで撮影した画像をパソコンで表示させるには、以下のソフトウェアが必要です。

JPEGファイル（エコノミー・スタンダード・ファインで撮影された画像）の場合
最後に「.JPG」が付いているファイルで、一般的な画像表示ソフトで開くことができます。お持ちでない場合は、付属のディマージュビューアCD-ROM内の「DiMAGE Viewer」をインストールしてお使いください。→DiMAGE Viewer使用説明書参照

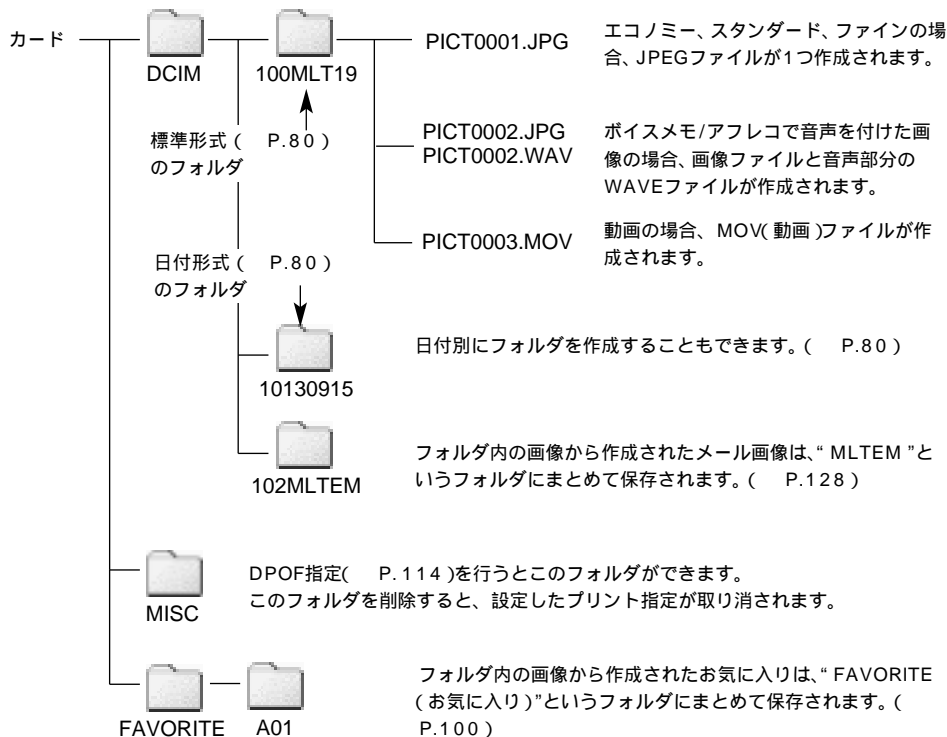
WAVEファイル（音声ファイル）の場合
最後に「.WAV」が付いているファイルで、OSに付属の音声再生ソフト（Media Player、QuickTime Player等）で再生することができます。画像と同時に再生することはできません。

MOVファイル（動画）の場合
最後に「.MOV」が付いているファイルで、再生するにはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。お使いのWindowsパソコンにインストールされていない場合は、付属のディマージュビューアCD-ROM内のQuickTimeをインストールしてお使いください。→P.160

- DiMAGE Viewerで動画を見る場合も、先にQuickTimeをインストールしておく必要があります。
- Macintoshの場合通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

フォルダ構成とファイルの種類

ある画像を撮影すると、画像1つにつき1つまたは2つのファイルが作成され、カード内のフォルダに入れられます。カード内のファイルとフォルダの構成は以下の通りです。

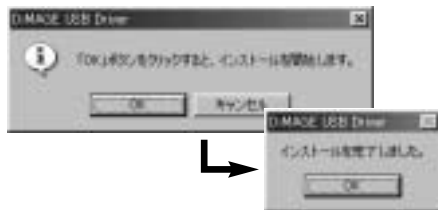
● 以下は、カードの内容をパソコンで表示させたときのフォルダ構成です。

ドライバのインストール（Windows 98/98SEのみ）

Windows 98/98 Second Editionをお使いの場合、付属のディマージュビューアーCD-ROMから、パソコンにドライバをあらかじめインストールしておく必要があります。

1. ディマージュビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

● 左の画面が現れます。

2. ［USBデバイスドライバ インストーラの起動］をクリックします。

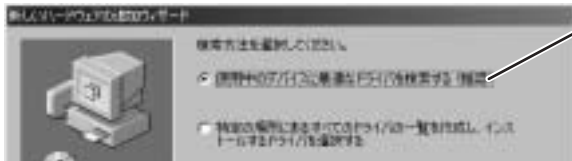
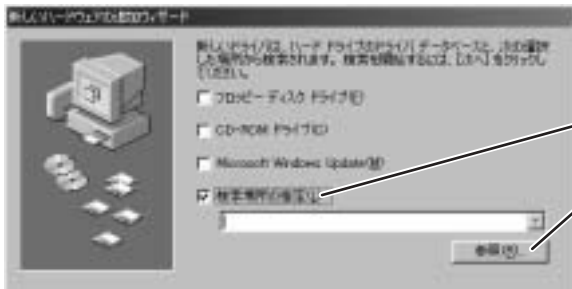
3. 画面の指示に従い、インストールを開始します。

● このカメラ（DiMAGE X20）のWindows 98/98SE用のドライバをインストールした後に、それ以前のDiMAGEシリーズデジタルカメラ用のWindows 98/98SE用ドライバをインストールすると、DiMAGE X20のUSB接続ができなくなることがあります（逆の順序でインストールすると問題ありません）。両方お持ちの場合は、DiMAGE X20のドライバをインストールするだけで、それ以前のカメラのUSB接続もできるようになります。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアーCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

ドライバのインストールが完了すると、続いてカメラとパソコンを接続します。→P.144～

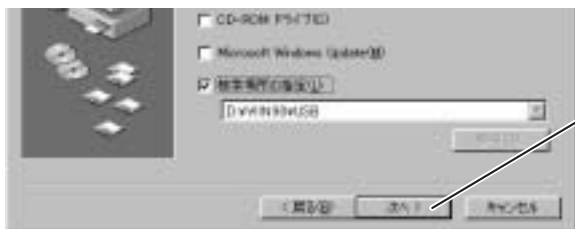
接続時に追加ウィザードが現れた場合

お使いのパソコンの環境によっては、P.154の要領でドライバをインストールして「インストールを完了しました。」のメッセージが表示されても、正しくインストールされていないことがあります。左の画面が表示された場合は、次の手順に沿ってください。

1. [次へ>] をクリックします。

2. [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）] を選択し、[次へ>] をクリックします。

3. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

4. [検索場所の指定] を選択し、[参照] をクリックします。

次ページへ続く

5. 検索場所を、[CD-ROM] − [Win98] − [USB] の順に指定します。

6. [次へ>] をクリックします。

7. ドライバが検出されインストールの準備ができると、[次へ>] をクリックします。

8. インストールが完了すると、[完了] をクリックします。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindows®システムCD-ROMをセットするようメッセージが表示されることがあります。この場合は、DiMAGEビューアーCD-ROM を Windows®システムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

USB接続ができないときは

Windowsをお使いの場合で、カメラをパソコンに接続してもリムーバブルディスクが現れなかった場合は、以下の方法でUSBドライバをいったん削除（アンインストール）し、その後再度接続してください。
弊社ホームページも合わせてご覧ください。　http://www.dimage.minolta.co.jp/

1.カメラにカードを入れ、カメラとパソコンを接続します。→P.176

● パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。

2.［マイコンピュータ］を右クリックし、［プロパティ］を選びます。

● Windows XPの場合は、［スタート］から［マイコンピュータ］を選び、右クリックすると［プロパティ］が現れます。
● Windows Me、2000、98、98SEの場合は、デスクトップ上の［マイコンピュータ］を右クリックすると［プロパティ］が現れます。

Windows XP

Windows Me、2000、98、98SE

次ページへ続く

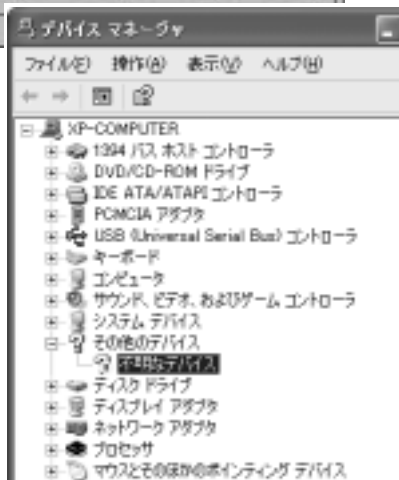
3.「システムのプロパティ」画面から、「デバイスマネージャ」を選びます。

- Windows XP、2000の場合は、「ハードウェア」タブをクリックし、中段の「デバイスマネージャ」をクリックします。
- Windows Me、98、98SEの場合は、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

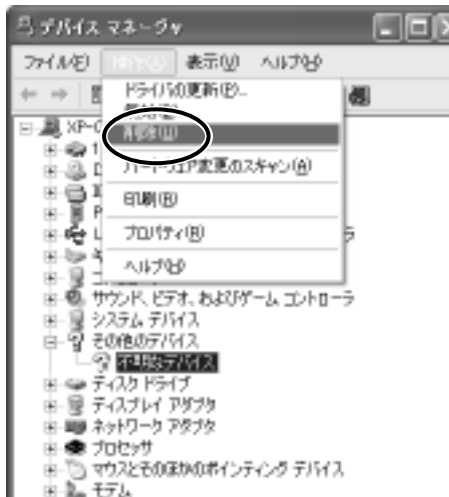
Windows XP、2000

Windows Me、98、98SE

4.「USBコントローラ」「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」「その他のデバイス」のいずれかにカメラ名称（DiMAGE）を含む項目が表示されますので、その項目を選びます。

- 項目の左側に「+」が表示されているときは、まず「+」をクリックしてください。
- カメラ名称を含む項目が見当たらない場合は、「？」または「！」マークで表示されている項目を選んでください。
- 該当する項目が見つからない場合は、P.144の要領でカメラが正しくパソコンに接続されているかどうかを確認してください。

5.4で選んだ項目を削除します。

- Windows XP、2000の場合は、画面上部の「操作」から「削除」を選びます。
- Windows Me、98、98SEの場合は、「削除」をクリックします。

Windows XP、2000

Windows Me、98、98SE

6.削除の確認画面が現れるので、「OK」をクリックします。

7.カメラの電源を切り、パソコンを再起動します。

- Windows XP、2000、Meの場合は、この後P.144の要領で、再度USB接続を行ないます。
- Windows 98/98SEの場合は、この後ドライバをインストールし（P.154）、その後再度USB接続を行ないます（P.144）。

Quick Timeのインストールと使い方

動画の再生にはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。Windows®で、お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMからインストールしてください。

- Macintoshの場合、通常はQuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

QuickTime 5 動作環境

- Pentiumプロセッサを搭載したPC互換コンピュータ
- 32MB以上のメモリ（RAM）
- WindowsXP / 2000 Professional / Me / NT / 98 / 95オペレーティングシステム
- Sound Blasterまたは互換サウンドカード、スピーカーを推奨
- DirectXバージョン3.0以降を推奨

インストール方法

1. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

- 左の画面が現れます。

2. [QuickTime インストーラの起動] をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

操作方法

1. QuickTimeを起動させます。

● QuickTime Playerのアイコンをダブルクリックするか、画面左下の［スタート］から［プログラム（P）］→［QuickTime］→［QuickTime Player］を選択します。

2. ［ファイル（F）］から［新規Playerでムービーを開く…（O）］を選択します。

3. 再生したい動画を選択し、［開く］をクリックします。

4. 動画ファイルを再生します。

操作方法について、詳しくはヘルプをご覧ください。

オンラインラボ工房

付属のDiMAGEビューアーCD-ROMをWindows®パソコンに入れると、オンラインラボ工房をインストールすることができます。[オンラインラボ工房 インストーラの起動]をクリックし、画面指示に従ってインストールしてください。

オンラインラボ工房を起動させてインターネットに接続することにより、以下のサービスが可能です。

・撮影した画像のプリント注文ができます。
・年賀状などのポストカードの作成や注文ができます。
・オンラインアルバムに画像を保管してインターネット上にアルバムが作れます。アルバム上で画像を整理したり、友人に見てもらったり、そこからプリント注文したりすることができます。

ミノルタホームページ http://www.photo.minolta.co.jp のクラブ・フォトナビゲーションでも、上記と同様のサービスを行っています。こちらのサービスは、Windows®でも Macintoshでもご利用になれます。

PCカメラ（Windows®のみ）

カメラがパソコンへの画像入力装置（PCカメラ）になります。Windows NetMeeting, Windows Messengerと連動して、カメラで撮っている映像（動画）を、これらソフトウェアに取り込むことができます。

● ここでは、「Windows NetMeeting」を使用した場合について説明しています。

PCカメラ 動作環境

- ● Pentium II プロセッサ/300MHz以上を搭載したIBM PC/AT互換機
- ● Windows®XP（Home/Professional） / 2000 Professional /Me / 98 Second Edition オペレーティングシステム
- ● 128MB以上（Windows®XPでは256MB以上）の実装メモリ
- ● 200MB以上のハードディスク空き容量
- ● 800×600ドット以上、High Color（16bit）以上（Windows®XPでは 中（16bit）以上）を表示可能なディスプレイ
- ● CD-ROMドライブ（ドライバインストール時に必要）
- ● 動作確認済みアプリケーション
  Windows NetMeeting
  Microsoft Windows Messenger

【Windows NetMeetingの画面】

このカメラで撮っている映像（動画）が表示されます。

ネットワークで接続されている相手もPCカメラ機能を持つ同様のカメラを接続して使用している場合は、相手のカメラの映像（動画）が表示されます。

これにより、相手の顔を見ながら話すなどパソコンをテレビ電話代わりにしたり、簡易なテレビ打ち合わせシステムとして利用することができます。

このカメラをPCカメラとしてパソコンへの画像入力装置に使用する際は、別売りのACアダプターAC-6Lのご使用をおすすめします。

次ページへ続く

PCカメラドライバのインストール

1. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

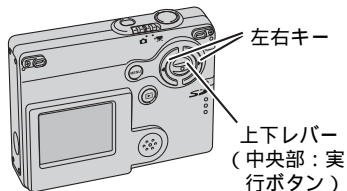
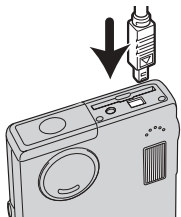
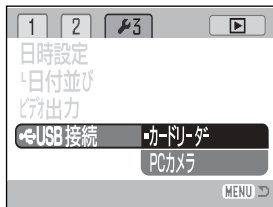
●左の画面が現れます。

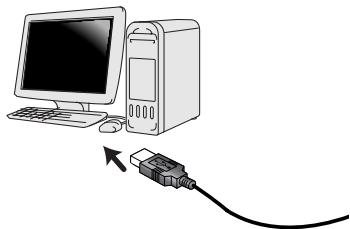
2.［DiMAGE PC cameraドライバインストーラの起動］をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

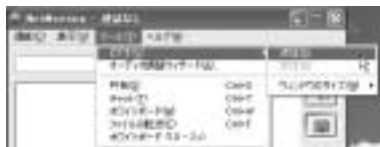
Windows NetMeeting でカメラを使う

1. パソコンの電源を入れます。

2. メインスイッチを押してカメラの電源を入れます。

3. 127ページの要領で、セットアップメニュー →「 3」→「USB接続」から「PCカメラ」を選び、実行ボタンを押します。

4. 付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタをカメラのUSB端子に、大きいほうのコネクタをパソコン本体のUSBポートに差し込みます。

- USBケーブルは奥まで確実に差し込んでください。
- カードは入れなくても構いません。
- 液晶モニター左上に が、上部に ＰＣカメラ が表示され、カメラがPCカメラモードになったことをお知らせします。
- アプリケーション（Windows NetMeeting, Windows Messenger）を起動する前に、カメラをPCカメラモードにしてください。
- 再生モード（▶）でカメラの電源を入れたときは、カメラをPCカメラモードでパソコンに接続すると自動的にレンズ部のカバーが開きます。
- 実行ボタンを押すとカメラの液晶モニターを消すことができます。

5. Windows NetMeeting を起動します。

- 以下、通話の相手先も Windows NetMeeting を使用・すでに起動しており、PCカメラ機能を持つ同様のカメラを接続していることを前提に説明します。

次ページへ続く

6.NetMeeting の [ツール(T)] メニューから [ビデオ(V)] → [送信(S)] を選びます。または、ビデオの開始ボタン **をクリックします。**

- NetMeetingの画面に、このカメラで撮っている映像（動画）が表示されます（左下図）。
- カメラ本体の上下レバーでレンズのズーミングができます。シャッターボタンの半押しでオートフォーカスのピント合わせが行われます。
  NetMeeting の画面からズームとピント合わせの操作をするには → 168ページ

7.通話したい相手のパソコンのIPアドレスを入力して Enter キーを押します。

8.相手に「○○○○ からの通話を受信中」というメッセージが届きますので、[応答する(A)] をクリックしてもらいます。

- 相手のカメラの映像が表示されます。
- NetMeeting の使い方の詳細については、NetMeeting の「ヘルプ」をクリックしてください。
- PCカメラの操作を終了するには、アプリケーション（Windows NetMeeting, Microsoft Windows Messenger）を終了させ、カメラの電源を切ってからUSBケーブルを取り外してください。

※PCカメラモードにしたカメラをパソコンにつないでからアプリケーション（Windows NetMeeting, Microsoft Windows Messenger）を起動してください。アプリケーション（Windows NetMeeting, Microsoft Windows Messenger）を起動してからカメラを接続しても、カメラの映像は表示されません。

※カメラのマイクは使用できません。音声をやり取りしたい場合は、各パソコンに対応したヘッドセット等を別途お買い求めください。

※PCカメラとしてご使用の際は、別売りのACアダプター AC-6Lのご使用をおすすめします。

- 通話する両者が同じアプリケーションを使用する必要があります。一方が Windows Messengerで、もう一方が Windows NetMeeting では、通話がつながりません。
- Windows Messenger は Windows®XP上でのみ動作します。Windows NetMeeting は、Windows®98/Me/2000/XP上で動作します。
- インターネットプロバイダから割り当てられている IPアドレスがプライベートアドレスの場合、プロバイダ側の制限でPCカメラの機能を使えないことがあります。詳細はご契約しているプロバイダにお問い合わせください。
- ブロードバンドルーターを利用して家庭内等でネットワークを構築している場合、プライベート IPアドレスで、かつ、ルーターを使って2台以上のパソコンを使用していると、PCカメラの機能を使えません。
- ブロードバンドルーターを通して Windows Messenger や Windows NetMeeting を使うには、そのルーターがユニバーサル・プラグアンドプレイ（UPnP）に対応している必要があります。詳しくはルーターのメーカーにお問い合わせください。
- ブロードバンドルーターにファイアウォール機能が備わっている場合は、新たにポートの設定が必要になることがあります。詳細はルーターの取扱説明書等をご覧ください。
- PCカメラの機能を十分に活用いただくには、ADSL、CATVインターネット、FTTH（光ファイバー）などの高速回線でお使いいただくことをおすすめします。

PCカメラ（Windows®のみ）（続き）

NetMeeting の画面から、レンズのズーミング（光学/デジタル）とピント合わせが行えます。

1. NetMeetingの画面で［ツール（T）］ー［オプション（O）...］を選び、オプション画面を表示させます（画面が表示されるまで時間がかかることがあります）。

2. ［ビデオ］タブをクリックします。

3. ［ビデオカメラのプロパティ］の［使用するビデオキャプチャカード（C）: ］の箇所に、Minolta DiMAGE PC camera driverと表示されていることを確認し、その下の［ソース（U）...］をクリックします。

4. 表示されるカメラドライバの画面で［カメラ制御］タブをクリックします。

- ［拡大］スライダーを右側にドラッグすると望遠側に、左側にドラッグすると広角側にレンズがズームします（スライダーを操作してから実際にレンズがズームされるまで多少時間がかかります）。
- ［フォーカス］の自動□にチェックを入れると、1回だけピント合わせが行われます。再度ピント合わせを行うには、いったん自動□のチェックを外してもう一度チェックを入れ直します。
  レンズをズームさせた直後にも1回だけピント合わせが行われます。そこでピントが合わなかった場合は、自動□にチェックを入れると、もう1回だけピント合わせが行われます。再度ピント合わせを行うには、いったん自動□のチェックを外してもう一度チェックを入れ直します。

その他

メッセージ表示一覧

メッセージ	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
カードが入っていません	カードを入れてください。（カードなしでの撮影については → P.171）		22
カードがロックされています	SDメモリーカードが書き込み禁止になっている	書き込む場合は、カードのライトプロテクトスイッチを上げてください。	22
カードは使えません	カードをフォーマット（初期化）してください。それでも同じメッセージが出る場合は、カードを交換してください。		134
日付・時刻を設定して下さい	長時間電池を抜いたままにしておいたので、日時の設定が失われた	日時を再設定してください。（お買い上げ時にもこのメッセージが現れます。）	24
画像がありません	画像が記録されていないカードを入れて再生モードにした	画像が入っているカードを入れるか、先に撮影を行なってください。	—
	お気に入り再生で、お気に入り作成した画像がなかった	お気に入り作成で、お気に入りフォルダに画像をコピーしてください。	100
音声を上書きしますか？	すでにボイスメモまたはアフレコが録音されている画像に、新たにアフレコを録音しようとしている	ボイスメモまたはアフレコは一回分しか録音できません。新しい音声を上書きする場合、古い音声は削除されます。	99
プロテクトされています	プロテクト（誤消去防止）をかけた画像を消去しようとしている	消去する場合は、先にプロテクトを解除してから消去してください。	95
カードに空きがありません	カードの容量がいっぱいになっている	画質を変えるか、画像サイズを変えるか、画像を消去してください。	26
コマ指定がありません	消去、スライドショーの再生画像、メール画像作成、お気に入り画像作成で「コマを指定」を選んでコマを指定しなかった	どの画像を処理するかで「コマを指定」を選んだ場合は、上下レバーで対象となるコマを選んでください。	93 110 125 100

メッセージ	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
回転できない画像です	画像回転で動画を指定した	動画以外の画像を指定してください	104
プリンタを確認してください	USB DIRECT-PRINTで用紙切れ等、プリンタ側で問題が起こっている	プリンタの問題を解決してください	119
表示できない画像です	他のデジタルカメラで撮影した画像などは表示できない場合があります。 また、撮影した画像をパソコンで加工すると（名称変更、画像回転等）表示できない場合があります。		ー
画像が多すぎます。指定し直してください。	お気に入り作成、メール画像作成で、カードの空き容量以上の画像を一度に指定した	一度に指定する画像数を減らしてください	100 125

カードなしでの撮影について

このカメラは、カードが入っていなくても静止画の撮影、および、再生のデモンストレーションできます。
この場合、画像はカメラ内部のメモリに一時的に保存されますが、1コマ分の容量しかないので、撮影のたびに新しい画像に書き換えられます。したがって、再生で表示できるのは、一番最後に撮影された画像（連続撮影の場合は最後の画像）のみです。
また、カメラ内部のメモリに一時保存されているので、カメラの電源を切るとこの画像は消去されます。

あれ？と思ったときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
撮影ができない	SDメモリーカードが書き込み禁止になっている	撮影する場合は、ライトプロテクトスイッチを解除してください。	22
撮影・再生ができない	電池が消耗している	充電した電池か新品電池を入れます。	19
	オートパワーオフが作動した	(初期設定では) 約3分間以上何も操作をしないでいると、自動的にカメラの電源がOFFになります。	20
	カメラがパソコンに接続されている	パソコンに接続されている間は、撮影や再生はできません。	—
赤い0000が表示され、「カードに空きがありません」のメッセージが表れシャッターが切れない	カードがいっぱいである	画像サイズまたは画質を変更する、画像を消去する、カードを交換する、のいずれかを行なってください。	22 52 54 92
液晶モニター右下に赤い●が点灯している	オートフォーカスの苦手な被写体 (P.34) を撮ろうとしている	被写体と同じ距離にあるピントの合わせやすいものにピントを合わせて、フォーカスロック撮影を行なってください。	30
	被写体に近づき過ぎている	カメラより約10㎝以上離れたものにしかピントが合いません。	28
	レンズが汚れている	レンズ前面を清掃し、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	—

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
液晶モニター右下に が表示される	フラッシュ発光禁止や夜景ポートレート撮影のため、シャッター速度が遅くなっている	三脚を使って、カメラがぶれないようにして撮影してください。	—
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しなかった	フラッシュ撮影時は、フラッシュ光の届く範囲内で撮影してください。	32
写真がブレている	暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こした	シャッター速度が遅くなるので、三脚を使用してください。フラッシュを使う方法もあります。	—
光源や光がにじんだり、きれいに再現されない	レンズが汚れている	レンズ前面を清掃し、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	—
パソコンがカードを認識しない	USBドライバのインストールに失敗した	一度アンインストールを行なった後、再接続（または再インストール）を行なってください。	157
	USB接続時のカメラ動作が「PCカメラ」になっている	セットアップメニューの「3」→「USB接続」で「カードリーダー」を選んでください。	140

次ページへ続く

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
アプリケーション（Windows NetMeeting, Windows Messenger）でカメラが機能しない	PCカメラドライバがインストールされていない	PCカメラドライバをインストールしてください。	164
	USB接続時のカメラ動作が「カードリーダー」になっている	セットアップメニューの「3」→「USB接続」で「PCカメラ」を選んでください。	140
	アプリケーションを先に起動してからカメラを接続した	カメラを先にPCカメラモードで接続してからアプリケーションを起動してください。	163
カメラが正常に作動しない	カメラの電源を切って電池を一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター等使用時は、一度コードを抜いてください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店または裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにご相談ください。		—

アクセサリー（別売り）

ACアダプター　AC-6L

屋内などAC電源が使える場合は、ACアダプター AC-6Lを使用すると、電池の残りを気にすることなく撮影ができて便利です。

その他

下記のようなケースやストラップもご用意しております。

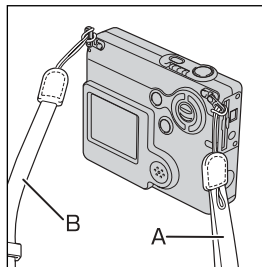
・カメラケース CS-DG400
・カメラケース＆ストラップ CS-DG410
・メタルチェーンネックストラップ NG-DG100
・カメラケース CS-DG500
・本革ネックストラップ NS-DG400/NS-DG200

この使用説明書裏面に記載のホームページで、詳しい情報についてご覧いただけます。

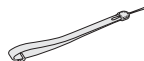
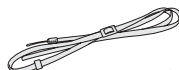
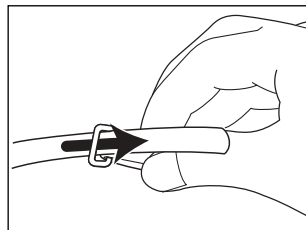
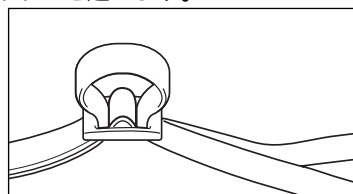
ストラップを付け替える

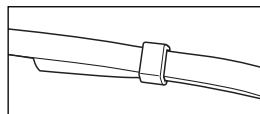
このカメラに同梱されているストラップを用いて、カメラを首から吊り下げてご使用いただけます。

このカメラに同梱されているストラップ

ストラップA

ストラップB

ストラップA＋B

1.片方のストラップ取り付け部に、ストラップBを取り付けます。

ストラップA＋B

1.ストラップAにストラップBを取り付けます。

2.ストラップAの金具にストラップBを通します。

3.ストラップBの止め具に通して固定します。

● お好みの長さに調節できます。

4.ストラップBの先端を遊環に通します。

取り扱い上の注意

電池について

- 電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、新品電池を使う、予備の電池を保温しておいて交互に使う、などに留意してご使用ください。また、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。
- いったん容量切れになった電池は必ず交換してください。容量切れ後、しばらく待って、わずかながら容量が回復した状態で再びカメラの電源を入れると、カメラが正常に作動しない場合があります。

ニッケル水素電池使用時の取り扱い上のご注意

- ニッケル水素電池の特性上、初めてお使いになるときや長期間放置後にお使いになるときは、最初は十分に充電が行われないことがあります。このような場合でも2、3回充電と使用を繰り返すと、本来の性能を発揮します。
- 電池の両電極を乾いた布でよく拭き、汚れを取り除いてからご使用ください。汚れたままだと接触が悪くなり、新品電池でも電池がすぐに使えなくなる場合があります。
- ニッケル水素電池には「メモリー効果」と呼ばれる現象があり、十分に使い切らないうちに充電を繰り返すと、充電完了後の容量が徐々に少なくなります。電池容量がなくなるまで使い切った後、充電を行なうことをおすすめします。
- 電池は、2本を一緒に充電してください。また、このカメラで使用した電池はこのカメラを専用とされることをおすすめします。
- 充電時間がかなり短い場合は、充電が不十分なことがあります。再度充電を行なってください。
- 充電器に付属の取り扱い説明書も合わせてよくお読みください。

使用温度について

- このカメラの使用温度範囲は0～40℃です。
- 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに放置しないでください。
- カメラに急激な温度変化を与えるとカメラ内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度に充分なじませてからカメラを取り出してください。

SDメモリーカード・マルチメディアカードについて

● 下記の場合、記録されたデータが消去（破壊）されることがあります。データの消去については当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。大切なデータは、別のメディア（ハードディスク等）にバックアップを取っておくことをおすすめします。

1. お客様または第三者がカードの使い方を誤ったとき
2. カードが静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
3. カードへのアクセス中（記録中、フォーマット中など）に、カードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
4. カードの耐用回数を超えて書き換えを行ったとき

● カードをフォーマット（初期化）すると、記録されているデータはすべて消去されます。必要なデータは必ずバックアップを取ってください。
● カードには寿命がありますので、長期間ご使用になるとデータの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
● 強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください
● 曲げたり落としたり、強い衝撃や高熱を与えないでください。
● 強い静電気や強い衝撃によってカードが破壊され、データの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
● 端子部に手や金属で触れないでください。
● 熱、水分、直射日光を避けて使用および保管してください。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは精密度の高い技術でつくられています。しかし、極めてわずかながら画素欠けや常時点灯するものがあります。これは故障や異常ではありません。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒いところで使うと、始めは画面が通常より少し暗くなります。カメラ本体内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 液晶モニターに指紋等が付着して汚れたときは、乾いた柔らかい布で、傷などがつかないよう軽くふいてください。

その他

- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- バッグなどに入れて持ち運ぶときは、カメラの電源を切ってください。
- このカメラは防水設計にはなっていません。濡れた手で電池やカードの出し入れや、カメラの操作をしないでください。また湿度の高いところに長時間放置しないでください。
  海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 直接太陽を撮影したり、直射日光の当たる場所に放置しないでください。CCD（撮像素子）の性能を損なうことがあります。
- あなたがデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合があります。なお、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する場合以外はご利用いただけません。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

- カメラの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
- レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

- 涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒にいれるとより安全です。
- 長期間使用しないときは、カメラから電池やカードを取り出してください。
- 防虫剤の入ったタンスなどに保管しないでください。
- 保管中も時々電源を入れて、カメラを作動させてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また予備の電池を携帯することをおすすめします。
- 万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

- 本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有していますが、同等の製品に交換させていただく場合もあります。
- 製品の修理に関しては、お買い上げいただいた販売店にお問い合わせいただくか、修理依頼品を「アフターサービスのご案内」に記載の弊社アフターサービス窓口にお持ち込みください。

主な性能

カメラ本体

有効画素数	約200万画素
撮像素子	1/3.2型総画素数210万画素インターラインCCD、原色フィルター付き
撮像感度	自動（ISO 64～200相当）、ISO64、100、200、400相当
レンズ構成	9群10枚
焦点距離	4.8～14.4㎜（35㎜フィルム換算：37～111㎜相当）
開放絞り値	F2.8～F3.7
撮影距離	0.10m～∞（カメラ前面から）
最大撮影倍率	0.111（35㎜フィルム換算で0.857倍相当）
ズーム方式	電動インナーズーム
フォーカス方式	映像AF方式
フォーカスフレーム	ワイド（5点マルチ）
ホワイトバランス	オート、昼光、曇天、白熱灯、蛍光灯
測光方式	256分割測光
シャッター	CCD電子シャッターと電子制御メカニカルシャッター併用 シャッター速度：4～1/1000秒
露出制御方式	プログラムAE
露出補正	±2EV（1/3EVステップ）
フラッシュ制御方式	プリ発光による発光量制御
フラッシュモード	自動発光/赤目軽減自動発光/強制発光/発光禁止/夜景ポートレート（赤目軽減）
フラッシュ連動距離	広角：約0.10～3.6m、望遠：約0.10～2.7m（カメラ前面から） (撮像感度Auto時)
充電時間	約6.5秒
記録媒体	SDメモリーカード、マルチメディアカード
記録画像ファイルフォーマット	JPEG、Motion JPEG（MOV）　DCF 1.0準拠 DPOF（Ver. 1.1）のプリント機能に対応、Exif 2.2
記録フォルダー形式	標準形式、日付形式

PIM (PRINT Image Matching) II	対応
Exif Print	対応
記録画素数	静止画：1600×1200、1280×960、640×480 動画：320×240、160×120
画質モード	エコノミー、スタンダード、ファイン
モノトーン	モノクロ、セピア、モノトーン(緑)、モノトーン(赤)、モノトーン(青)
ノイズリダクション	自動
Exif. Tag情報	撮影年月日時分、撮影条件 (露出モード、シャッター速度、絞り値、露出補正値、測光方式、フラッシュ発光の有無、撮像感度、ホワイトバランス、焦点距離、光源、デジタルズーム倍率、彩度、35mm換算焦点距離、カラーモード等)、色空間情報、Exifバージョン etc.
消去機能	あり（1コマ/全コマ/コマを指定）
誤消去防止機能	あり（1コマ/全コマ/コマを指定）
フォーマット機能	あり
日付写し込み機能	年月日/月日時刻/なし（選択可能）
液晶モニター	4.0㎝（1.6インチ）デジタルインターフェースTFTカラー　モニター画素数：約85000画素　視野率：約100%　反射防止コーティング
表示内容	撮影時：ライブビュー、各種状態表示 再生時：再生画像（1コマ/インデックス6コマ/動画/音声)、各種状態表示 拡大再生可能：0.2倍刻みで 1.2倍～6.0倍
連続撮影	約1.5コマ/秒（撮影条件に依る）
セルフタイマー	約10秒
マルチフレームショット	あり
セルフポートレート	あり
ポートレート	あり
動画	ファイル形式：Motion JPEG (MOV)　画素数：320×240、160×120　フレームレート：15フレーム/秒　録画時間：無制限（カードの容量に依る）　音声付き (モノラル)
音声	アフレコ (最大15秒)、ボイスメモ (最大15秒)　ファイル形式：WAVE (モノラル)
デジタルズーム	0.1倍刻みで 1.1倍～4.0倍、なし選択可能
操作音	2種類から選択可能、音量調節可能（3段階）
シャッター音	2種類から選択可能

次ページへ続く

主な性能（続き）

メール画像作成機能	あり（640×480、160×120）
画像回転	あり
画像合成	あり
左右キーカスタマイズ	あり
お気に入り画像作成	あり
使用電池	単3形アルカリマンガン乾電池、単3形ニッケル水素（Ni-MH）電池
外部電源	DC 3V（ACアダプターAC6L使用時）
連続動作時間	連続再生：約260分（アルカリマンガン乾電池使用時）当社試験条件による、約300分（2100mAhニッケル水素電池使用時）当社試験条件による
撮影可能コマ数	約110コマ　当社試験条件による（アルカリマンガン乾電池使用時、画像サイズ1600×1200、画質スタンダード、アフタービューなし、ボイスメモなし、フラッシュ50%） 約230コマ　当社試験条件による（2100mAhニッケル水素電池使用時、画像サイズ1600×1200、画質スタンダード、アフタービューなし、ボイスメモなし、フラッシュ50%）
PCインターフェース	USB USB2.0対応機器に接続した場合、Full speed（12Mbps）の転送速度となる
PCカメラ	対応（カメラからの音声出力対応なし）
対応OS（マスストレージ）	WindowsXP(Home,Professional)/Me/2000 Professional/98 Second Edition/98 Mac OS 9〜9.2.2、Mac OS X 10.1.3〜10.1.5/10.2.1〜10.2.6
対応OS（PCカメラ）	WindowsXP(Home,Professional)/Me/2000 Professional/98 Second Edition
USB DIRECT-PRINT	対応
A/V出力	NTSC/PAL切り替え可能
大きさ	86（幅）× 67（高さ）× 23.5（奥行き）㎜
質量（重さ）	約115㌘（電池、記録メディア別）

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引

次ページへ続く

さ

た

な

は

は

ま

や

ら

コニカミノルタ フォトイメージング株式会社

ホームページ

製品の互換性情報や最新版ドライバソフトウェアの提供、よくある質問（FAQ）とその回答などのサポート情報については、弊社カメラ統合ポータルサイトをご覧ください。

http://ca.konicaminolta.jp/

弊社DiMAGEシリーズデジタルカメラの商品情報については、以下のホームページをご覧ください。

http://konicaminolta.jp/dimage/

お客様フォトサポートセンター

弊社製品のデジタルカメラ、フィルムスキャナ、カメラ、交換レンズ、露出計などの機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル　0570-007111

ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL　06-6532-6205

携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX　06-6532-6252

受付時間　10:00～18:00（日・祝日定休）

DiMAGE X20 使用説明書

9223-2787-61　P-D410
Printed in Japan